

# 2021年報

第20号

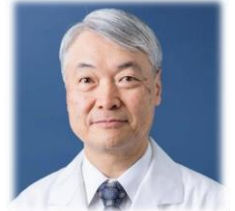
松本市立病院

Matsumoto City Hospital



# 巻頭言

## 一歩前進した節目の年



病院事業管理者 北野喜良

2021年は丑年で、私の好きな言葉に「牛歩千里を行く」ということわざがあります。時間をかけても良いので、一歩一歩着実に進んで大きな目標に到達したいと考えています。

さて、毎年2回上半期と下半期の節目にキックオフ会議を開催して、院長と事業管理者の二人で職員に経営状況と経営方針を説明しています。2021年度の課題は、「感染症指定医療機関としての役割を十分果たす」、「医業収益を増加させる」、「新病院建設の基本計画を策定する」の3点でした。

新型コロナウイルス感染症は2020年2月に始まり(第1波)、7月から第2波、11月から第3波、2021年3月から第4波、7月から第5波、12月末から第6波が押し寄せてきました。当院の取り組みは、中村雅彦著「松本モデル」の挑戦(信濃毎日新聞社)(2021年10月発行)にまとめられています。また、夏川草介著「臨床の砦」(小学館)(2021年4月発行)と「レッドゾーン」(小学館)(2022年8月発行)のドキュメント小説にも描かれています。ご一読いただければ幸いです。

2番目の課題の医業収益は、2021年度は前年より3億2千万円増加しました。新型コロナウイルス感染症に対する病床確保料と合わせ、経常収支は5億4千万円の黒字(経常収支率111.1%)となりました。これにより2013年度決算以来の剰余に転じ、当年度未処分利益剰余金が2億7千万円となり、2014年度から2018年度の累積赤字分が解消されました。

次に、第3課題の新病院建設についてです。病院局による建設基本構想と建設専門者会議からの提言を基に、松本市立病院建設庁内調整会議で検討を重ね、2021年6月に市立病院建設基本計画見直し骨子(案)がまとまりました。その後、住民説明会とパブリックコメントを実施し、意見などを反映させた骨子は9月の市立病院建設特別委員会です承され、建設予定地を波田中央運動広場に決定しました。この骨子を基軸として、経営改革が不可欠であるとの意識を盛り込んだ、新たな「松本市立病院建設基本計画」が2022年3月に策定されました。

こうして2021年度を振り返りますと、総合的に一歩前進できた節目の年度と思われました。ご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

# 年報挨拶

## 新型コロナウイルス感染症診療に明け暮れた1年



病院長 中村雅彦

2021年度は年度初めの4月から、最初の変異株であるアルファ株による第4波に襲われることになりました。4月5日には、宮城、兵庫、大阪の1府2県に初めての「まん延防止等重点措置」が適応され、4月26日には、全国の死者が累計で1万人を超えるなど、感染は拡大の一途をたどり、当院も最大となる入院患者37人受け入れ体制で対応しました。5月10日には、1日の発熱外来受診者が初めて50人を超えるなど外来業務もひっ迫しました。7月になると、リバウンドで感染が再拡大した東京都に4回目の緊急事態宣言が発令され、その後全国にも宣言は拡大され、感染第5波を迎えました。主因は、病原性も強く最強のウイルスとされたデルタ株でした。7月29日には、全国の新規感染者が初めて1万人を超え、青壮年のコロナ肺炎患者が目立ちました。さいわい中和抗体薬が奏功し、重症化を防ぐことができました。10月には第5波も一旦収束し、当院でも11月、12月は新規入院もなく、嵐の前の不気味な静けさを呈していました。

2022年の年明け早々に不安は的中し、前年のクリスマスシーズンから年末年始の人の移動に伴い、新たな変異株であるオミクロン株による第6波を迎えました。オミクロン株は病原性は強くないものの、免疫を回避する能力を有し、きわめて感染力が強く、過去にない指数関数的な患者の増加をもたらしました。高齢者の入院が多く、コロナ肺炎よりも、誤嚥性肺炎や持病のうっ血性心不全、肺気腫など心肺疾患の悪化によるものでした。経口の抗ウイルス薬（モルヌピラビル、パクスロビド）も緊急承認されましたが、高齢者への投与は困難例も多く、ADLの低下に伴い入院期間も長くなり、病床はひっ迫しました。オミクロン株感染は、派生型であるBA.1による最初のピークを迎え、その後、BA.2に置き変わり感染の長期化が懸念されています。

当院は県内に11ある感染症指定医療機関の1つであり、松本広域圏において唯一の公立病院でもあります。2020年2月16日にダイヤモンド・プリンセス号からの患者、また、同月24日には県内で最初となる患者の受け入れ以来、今年度末（2022年3月31日）までに、新規入院患者は816人、延べ入院患者数は6,272人となりました。また発熱外来には、12,156人が受診されました。新たな波が訪れる度に、新型コロナウイルス感染症診療に専念する期間、緊急を要さない手術や、健診ドック、リハビリなどの一般診療は延期、または中止せざるを得ませんでした。なかなかコロナ後が見えない中、いかにしてコロナ診療と一般診療の両立を図るかが課題となりました。

病棟は現在、急性期117床、回復期82床の計199床となっています。特に回復期は、身体機能の改善を目的とした回復期リハビリテーション病棟（33床）と、在宅支援や退院後のサービス調整を進める地域包括ケア病棟（49床）の2つがあります。急性期治療後も安心して療養が継続でき、社会復帰、在宅療養を目指す体制が整っています。少子高齢化が進む中で、治す（急性期）医療から、支える（回復期、慢性期）医療まで、切れ目のない「治

し支える医療」を患者さんに提供できるよう、地域密着型の病院として、今後も近隣の医療機関や介護福祉施設との連携をさらに強化していきたいと考えています。

また、国が進める医療計画の5疾患のうち精神疾患を除く、がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病については当院での診療実績も十分あり、今後も近隣医療機関と連携をとりながら、さらなる充実を図りたいと思います。5事業では、長年、松本広域圏の2次救急告示病院として救急医療を担い、小児科、産婦人科の常勤医師がいる公立病院として、周産期医療にも関わってきました。当院は市街地から離れた中山間地にあり、後方には岐阜との県境にいくつかの診療所が点在します。へき地医療支援、在宅診療をさらに充実するとともに、フレイル対策など特色ある病院作りを目指したいと思います。また、職員が広く地域に出て、住民の健康保持・増進を目的としたヘルスプロモーション事業を松本市や関連企業とも提携し、重点施策として進めていきたいと考えています。

さらに、5年連続の赤字を受け、経営改善を最優先にすることから平成30年に一旦中断された新病院建設計画も、2019年度に黒字化を達成できたことから再開されております。新病院は、「コンパクトな地域密着型の多機能病院」をコンセプトに180床にダウンサイジングしますが、個室割合を50%にし療養環境に配慮され、また感染症に強い病院作りを目指します。来年度は、基本設計が行われ、実施設計を経て2026年（令和8年）度の開院予定でおります。

今後も新型コロナウイルス感染症診療と一般診療を両立し、松本西部地域での基幹病院としての役割を果たしてまいります。変わらぬご支援、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

## 松本市立病院が目指す医療

### ○ 病院の理念

地域の皆様から信頼され、全職員が患者さんとともに歩み、患者さん中心の「満足と安心」・「権利と安全」に配慮した医療を実践します。

### ○ 病院憲章

松本市立病院は、

- ・ 患者さんの権利と尊厳を守り、人間愛を基本とした医療サービスを提供します。
- ・ 常に医学・医療の水準の向上に努め、専門的かつ倫理的で安全な医療サービスを提供します。
- ・ 診療情報の提供および開示を適切に行い、開かれた医療サービスを提供します。
- ・ 近隣の医療・保健・福祉・介護機関との連携を密にし、効果的で効率的な医療サービスを提供します。

### ○ 私たち職員は、下記のような患者さんの権利を尊重します。

- ・ 人格と尊厳を尊重される権利
- ・ 真実を知る権利・真実を知る権利を放棄する権利・プライバシー権
- ・ 診療内容（診療、検査、診断、治療、看護）、予後、病状経過などについて十分な説明を受ける権利
- ・ よく説明を受けた上で自分の判断で、自分の価値観に合う方法を選び自分が選んだ検査・治療・看護・ケアなどを受ける権利とこれらの医療行為を拒否する権利（自己決定権・選択権・拒否権・医師を選ぶ権利・病院を選ぶ権利）
- ・ 最善の医療を受ける権利

### ○ キャッチフレーズ（平成26年度から導入）

～ 笑顔あふれる優しい病院 ～

#### 病院の基本方針

松本市立病院は、松本市が目指す「健康寿命延伸都市・松本」の創造に向け、

- ・ 松本医療圏の基幹病院の一つとして、西部地域を中心に急性期医療と回復期医療を提供します。
- ・ 全人的包括医療を実践するとともに、新しい命の誕生から人生の終末期まで幅広く地域の皆さんを支えます。
- ・ へき地医療支援や感染対策、災害救急医療、予防医療等の政策医療を担う自治体病院として保健や福祉と連携し地域の皆さんの健康を守ります。

## 病院全景



# 目 次

巻頭言  
院長挨拶  
基本理念  
病院全景

## 第1章 総括編

病院概要	1
平面図	6
主要固定資産取得及び設置状況	8
組織図	16

## 第2章 統計編

患者の状況	17
職員・経理（松本市四賀の里クリニック分を除く）の状況	18
医薬品購入状況	21

## 第3章 業務編

### 1 診療部

内科	24
外科	26
整形外科	27
小児科	28
産婦人科	29
泌尿器科	30
脳神経外科	31
麻酔科	32
救急総合診療科	33
健康管理科	34
四賀の里クリニック	35

### 2 看護部

看護部	36
外来	39
3階病棟	40
4階西病棟	41
4階東病棟	42

5階病棟	43
中央手術室・中央材料室	44
腎透析センター	45
訪問看護ステーション	46
3 医療技術部	
薬剤科	47
放射線科	50
検査科	52
リハビリテーション科	55
臨床工学科	57
栄養科	60
4 その他	
地域医療連携室	61
医療福祉相談係	63
退院支援部門	65
医療安全管理室・医療安全委員会・医療安全推進部会	67
感染対策・感染対策チーム・感染対策委員会	69
医療相談室	71
医療秘書室	73
治験管理室	74
臨床教育研修センター	75
在宅医療支援室	78
病院総務課総務	79
経営企画課	80
医事・診療情報管理室	81
5 委員会	
安全衛生委員会	82
医療ガス安全管理委員会	83
NST委員会・給食委員会	84
化学療法管理委員会	85
クリティカルパス委員会	86
検査科業務委員会	87
サービス向上委員会	88
手術室運営委員会	89
情報システム委員会・DPC委員会	91

褥瘡対策委員会 .....	92
生活習慣病予防委員会・診療記録管理委員会 .....	93
診療報酬適性管理委員会 .....	94
透析機器安全管理委員会 .....	95
防災委員会・薬事審議会 .....	96
教育研修委員会 .....	97
輸血療法委員会 .....	101
倫理委員会 .....	102
病院の質向上委員会 .....	103
第4章 新型コロナウイルス（COVID-19）編	
新型コロナウイルス（COVID-19）感染症 .....	106

## 病院概要

- 1 開設者 松本市長 臥雲 義尚
- 2 事業管理者 北野 喜良
- 3 院長 中村 雅彦
- 4 開設年月日 昭和23年10月1日 診療所開設
- 5 敷地面積 16,983平方メートル
- 6 延床面積 15,200平方メートル
- 7 東棟（既存棟） 7,878平方メートル
- 8 西棟（増築棟） 7,322平方メートル
- 9 第1駐車場 2,210平方メートル
- 10 第2駐車場 5,459平方メートル  
（鉄骨造2層3段式38条認定駐車場）  
294台収容可能
- 11 主な設備 コージェネレーション発電機設備 230キロワット／2基
- 12 病床数 199床（一般病棟／193床・感染症病床／6床）

### 13 指定病院等

#### ○指定病院

保険医療機関 生活保護法指定病院 救急告示病院 労災保険指定医療機関 更生医療指定病院  
短期入院協力病院 松本広域圏救急医療連絡協議会認定2次救急医療施設 第2種感染症指定医  
療機関 新医師臨床研修指定病院 日本外科学会専門医修練施設 マンモグラフィ検診施設 日  
本透析医学会認定医制度教育関連施設 日本泌尿器学会専門医教育施設 日本静脈経腸栄養学会  
NST専門療法士教育認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本周産期・新生児医学会周  
産期母体・胎児専門医暫定研修施設 日本乳癌学会関連施設 日本整形外科学会認定研修施設

麻酔科認定病院 日本救急医学会救急科専門医施設 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設 日本手外科学会手外科認定研修施設

#### ○施設基準

機能強化加算 急性期一般入院料1 臨床研修病院入院診療加算 救急医療管理加算 妊産婦緊急搬送入院加算 診療録管理体制加算1 医師事務作業補助体制加算1 急性期看護補助体制加算 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 医療安全対策加算1 感染防止対策加算1 患者サポート体制充実加算 ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算 後発医薬品使用体制加算1 病棟薬剤師業務実施加算1 データ提出加算2 退院支援加算2 入退院支援加算1 認知症ケア加算2 せん妄ハイリスク患者ケア加算 特殊疾患入院医療管理料 小児入院医療管理料4 回復期リハビリテーション病棟入院料1 地域包括ケア病棟入院料1 心臓ペースメーカー指導管理料 がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料 糖尿病透析予防指導管理料 乳腺炎重症化予防・ケア指導料 腎代替療法指導管理料 小児科外来診療料 ニコチン依存症管理料 開放型病院共同指導料（Ⅰ） ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ） 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料1 在宅療養支援病院 在宅療養実績加算2 在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料 在宅血液透析指導管理料 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定 B R C A 1 / 2 遺伝子検査 H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出 検体検査管理加算（Ⅰ）（Ⅱ） 小児食物アレルギー負荷試験 C T 及びM R I 撮影 外来化学療法加算1 無菌製剤処理料 心血管疾患等リハビリ（Ⅰ） 脳血管疾患等リハビリ（Ⅰ） 運動器リハビリ（Ⅰ） 呼吸器リハビリ（Ⅰ） がんリハビリ 人工腎臓 導入期加算2 及び腎代替療法実施加算 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 下肢末梢動脈疾患指導管理加算 組織拡張機による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。） 椎間板内酵素注入療法 乳がんセンチネルリンパ節加算2 及びセンチネルリンパ節生検（単独） ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 医科点数表第2章第10部手術の通則16に揚げる手術（胃瘻造設術、経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術等） 輸血管理料Ⅱ 輸血適正使用加算 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 麻酔管理料（Ⅰ） クラウン・ブリッジ維持管理料 入院時食事療養Ⅰ 食堂加算

#### ○認定

日本医療機能評価(3rd G: Ver1.1)

#### 14 診療科目等

##### ○診療標榜科

内科 小児科 外科 整形外科 産科 婦人科 脳神経外科 泌尿器科 麻酔科 眼科  
耳鼻咽喉科 皮膚科 放射線科 リハビリテーション科 循環器内科 消化器内科  
人工透析内科 糖尿病内科 内分泌内科 呼吸器内科 乳腺外科 肛門外科 消化器外科  
形成外科 ペインクリニック整形外科 救急総合診療科 歯科口腔外科

##### ○専門外来

内科（消化器科、循環器科、腎臓科、糖尿・内分泌科、呼吸器科、血液内科、肝臓内科、神経内科） 外科 小児科（発達障害、予防接種）

##### ○併設施設

訪問看護ステーション 託児所

##### ○人間ドック応需

日帰りドック 1泊2日人間ドック 脳ドック アクティブドック

○健康診断

個人、団体（生活習慣病予防健診、企業、県、市町村等）

○出張診療

松本市奈川診療所

学校医等市町村及び団体健康診断、健康教育、指導

15 沿革

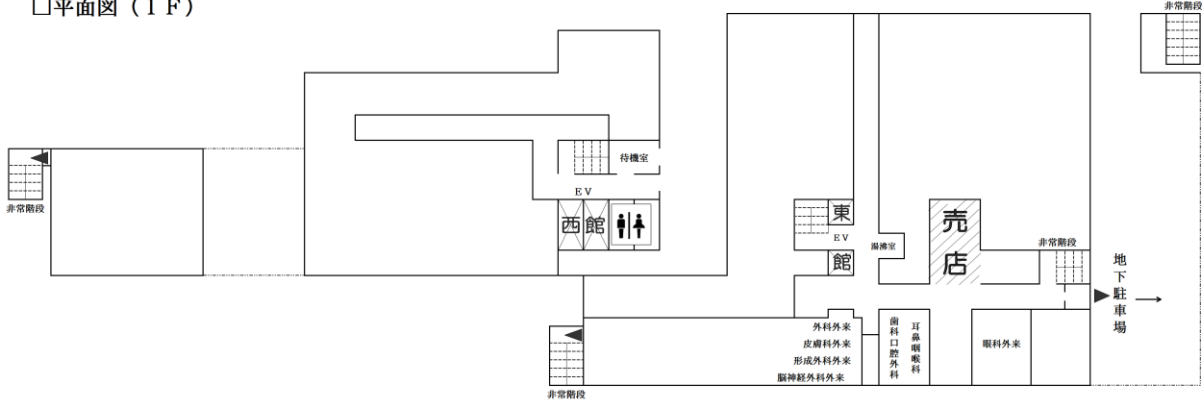
- 昭和23. 10 国保直営波田診療所として開設 病床数4床 内科標榜  
26. 4 病院増築工事  
9 T型病院格上「村立波田病院」 外科標榜 16床増床し、20床  
30. 3 病院増築工事 第1・第2・産婦人科病棟新設 産婦人科標榜 30床増床し、50床  
32. 5 看護婦宿舎新設  
34. 12 耳鼻咽喉科、整形外科標榜  
35. 5 産婦人科病棟増設 6床増床し、56床  
36. 1 小児科標榜  
37. 6 安曇村沢渡出張診療所開設  
39. 1 産婦人科病棟増設 4床増床し、60床  
8 救急告知病院  
41. 3 第3病棟増設 21床増床し、81床（一般病床73床、結核病床8床）  
X P施設新設  
42. 4 本館第1・第2病棟改築工事竣工  
43. 4 地方公営企業法の財務適用  
48. 4 町制施行に伴い「町立波田病院」に名称変更  
11 第5病棟増築（手術室・中央材料室・分娩室・乳児室等移転の及び新設）  
53. 5 病院開設30周年  
54. 4 梓川村立診療所出張診療開始  
56. 6 新病院マスタープラン立案  
10 病院 一般病床150床で移転新築決定  
60. 4 波田総合病院診察開始 外来17科目 一般病床150床 基準看護特2類、  
救急告知指定病院 奈川村診療所出張診療開始 安曇村沢渡出張診療所を安曇村に返還  
61. 4 運動療法施設基準認可  
重症看護室施設基準認可  
63. 4 塩筑医師会救急当番医開始 作業療法室新設同施設基準認可  
平成 元. 10 基準看護得三類承認・訪問看護室開設 医師住宅新設  
2. 4 梓川村立診療所出張診療梓川村に返還  
9 人工透析及びCAPD開始  
10 駐車場棟拡張工事

- 1 1 日本整形外科学会研修施設指定
- 4. 4 オーダリングシステム本格稼動、自動磁気診察券システム導入  
自動カルテ検索機導入
- 7. 1 重症者特別療養環境の届出  
2 総合病院開設10周年  
MRI・MRI棟稼動
- 8. 3 増改築に伴うマスタープラン作成完了
- 9. 10 日本医療機能評価機構一般病院種別A認定
- 10. 12 増築棟完成、医師入力によるオーダーリングシステム稼動
- 11. 3 増改築工事竣工式（敷地面積：28,833㎡、延床面積：17,433㎡、  
構造：鉄骨鉄筋コン造6階建、コージェネレーション発電機230kw2台）  
12 病院開設変更許可、60床増床 210床
- 12. 2 居宅介護支援事業所開設  
3 CRシステム導入  
10 人間ドック4床増床し、214床
- 13. 3 感染症病床改築  
4 松本広域圏救急医療連絡協議会認定2次救急医療施設  
第2種感染症指定医療機関  
6 地域総合連携室設置  
8 感染症病床6床増床し、220床
- 14. 4 日本医療機能評価機構による第三者評価の更新認定の取組  
11 日本医療機能評価機構による第三者評価受審（2月認定）
- 15. 4 訪問看護ステーション併設  
医療安全管理室、医療情報部設置  
8 新医師臨床研修病院指定申請届出、病床区分[一般病床(急性期)]届出  
9 病理室設置  
11 電子カルテシステムオーダーリング稼動開始  
新医師臨床研修病院指定
- 16. 1 日本外科学会専門医制度修練施設指定  
4 開放型病院開始(5床)  
5 電子カルテシステム稼動開始  
病院開設変更許可、5床減床 215床  
6 医療相談室設置  
7 亜急性期入院管理料届出(19床)  
9 透析室拡張工事 18床増
- 17. 4 公営企業法全部適用導入  
総合診療科 開設  
病院会計準則導入  
5 病院移転20周年

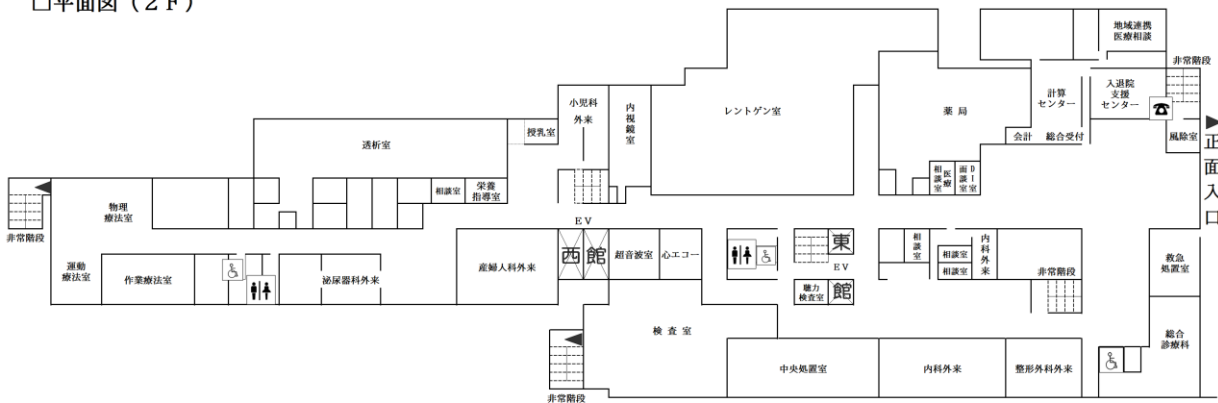
- 19. 3 新築棟(事務室、職員食堂、研修室等)竣工
- 4 外来、人間ドック室等改修改築工事
- 10 病院機能評価 Ver.5.0 認定更新
- 20. 1 職員住宅竣工
- 4 7対1基準看護届出
- 10 開設60年記念事業  
HCU改修
- 22. 3 電子カルテシステム更新により稼働  
3月31日松本市と合併し、市立病院となる
- 24. 4 「松本市立病院」に名称変更
- . 10 病院機能評価 Ver.6.0 認定更新
- 26. 4 回復期リハビリテーション病棟(36床)開設
- 28. 8 病棟再編 5階病棟を急性病棟から地域包括ケア病棟へ転換(49床)
- 29. 10 病院機能評価 3rdG:Ver.1.1 認定更新
- 30. 10 許可病床を215床から199床に縮小し、より地域に密着した在宅療養支援病院へと機能転換
- 令和 2. 3 松本市病院事業管理者設置
- 令和 4. 3 フレイル外来開設

# 平面図

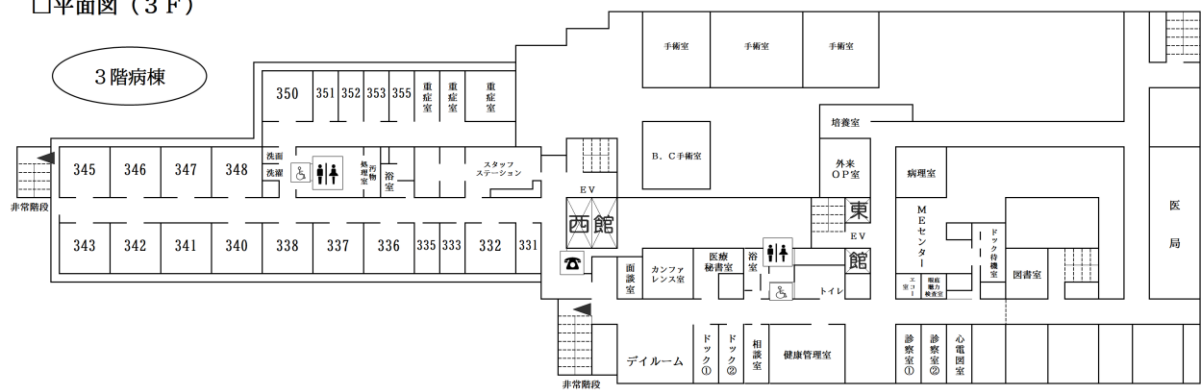
□平面図 (1 F)



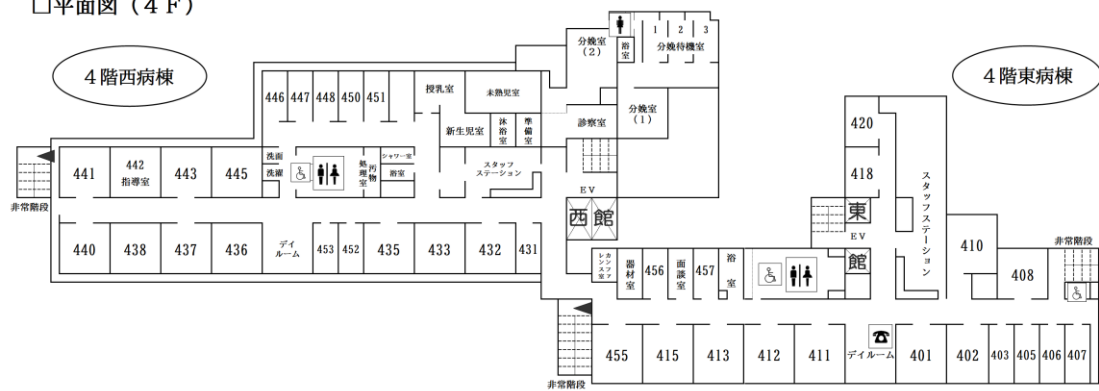
□平面図 (2 F)



□平面図 (3 F)

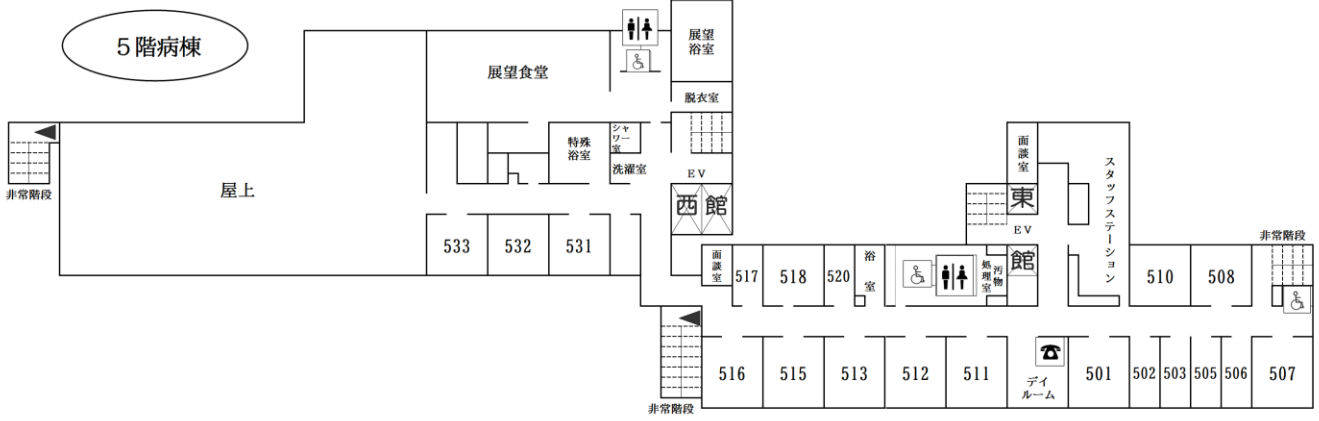


□平面図 (4 F)

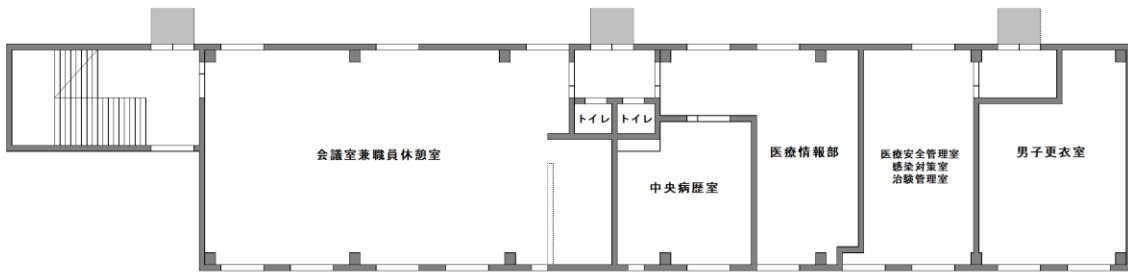


# 平面図

□平面図（5 F）



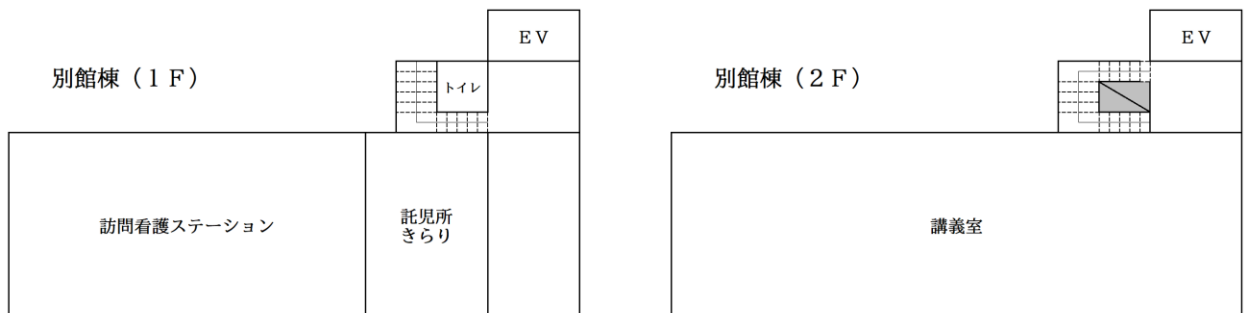
□新築棟（1 F）



□新築棟（2 F）



□平面図（別館棟）



## 主要固定資産取得及び設置状況

品名	数量	取得価額	購入年月日	設置場所
ドアー自動開閉装置	1	3,000,000	1985.03.19	
無影灯（トラック式）	1	4,070,000	1985.03.19	手術室
ブロック積工事	1	5,300,000	1985.03.19	
電話設備工事	1	7,000,000	1985.03.19	
火災報知装置	1	10,300,000	1985.03.19	
衛生器具設備	1	10,500,000	1985.03.19	
造園工事	1	11,000,000	1985.03.19	
舗装工事	1	11,000,000	1985.03.19	
患者監視装置（ICU）	1	14,500,000	1985.03.19	ICU観察室
厨房機器設備	1	16,500,000	1985.03.19	
給湯設備	1	16,510,000	1985.03.19	
舗装工事	1	19,000,000	1985.03.19	
自家発電装置	1	20,300,000	1985.03.19	
汚水処理施設	1	24,500,000	1985.03.19	
受変電設備工事	1	24,500,000	1985.03.19	
エレベーター	1	25,000,000	1985.03.19	
医療ガス庫	1	27,500,000	1985.03.19	
消化設備装置	1	32,370,000	1985.03.19	
排水電気設備	1	38,000,000	1985.03.19	
給水設備	1	46,000,000	1985.03.19	
電気設備工事	1	148,500,000	1985.03.19	
空気調和設備	1	197,500,000	1985.03.19	
駐車場棟	1	238,293,000	1985.03.19	
病院本館（既存棟）	1	880,361,929	1985.03.19	病院本館
人工呼吸装置	1	5,600,000	1987.12.19	3階病棟
人工呼吸装置	1	5,600,000	1988.02.19	5階病棟
作業療法室	1	8,900,000	1988.02.19	作業療法室
移動型外科用イメージ	1	15,500,000	1989.03.19	手術室
多項目自動血球計数装置	1	9,682,000	1990.01.19	検査室
医師住宅（妻帯者用）	2	12,921,000	1990.02.19	
医師住宅設備（単身者用）	1	13,950,000	1990.02.19	
医師住宅（単身者用）	2	15,168,000	1990.02.19	
腹部超音波診断装置	1	6,386,000	1990.03.19	超音波室

高圧蒸気滅菌装置	1	9,579,000	1990.03.19	中央材料室
患者監視装置	1	3,296,000	1990.04.19	5階病棟
ボイラー付属装置	1	3,502,000	1990.04.19	機械室
コンピューター関連電気設備	1	5,150,000	1990.04.19	D I 室 (現在)
アルゴンレーザー	1	6,674,400	1990.04.19	眼科外来
オートエンコードエンボス	1	3,502,000	1991.03.19	事務
全身麻酔機	1	4,350,000	1991.10.19	手術室
駐車場舗装工事	1	3,395,300	1991.12.19	2階駐車場
駐車場整備工事	1	3,800,000	1991.12.19	2階駐車場
駐車場漏水防止工事	1	6,800,000	1991.12.19	2階駐車場
眼科用手術顕微鏡	1	7,550,000	1992.01.19	手術室
眼科用超音波画像診断装置	1	3,350,000	1992.12.19	眼科外来
酸化エチレンガス滅菌装置 (エアレーター付)	1	9,600,000	1993.02.19	中央材料室
回診用 X 線装置	1	4,800,000	1993.04.19	レントゲン室
超音波診断装置	1	4,600,000	1993.12.19	手術室 (体外受精)
腹腔鏡胆嚢摘出術用機材	1	5,095,000	1993.12.19	手術室
全自動尿分析装置	1	3,500,000	1994.01.19	検査室
E G K モニター (4人用)	1	4,200,000	1994.01.19	3階病棟
院内水栓自動化及び水栓取替工事	1	8,252,427	1994.03.19	
病院書類庫 (改造)	1	3,420,000	1994.10.19	
機械設備工事	1	9,520,000	1994.12.19	M R I 棟
M R I 室	1	20,000,000	1994.12.19	M R I 室
M R I 棟建物	1	60,480,000	1994.12.19	M R I 室、Q D I 室、操作室
X 線一般撮影装置	1	8,800,000	1995.01.19	レントゲン室
移動式書類棚	1	3,650,000	1995.03.19	南側新設倉庫
患者監視装置 (手術用)	1	4,850,000	1995.07.19	手術室
超音波白内障手術装置	1	7,745,000	1995.07.19	手術室
患者監視装置	1	3,050,000	1995.08.19	5階病棟
患者監視装置	1	3,050,000	1995.08.19	5階病棟
超音波診断装置	1	4,485,000	1995.08.19	産婦人科外来
人工呼吸装置	1	4,498,000	1995.08.19	3階病棟
冷房設備	1	27,081,848	1995.08.19	機能訓練室
レーザーイメージャー	1	3,000,000	1996.02.19	レントゲン室
自動カルテ検索装置	1	22,800,000	1996.07.19	受付
静的視野計	1	4,300,000	1997.01.19	眼科外来
全身麻酔装置 (患者監視モニター付)	1	11,000,000	1997.01.19	手術室
腹腔鏡セッソー式	1	3,590,000	1997.02.19	手術室

手術台	1	3,300,000	1998.03.19	手術室
ポータブルX線装置	1	3,800,000	1998.03.19	レントゲン室
物品管理システム	1	3,900,000	1998.03.19	事務室
生化学自動分析装置	1	31,400,000	1998.03.19	検査室
超音波診断装置	1	23,500,000	1998.08.19	レントゲン室
薬剤科システム	1	21,680,000	1998.10.19	薬局
食器洗浄機	1	3,772,000	1998.11.19	栄養
特殊浴槽	1	4,090,000	1998.11.19	5階病棟
アームレスX線テレビ装置	1	60,800,000	1998.11.19	レントゲン室
採血管準備装置	1	12,000,000	1998.12.19	中央処置室
血管連続撮影装置	1	55,000,000	1998.12.19	レントゲン室
真空滅菌乾燥機	1	5,000,000	1999.01.19	洗濯室
患者監視装置（セントラルモニター）	1	3,000,000	1999.02.19	3階病棟
患者監視装置（小児用）	1	3,250,000	1999.02.19	4階病棟
患者監視装置（セントラルモニター）	1	3,810,000	1999.02.19	3階病棟
超音波診断装置	1	5,372,000	1999.02.19	4階東病棟
患者監視装置（セントラルモニター）	1	7,020,000	1999.02.19	3階病棟
手洗滅菌装置（3人用）	1	3,000,000	1999.03.19	手術室
聴力検査室	1	3,600,000	1999.03.19	聴力検査室
手術台	1	4,000,000	1999.03.19	手術室
マイクロドライバーシステム	1	5,000,000	1999.03.19	手術室
全身麻酔機	1	9,390,000	1999.03.19	手術室
ハイラスLANシステム	1	12,972,000	1999.03.19	検査室
オーダリングシステム	1	273,221,000	1999.03.19	コンピューター室
駐車場棟（第2）	1	292,985,924	1999.03.19	駐車場
病院本館（増築棟）	1	2,689,536,944	1999.03.19	新館
超音波診断装置	1	6,650,000	1999.09.19	泌尿器科外来
全身麻酔機	1	5,890,000	1999.11.19	手術室
患者監視装置	1	3,589,000	1999.12.19	手術室
CRシステム	1	42,000,000	2000.03.20	レントゲン室
X線テレビ装置（移動型）	1	7,980,000	2001.03.20	手術室
レントゲン一般撮影装置	1	8,300,000	2001.03.20	レントゲン室
感染症病棟（改築）	1	12,500,000	2001.03.20	3階病棟
ファイリングシステム	1	13,980,000	2001.03.20	カルテ庫
超音波診断装置	1	14,400,000	2001.03.20	検査室
電動回診用エックス線撮影装置	1	4,179,000	2001.04.20	レントゲン室
人工呼吸器	1	4,410,000	2001.04.20	MEセンター

生体情報モニター・患者監視装置	1	3,938,000	2001.09.20	手術室
HbA1c測定装置	1	5,565,000	2001.09.20	検査室
聴力検査装置（エイベア）	1	3,927,000	2001.11.20	産科外来
自動カルテ検索システム	1	3,150,000	2002.03.20	事務
全自動超音波洗浄機	1	8,900,000	2002.07.20	中央材料室
電動油圧手術台	1	3,500,000	2002.12.20	手術室
東館受水槽	1	11,340,000	2003.01.20	
血液ガス分析装置	1	3,300,000	2003.02.20	検査室
生体情報モニター	1	4,650,000	2003.02.20	5階病棟
薬剤科システム	1	14,700,000	2003.03.20	薬局
電子カルテシステム	1	220,000,000	2003.03.20	
画像ネットワークシステム	1	18,571,429	2003.09.20	情報部
全自動封入装置	1	3,062,000	2003.10.20	検査室
顕微鏡システム	1	3,300,000	2003.10.20	検査室
凍結組織切片作製装置	1	3,467,000	2003.10.20	検査室
東芝RIS・富士CRオンラインシステム	1	6,300,000	2003.11.20	情報部
臨床検査システム	1	17,280,000	2003.11.20	検査室
スキャナー画像取込システム	1	4,400,000	2003.12.20	情報部
院内情報システムパソコン等	1	4,650,000	2003.12.20	情報部
画像ネットワークシステム	1	9,998,572	2004.01.20	情報部
空調用蒸気ボイラー設備	1	14,200,000	2004.01.20	機械室
診療費自動支払機	1	5,950,000	2004.02.20	事務部
自動染色装置	1	4,350,000	2004.07.20	検査室
訪問看護ステーション	1	45,612,090	2004.10.20	事務部
透析室器械備品	1	76,000,000	2004.12.20	透析室
MR I電源	1	3,200,000	2005.02.20	放射線科
超伝導磁気共鳴断層撮像装置	1	151,995,000	2005.02.20	放射線科
医局改修	1	3,825,000	2005.03.20	医局
人工呼吸器	1	4,680,000	2005.03.20	MEセンター
パソコン増設	1	4,750,000	2005.03.20	情報部
高圧蒸気滅菌装置	3	5,980,000	2005.03.20	中央材料室
透析室拡張	1	56,296,053	2005.03.20	透析室
窓口精算機	1	4,360,000	2005.07.20	事務部
運動負荷試験装置	1	5,410,000	2006.01.20	内科
電子内視鏡システム	1	15,000,000	2006.01.20	内視鏡室
骨密度診断装置	1	3,000,000	2006.03.20	放射線科
超音波診断装置	1	4,250,400	2006.03.20	産婦人科外来

FCR	1	4,700,000	2006.03.20	放射線科
筋電計	1	5,000,000	2006.03.20	検査室
セントラルモニター	1	5,150,000	2006.03.20	5階病棟
内視鏡ビデオスコープ	1	5,896,500	2006.03.20	内視鏡室
乳房X線撮影診断装置	1	11,450,000	2006.03.20	放射線科
乳房X線撮影診断装置	1	12,200,000	2006.03.20	放射線科
画像システムサーバ増設	1	13,500,000	2006.03.20	情報部
全身用コンピュータ断層撮影装置	1	85,300,000	2006.03.20	放射線科
多項目自動血球計数装置	1	8,690,500	2007.01.20	検査室
セントラルステーションモニター	1	3,810,000	2007.03.20	4階西病棟
東棟改修	1	3,560,000	2007.05.20	
高圧蒸気滅菌装置	1	8,300,000	2007.05.20	中央材料室
東棟改修・事務棟増築	1	12,336,385	2007.05.20	
東棟改修・事務棟増築	1	183,605,723	2007.05.20	
病院正面駐車場舗装工事	1	9,460,000	2007.10.20	
職員宿舎	1	59,965,000	2007.12.20	
密閉式自動固定包埋装置	1	3,075,000	2008.03.20	検査室
腹腔鏡システム・消化器内視鏡スコープ	1	22,500,000	2008.03.20	手術室・内視鏡室
生化学自動分析装置及び連結装置・全自動免疫測定装置	1	25,000,000	2008.03.20	検査室
HCUセントラルモニタリングシステム	1	8,925,000	2008.11.06	3階病棟
X線TV装置	1	29,400,000	2009.03.25	放射線科
アンギオ装置	1	57,645,000	2009.03.25	放射線科
超音波診断装置	1	7,350,000	2009.03.25	放射線科
超音波診断装置	1	3,150,000	2009.03.25	泌尿器科外来
超音波診断装置	1	11,917,500	2009.03.25	検査室
上部消化管用内視鏡	1	3,076,500	2009.09.09	内視鏡室
医師住宅土地購入	1	10,495,500	2010.02.26	
薬剤科システム	1	8,948,350	2010.03.25	薬剤科
情報システム	1	228,305,700	2010.03.25	情報部
透析液溶解装置	1	6,615,000	2010.11.10	透析室
膀胱鏡・生物顕微鏡	1	3,927,000	2010.11.25	泌尿器科・検査科
外科X線撮影装置等	1	13,860,000	2010.12.24	外科
生体情報モニタ・麻酔表記録装置	1	3,570,000	2011.02.01	麻酔科
血液ガス分析装置	1	7,203,000	2011.02.21	検査科
経腹用超音波診断装置	1	5,250,000	2011.03.14	産婦人科
電動式万能手術台	1	3,024,000	2011.03.14	手術室

医用テレメータ・ベッドサイドモニタ	1	5,722,500	2011.03.28	臨床工学科
更衣室棟新築	1	47,727,540	2011.05.10	更衣室棟
医用画像支援システムサーバ	1	11,550,000	2011.06.30	情報部
多用途透析用監視装置	4	10,920,000	2011.08.27	透析室
電気メス	1	3,139,500	2011.09.20	手術室
生体情報モニタ	1	3,307,500	2011.10.25	手術室
電子内視鏡システム	1	17,535,000	2011.11.15	内視鏡室
診療ユニット	1	6,195,000	2011.11.15	耳鼻咽喉科
ホルマリン換気装置	1	4,252,500	2011.12.10	病理検査室
パーキングシステム整備	1	5,880,000	2012.01.18	第一・第二駐車場
画像サーバ機器	1	8,316,000	2013.07.01	サーバ室
超音波凝固切開装置	1	3,150,000	2013.07.19	中央手術室
開方式保育器	1	3,045,000	2013.11.15	4階西病棟
超音波診断装置	1	5,985,000	2013.11.21	4階西病棟
会計窓口精算機	1	4,620,000	2013.12.31	医事
財務会計システム機器	1	6,583,500	2014.03.31	事務部
歯科口腔外科診療ユニット	1	16,181,953	2014.04.18	4階東病棟
多用途透析用監視装置	2	5,378,400	2014.05.15	透析室
内視鏡スコープ	1	10,584,000	2014.05.29	内視鏡室
超音波診断装置	5	32,616,000	2014.06.20	放射線科 他
全身麻酔器	1	6,480,000	2014.06.30	中央手術室
生体情報モニタ	1	3,942,000	2014.06.30	中央手術室
高周波手術装置	1	6,480,000	2014.07.04	中央手術室
眼鏡検査測定装置	1	3,834,000	2014.08.07	眼科外来
自動輸液分析装置	1	5,886,000	2014.08.29	検査科
調剤支援システム	1	3,238,466	2014.10.16	サーバ室 他
電子カルテシステム機器	1	126,077,040	2014.10.22	サーバ室 他
電動ベッド	36	12,312,000	2015.01.30	病棟
心エコーシステム機器	1	4,806,000	2015.02.27	サーバ室・心エコー室
回診用X線撮影装置	1	4,644,000	2015.06.01	放射線科
多用途透析用監視装置	5	12,398,400	2015.06.30	腎透析センター
全自動錠剤分包機	1	12,528,000	2015.07.31	薬剤科
器機洗浄機	1	4,989,600	2015.08.02	中央手術室
超音波診断装置	1	5,454,000	2015.08.28	産婦人科外来
除雪用ホイールローダ	1	3,132,000	2015.09.16	事務部
空調冷凍機整備工事	1	23,220,000	2015.11.27	機械室
蒸気ボイラ更新工事	1	23,706,000	2015.10.29	機械室

汚水マンホールポンプ設備改修工事	1	13,716,000	2015.12.04	病院敷地内
W i F i 環境整備工事	1	4,028,400	2015.12.04	各病棟 ほか
多用途透析用監視装置	1	12,366,000	2016.06.30	腎透析センター
全身用C T 撮影装置	1	54,000,000	2016.08.17	放射線科
乳房X線撮影装置	1	30,564,000	2016.08.17	放射線科
超音波診断装置	1	5,400,000	2016.08.17	放射線科
電動ベッド	10	5,068,440	2016.08.31	看護部(病棟)
内視鏡システム	1	34,560,000	2016.09.30	内視鏡室
全身麻酔器	1	9,720,000	2016.11.22	手術室
駐車場システム整備工事	1	19,332,000	2016.12.02	第一・第二駐車場
中央監視装置改修工事	1	24,516,000	2016.12.02	中央監視室ほか
脊椎内視鏡手術システム	1	24,732,000	2016.12.16	整形外科(OP室)
自動血球計算・血液凝固自動分析装置	1	19,008,000	2016.12.25	検査科
高圧蒸気滅菌装置	1	8,208,000	2017.03.24	中央材料室
人工呼吸器	1	3,520,800	2017.04.11	4階西病棟
多用途透析用監視装置	5	13,284,000	2017.06.09	透析室
デジタル脳波計	1	6,998,400	2017.08.25	検査科
十二指腸ビデオスコープ	1	3,229,200	2017.09.05	内視鏡室
全自動散薬分包機	1	4,816,800	2017.10.24	薬剤科
自動視野計	1	6,177,600	2017.12.18	眼科外来
移動型X線Cアーム撮影装置	1	7,560,000	2017.12.13	放射線科・手術室
超音波診断装置	1	16,200,000	2017.12.26	産婦人科外来
腹腔鏡手術システム	1	17,064,000	2018.02.28	産婦人科外来・手術室
無影灯	1	4,158,000	2018.03.30	手術室
上部消化管汎用ビデオスコープ	1	3,769,200	2018.06.05	内視鏡室
多用途透析装置	1	10,206,000	2018.07.02	腎透析センター
心大血管リハビリテーション器機	1	9,389,520	2018.08.31	リハビリテーション科
内視鏡検査装置	1	19,440,000	2019.5.31	内視鏡室
血液濾過透析装置	1	5,605,200	2019.9.17	透析センター
ストレッチャー式シャワー入浴装置	1	4,268,000	2019.10.31	5階病棟
多用途透析用監視装置	5	12,650,000	2019.10.23	透析センター
泌尿器超音波画像診断装置	1	3,455,999	2019.12.13	泌尿器科
器具除染用洗浄機	1	9,328,000	2020.2.28	中央材料室
超音波画像診断装置	1	3,743,960	2020.3.19	4階西病棟
コージェネ発電装置エンジン改修工事	1	13,154,400	2019.8.1	第一電気室
高圧受電設備改修工事	1	4,568,400	2019.8.7	第二電気室
圧縮空気供給装置更新工事	1	1,535,600	2020.9.10	ガス庫

西病棟5階ユニットシャワー設備工事	1	1,188,000	2020.9.30	5階病棟
西病棟3階感染症対策空調設備工事	1	4,620,000	2020.12.11	3階病棟
感染症室陰圧計画空調設備工事	1	10,450,000	2021.2.16	感染症病棟
5階感染症室陰圧計画空調設備工事	1	5,170,000	2021.2.16	5階病棟
PCR検査機	1	3,630,000	2020.5.19	検査科
食器洗浄機	1	3,905,000	2020.7.31	栄養科
血液培養自動分析装置	1	3,080,000	2020.9.17	検査科
個人用多用途透析装置	4	18,920,000	2020.10.20	透析センター
MR I装置バージョンアップ更新	1	18,370,000	2020.10.30	放射線科
自動細菌同定感受性分析装置	1	5,995,000	2020.11.11	検査科
免疫発光測定装置	1	4,950,000	2020.12.22	検査科
電子自動麻酔記録装置	1	15,400,000	2021.1.29	手術室
電動油圧手術台	1	6,490,000	2021.3.18	手術室
超音波診断装置（内科用）	1	7,088,400	2021.3.23	感染症病棟
超音波診断装置（産婦人科用）	1	7,260,000	2021.3.23	感染症病棟
全身用X線CT装置	1	66,000,000	2021.3.29	発熱外来
画像保存用ストレージ装置更新	1	10,120,000	2021.3.29	
陰圧式エアータント	2	14,300,000	2021.3.30	発熱外来
気管支ファイバースコープシステム	1	5,445,000	2021.3.31	感染症病棟
HCUモニタリングシステム	1	19,976,000	2021.3.31	3階病棟
再来受付・自動精算機	2	12,969,000	2021.3.31	受付
ネイタスアルゴ	1	3,388,000	2021.6.16	4階西病棟
血液ガスシステム	1	6,754,000	2021.7.28	検査科
多人数用透析液供給装置	1	8,024,500	2021.8.2	臨床工学科
ナーシングカート・ナーシングピット	15	3,124,000	2021.8.30	4階西、4階東、5階病棟
ベッドサイドモニタ	4	4,389,000	2021.8.31	臨床工学科
汎用超音波画像診断装置	1	10,989,000	2021.9.15	放射線科
医用テレメーター	1	4,239,400	2021.9.16	4階西病棟
胸部一般撮影対応デジタルX線透視撮影システム	1	42,427,000	2021.9.26	放射線科
超音波診断装置	1	7,601,000	2021.9.27	検査科
全自動核酸抽出増幅検査システム	1	12,760,000	2021.9.28	検査科
汎用超音波画像診断装置	1	7,590,000	2021.9.29	整形外科
回診用X線装置	1	23,551,000	2021.9.30	放射線科
上部消化管汎用ビデオスコープ	4	14,520,000	2021.10.12	内視鏡室
ボディーコンポジションアナライザー	1	3,377,000	2021.12.20	フレイル外来
超音波診断装置	1	10,989,000	2021.12.21	検査科
分娩監視セントラルシステム	1	14,080,000	2022.3.29	4階西病棟



## 統計資料

入院・外来延患者数

(人)

	入 院	外 来
令和元年度	62,099	101,514
令和2年度	46,967	90,461
令和3年度	47,642	108,166

診療科別入院延患者数

(人・%)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
内 科	23,390	37.7%	19,249	41.0%	19,041	40.0%
外 科	10,543	17.0%	9,249	19.7%	9,058	19.0%
整形外科	13,221	21.3%	8,954	19.1%	10,240	21.5%
小 児 科	2,318	3.7%	1,361	2.9%	1,189	2.5%
産 科	2,814	4.5%	1,919	4.1%	1,757	3.7%
婦 人 科	285	0.5%	381	0.8%	432	0.9%
泌尿器科	1,335	2.1%	1,025	2.2%	1,243	2.6%
脳神経外科	6,332	10.2%	3,082	6.6%	2,449	5.1%
総合診療科	1,724	2.8%	1,747	3.7%	2,233	4.7%
人間ドック	137	0.2%	-	-	-	-
合 計	62,099	100.0%	46,967	100.0%	47,642	100.0%

診療科別外来延患者数

(人・%)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
内 科	43,296	42.7%	43,597	48.2%	48,412	44.8%
外 科	10,057	9.9%	8,053	8.9%	9,356	8.6%
整形外科	11,545	11.4%	8,771	9.7%	9,419	8.7%
小 児 科	6,884	6.8%	4,234	4.7%	5,993	5.5%
産 科	547	0.5%	468	0.5%	418	0.4%
婦 人 科	4,055	4.0%	3,946	4.4%	4,072	3.8%
眼 科	1,830	1.8%	1,472	1.6%	1,198	1.1%
耳鼻咽喉科	1,471	1.4%	891	1.0%	674	0.6%
皮 膚 科	1,867	1.8%	1,700	1.9%	1,712	1.6%
泌尿器科	4,847	4.8%	4,724	5.2%	5,027	4.6%
脳神経外科	2,591	2.6%	2,226	2.5%	2,225	2.1%
麻 酔 科	133	0.1%	104	0.1%	131	0.1%
形成外科	317	0.3%	268	0.3%	230	0.2%
リハビリ科	39	0.0%	33	0.0%	73	0.1%
歯 科	462	0.5%	283	0.3%	376	0.3%
ドック・検診	6,397	6.3%	5,543	6.1%	5,275	4.9%
そ の 他	5,176	5.1%	4,148	4.6%	13,575	12.6%
合 計	101,514	100.0%	90,461	100.0%	108,166	100.0%

※外来患者数については、集計方法の見直しにより、これまで年報に掲載してきた数値と差異があります。

※「その他」の項目には新型コロナワクチン接種の件数が含まれており、令和3年度より急激に増加しています。

職員の状況

ア 職種別職員構成

(単位:人)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
病院事業管理者	1	1	1
医師	30	30	29
薬剤師	13	11	11
看護職員	157	157	152
医療技術員	58	58	56
事務職員	29	30	30
給食職員	5	0	0
計	293	287	279

(令和4年3月31日)

経理の状況(松本市四賀の里クリニック分を除く)

ア 収益構成

(単位:千円)

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
医業収益	4,393,483	3,680,055	4,034,774
入院収益	2,596,346	2,060,143	2,251,938
外来収益	1,375,347	1,290,457	1,429,107
その他医業収益	421,790	329,455	353,729
医業外収益	556,457	1,401,310	1,332,721
受取利息	1,677	1,492	1,313
国県補助金	8,393	838,753	766,327
他会計補助金	377,781	374,371	374,510
長期前受金戻入	140,933	154,688	165,805
その他医業外収益	27,673	32,006	24,766
訪問看護事業収益	49,230	51,647	51,942
営業収益	48,423	50,748	51,925
営業外収益	807	899	17
居宅介護支援事業収益	3,867		
営業収益	3,867		
特別利益	7,955	14,723	0
総収益	5,010,992	5,147,735	5,419,437

※居宅介護支援事業は令和元年度末で廃止

イ 費用構成

(単位:千円)

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
医業費用	4,695,349	4,652,050	4,669,618
給与費	3,161,894	3,121,812	3,011,439
材料費	698,649	593,540	671,028
経費	567,187	641,386	696,184
減価償却費	205,181	265,049	279,957
資産減耗費	46,446	21,679	1,465
研究研修費	15,992	8,584	9,545
医業外費用	173,141	156,099	163,168
支払利息	30,752	28,084	24,915
患者外給食材料費	1,350		
雑支出	141,039	128,015	138,253
訪問看護営業費用	46,214	49,001	45,108
給与費	44,308	46,918	43,455
経費	1,906	2,083	1,653
居宅介護支援事業営業	5,826		
給与費	5,798		
経費	28		
特別損失	53,758	16,860	0
総費用	4,974,288	4,874,010	4,877,894

※居宅介護支援事業は、令和元年度末で廃止しています。

※患者外給食材料費は、令和2年度からの給食調理業務の委託化に伴い材料費で計上しています。

ウ 令和3年度松本市病院事業損益計算書(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位:円)

1	病院医業収益					
(1)	入院収益	2,251,937,954				
(2)	外来収益	1,429,107,119				
(3)	その他医業収益	353,729,007		4,034,774,080		
2	訪問看護営業収益					
(1)	訪問看護療養収益	45,576,714				
(2)	訪問看護利用収益	6,348,779		51,925,493		
3	診療所医業収益					
(1)	外来収益	141,198,425				
(2)	その他医業収益	29,086,938		170,285,363		
4	病院医業費用					
(1)	給与	3,011,439,097				
(2)	材料	671,027,845				
(3)	経費	696,183,987				
(4)	減価償却費	279,957,417				
(5)	資産減耗費	1,465,033				
(6)	研究研修費	9,544,827		4,669,618,206		
5	訪問看護営業費用					
(1)	給与	43,455,412				
(2)	経費	1,653,349		45,108,761		
6	診療所医業費用					
(1)	給与	109,550,882				
(2)	材料	71,324,975				
(3)	経費	24,349,445				
(4)	減価償却費	8,965,551				
(5)	資産減耗費	512,311				
(6)	研究研修費	2,455		214,705,619		
	医業損失					672,447,650
7	病院医業外収益					
(1)	受取利息	1,313,069				
(2)	一般会計等負担金	374,510,000				
(3)	国県補助金	766,326,990				
(4)	長期前受金戻入	165,804,592				
(5)	その他医業外収益	24,765,769		1,332,720,420		
8	訪問看護営業外収益					
(1)	営業外収益	16,938		16,938		
9	診療所医業外収益					
(1)	受取利息	349				
(2)	一般会計等負担金	51,869,000				
(3)	国県補助金	12,215,000				
(4)	長期前受金戻入	2,098,467				
(5)	その他医業外収益	25,856		66,208,672		
10	病院医業外費用					
(1)	支払利息及び企業債取扱諸費	24,915,233				
(2)	雑支	138,252,603		163,167,836		
11	診療所医業外費用					
(1)	支払利息及び企業債取扱諸費	18,100				
(2)	雑支	8,529,370		8,547,470		1,227,230,724
	経常利益					554,783,074
12	特別利益					
(1)	その他特別利益	0		0		
13	特別損失					
(1)	その他特別損失	0		0		0
	当年度純利益					554,783,074
	前年度繰越欠損金					282,522,621
	その他未処分利益剰余金変動額					0
	当年度未処分利益剰余金					272,260,453

工 令和3年度松本市病院事業貸借対照表(令和4年3月31日)

(単位：円)

<資産の部>

1	固定資産							
(1)	有形固定資産							
	イ 土地							214,930,950
	ロ 建物				4,782,572,733			
	ハ 構築物	価	償	却	累	計		2,383,094,278
	ニ 減価償却累計額							1,425,808,072
	ホ 機械器具	価	償	却	累	計		1,047,480,659
	ヘ 車両運搬具	価	償	却	累	計		2,383,938,529
	ヘ 建設仮勘定	価	償	却	累	計		1,571,445,595
								25,405,575
								16,335,266
								9,070,309
								24,461,927
								3,838,761,988
(2)	投資資産							
	イ 長期貸付金							6,840,000
								6,840,000
2	流動資産							
(1)	現金預金							2,052,967,867
(2)	未収金							724,906,972
(3)	貯蔵品							19,339,873
(4)	貸倒引当金							△ 2,530,000
								2,794,684,712
								6,640,286,700

<負債の部>

3	固定負債							
(1)	企業債							1,361,114,275
(2)	引当金							
	イ 退職給付引当金							1,195,620,231
								2,556,734,506
4	流動負債							
(1)	未払金							406,798,944
(2)	企業流動負債							318,783,026
(3)	その他流動負債							20,435,804
(4)	引当金							
	イ 賞与引当金							176,310,000
	ロ 法定福利費引当金							32,540,000
								954,867,774
5	繰延収益							
(1)	長期前受金額							2,283,736,473
(2)	収益化繰延収益							△ 977,013,694
								1,306,722,779
								4,818,325,059

<資本の部>

6	資本金							1,263,613,561
7	剰余金							
(1)	資本剰余金							
	イ 再評価積立金							250,075
	ロ 国庫補助金							2,046,952
	ハ 寄附金							7,889,600
	ニ 資本剰余金							2,311,000
								12,497,627
(2)	利益剰余金							
	イ 繰越欠損金							282,522,621
	ロ 減価償却積立金							163,590,000
	ハ 建設改良積立金							110,000,000
	ニ その他未処分利益剰余金変動額							0
	ホ 当年度純利益							554,783,074
								545,850,453
								558,348,080
								1,821,961,641
								6,640,286,700

※貸倒引当金取り崩し額 2,226,537円  
 ※賞与引当金取り崩し額 180,122,820円

※退職給付引当金取り崩し額 154,100,753円  
 ※法定福利費引当金取り崩し額 33,274,730円

## 医薬品購入状況

令和3年度（2021年度）医薬品購入金額一覧表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
メディセオ	12,700,039	11,026,224	10,529,490	10,903,785	12,730,760	10,061,451	10,536,966	11,100,681	12,547,820	10,698,533	11,251,701	11,002,286	135,089,736
上條器械店		5,770		5,770			5,770		5,770		5,770		28,850
鍋林	86,510	90,083	67,943	66,100	115,370	65,969	41,054	51,859	92,292	57,151	80,520	164,316	979,167
岡野薬品	5,431,279	5,009,500	4,873,739	5,800,879	5,301,667	9,403,983	9,557,987	10,438,791	10,892,026	8,685,978	8,988,010	9,576,619	93,960,458
スズケン	4,850,634	3,512,477	3,660,442	4,146,042	4,644,088	402,274	817,891	515,208	1,168,610	416,632	668,933	1,218,477	26,021,708
アルフレッサ	593,242	656,123	398,436	733,878	671,811	406,047	550,063	488,589	783,214	588,105	389,368	435,420	6,694,296
血液センター	520,683	486,413	115,388	495,036	280,228	247,260	379,132	330,712	131,872	338,573	272,121	899,741	4,497,159
東邦薬品									3,225	2,016,000	15,008,000	5,824,000	22,851,225
東和薬品													0
滝沢歯科器械店				706		4,616				2,100	1,750		9,172
犬飼歯科商店													0
中日本メディカル	124,200	124,200	124,200	124,200	124,200	124,200	124,200	124,200	186,300	124,200	62,100	310,500	1,676,700
中北薬品	16,207	24,706	22,320	49,915	18,392	15,952	13,740	27,637	11,097	17,833	21,380	13,694	252,873
日医調剤	42,102	63,213	81,646	46,377	20,969	44,525	54,051	73,650	68,000	79,966	39,786	47,637	661,922
合計	24,306,587	20,998,709	19,873,604	22,276,396	23,907,485	20,776,277	22,013,063	23,151,327	25,890,226	22,945,105	36,789,439	29,431,359	292,359,577

令和3年度(2021年度)医薬品購入金額上位50品目

順位	薬品名称/規格	金額
1	アバスチン点滴静注用400mg/16mL	18,245,572
2	ベクルリー点滴静注用100mg	14,784,000
3	カドサイラ点滴静注用100mg	12,573,678
4	レミケード点滴静注用100	9,250,100
5	キンダリー透析剤4E	9,178,500
6	パージェタ点滴静注420mg/14mL	8,838,561
7	フェソロデックス筋注250mg 5mL	8,231,802
8	ゾラデックス LA10.8mgデポ	7,845,012
9	ランマーク皮下注120mg	6,016,860
10	カドサイラ点滴静注用160mg	5,379,830
11	アバスチン点滴静注用100mg/4mL	4,949,553
12	ジーラスタ皮下注3.6mg	4,922,375
13	サンドスタチンLAR筋注用キット30mg	4,604,152
14	シナジス筋注液100mg	4,170,306
15	パルクス注ディスポ10μg	3,805,165
16	照射赤血球-LR「日赤」	3,313,284
17	リコモジュリン点滴静注用12800	3,148,577
18	リュープリンSR注射用キット11.25	2,869,400
19	エルカルチンFF静注1000mgシリンジ	2,813,860
20	ヌーカラ皮下注用100mg	2,594,688
21	ミルセラ注シリンジ100μg	2,494,186
22	リピオドール480注10mL	2,312,879
23	生食注シリンジ「SN」10mL	2,303,800
24	ハーセプチン注射用150	2,218,328
25	ブリディオ静注200mg	2,211,300
26	ゾラデックス3.6mgデポ	2,100,217
27	アブラキサ点滴静注用100mg	2,038,800
28	メロベネム点滴静注用0.5g「明治」	1,991,860
29	アロキシ静注0.75mg 5mL	1,960,000
30	消毒用エタノールIP	1,918,000
31	オムニパーク300注シリンジ100mL	1,780,592
32	エルプラット点滴静注液200mg	1,776,559
33	ローヘパ透析用100単位/mLシリンジ20mL	1,709,797
34	ダルベポエチンアルファ注30μgシリンジ「KKF」	1,663,877
35	リュープリンPRO注射用キット22.5mg	1,613,165

36	プロハンス静注シリンジ 17mL	1,599,442
37	スルバシリン静注用 1.5 g	1,572,300
38	ベクティビックス点滴静注 400mg	1,524,600
39	ダルベポエチンアルファ注 20 $\mu$ gシリンジ「KKF」	1,518,460
40	イオメロン300注シリンジ 100mL	1,497,924
41	ジェブタナ点滴静注 60mg	1,482,246
42	セフメタゾールナトリウム点滴静注用バッグ 1g「NP」	1,413,948
43	ロカルトロール注 0.5	1,397,225
44	レギュニール Lca 1.5腹膜透析液 2L	1,396,900
45	サイラムザ点滴静注液 500mg	1,290,140
46	ヌーカラ皮下注用 100mg	1,283,568
47	ヴィーンD輸液	1,278,150
48	プラリア皮下注 60mgシリンジ	1,263,040
49	テリボン皮下注用 56.5 $\mu$ g(溶解液添付製品)	1,243,470
50	サムスカOD錠 15mg	1,240,212

## 【内科】

令和3年度は、大和理務(消化器)、澤木章二(循環器)、赤穂伸二(腎臓・透析)、林元則(循環器)、佐藤吉彦(糖尿病・内分泌)、平野真理(消化器)、米田傑(消化器)、黒坂真矢(糖尿病・健康管理)、伊東哲宏(消化器)、奥村美智(消化器、6月から産休)、南澤朋美(腎臓)で診療業務を行いました。

非常勤医として吉沢晋一(健診・人間ドック)、高橋京子先生(腎臓)のほかに、信州大学消化器内科(肝臓外来)はじめ第3、4、5内科から外来診療の応援を得て診療を行いました。

2020年1月末に初めての新型コロナウイルス感染症患者の入院があり、それ以降中心地区唯一の感染指定病院として新型コロナウイルス感染症の診療を行った。院長および感染対策委員長の澤木が中心となり内科・外科医師全員で未知の感染症に立ち向かった。感染症患者は増減を繰り返し、ピーク時には手術や消化器内視鏡検査など一般診療を制限する必要が生じました。

### 【消化器内科】

上部消化管内視鏡検査は大和・米田・平野・伊東の常勤医以外に非常勤医(市川先生、三澤知子先生)に応援いただきました。

発熱外来に内視鏡の医師および看護師が担当する必要があり、新型コロナウイルス感染症が蔓延した時期には内視鏡検査を制限する必要がありました。それでも昨年度に比べ上部・下部共に内視鏡件数は増加しました。

内視鏡件数	2020年度	2021年度
上部	3,430件	4,043件
下部	1,133件	1,307件

### 【腎臓内科】

赤穂および南澤が担当し、高橋京子先生の応援を得ました。急性腎不全・腎炎症候群やネフローゼ症候群などの多彩な腎疾患患者の診療に対して腎生検をはじめ

としたきめ細やかな診断及び治療がなされました。

慢性腎臓病対策については、新型コロナウイルス感染症対策を行った上、認定腎臓病看護師を始めとした各種医療スタッフから成る院内連携チームの介入活動により院内慢性腎臓病患者の治療予後や診療体制については一定の成果が得られました。今後は慢性腎臓病のみならず糖尿病などの生活習慣病の院外連携へもつながる成果として期待されます。

また高齢化や増加する慢性維持透析患者の管理は腎透析センターで従来どおり、多くのスタッフとのチーム医療の中で実践されたが、訪問看護との連携の中、在宅腹膜透析患者数も徐々に増加し、多くの患者ニーズに対応した透析治療がなされました(詳細は腎・透析センター一部門を参照)。

多臓器障害ならびに急性腎障害への急性血液浄化療法の緊急対応も腎透析センタースタッフとの連携で円滑に実践されました。

### 【循環器内科】

澤木、林の常勤医の他、信州大学循環器内科の金井先生、岡野先生、門田先生が担当しました。当院で可能な心電図・心臓超音波検査・運動負荷検査や冠動脈CT検査などの非侵襲検査を中心に内科的治療を実践しましたが、急性冠症候群、大動脈解離や動脈瘤などの緊急カテーテル検査や緊急手術が必要な患者さんへは信州大学を中心とした循環器専門施設への速やかな搬送連携で対応可能でありました。

その他、四肢動脈閉塞症への診断治療も信州大学循環器内科との連携で円滑に行われました。今後も信州大学との連携および地道な継続診療が望まれます。

### 【糖尿病・内分泌】

常勤の佐藤が中心となり、信州大学から中村先生、大久保先生の応援をいただき外来診療を行いました。

糖尿病専門医の常勤により糖尿病昏睡、緊急手術などに対し迅速な対応が可能となりました。

#### 【呼吸器科】

信州大学呼吸器内科から赤羽先生、町田先生に外来診療に来ていただき、紹介患者等の外来患者および入院患者も精力的に診察され、夕方まで掛かることもありました。

#### 【神経内科】

上條先生に外来診療に来ていただきました。

#### 【血液内科】

川上先生に外来診療に来ていただきました。

#### 【肝臓内科】

若林先生に外来診療に来ていただきました。

#### 【その他】

救急総合診療科で救急搬送、急な開業医からの紹介、急患などの初期対応を行い患者トリアージがなされ、その後の入院などの内科対応も迅速に行なうことができました。

新型コロナ感染に翻弄された1年で、一般外来患者および入院患者数も激減しました。しかし松本（中信）地区の唯一の感染症指定病院として新型コロナ感染症診療の中心となることで、多数の市民・地域住民からの応援・援助をいただき、病院の存在意義が認識されるようになりました。

（文責 大和 理務）

## 【外科】

### 【スタッフ】

高木洋行 乳腺  
桐井靖 肝胆膵、救急、腹腔鏡下手術  
黒河内顕 肝胆膵、腹腔鏡下手術、地域包括ケア  
在宅診療  
三澤俊一 上下部消化管、外科栄養、創傷治癒  
勝山翔太 自治医大償還義務による県からの派遣

### 【統計】

手術件数 (総数)	132 件	主な手術 (括弧内、うち腹腔鏡件数)
全身麻酔	99 件	胃癌 5 件
腰椎麻酔	19 件	大腸癌 14 件 (6)
局所麻酔	14 件	膵癌 1 件
入院総数	798 件	乳癌 11 件
死亡退院	45 件	胆嚢ポリープ・結石 7 件 (6)
		鼠径・大腿ヘルニア 38 件 (12)
		虫垂炎 10 件 (2)

新型コロナウイルス流行の影響で件数は昨年度よりかなり減少しましたが、合併症も少なく安全に施行しております。腹腔鏡下での手術数割合も増加傾向です。

### 【学会発表】

高木 洋行	
学 会	第 29 回日本乳癌学会
開催日	令和 3 年 7 月 1 日～3 日 (神奈川県)
テーマ	「貧血と血小板減少で発症した乳癌骨髄癌腫症にアロマターゼ阻害剤が奏功した 1 例」
三澤 俊一	
学 会	第 19 回消化器外科学会
開催日	令和 3 年 11 月 5 日 (神戸市)
テーマ	「コロナ禍における急性胆嚢炎に対する非手術的治療の検討」

全国学会、2 件の演題発表を行いました。

### 【論文】

高木 洋行「癌と化学療法：vol.48 No.10：貧血と血小板減少で発症した乳癌骨髄癌腫症にアロマターゼ阻害剤が奏功した 1 例」

### 【研修医】

10 月～11 月：丸田大貴先生、1 月～3 月：田邊颯太先生が研修医として外科の患者を受け持ってもらい、手術参加と周術期管理を十分に経験してもらいました。

### 【新専門医制度】

平成 30 年度開始された新専門医制度の信州大学外科プログラムに登録した外科専門医を目指す医師が、当院での研修を行っております。

### 【おわりに】

令和 2 年 1 月からの新型コロナウイルスの流行が続き、松本平唯一の感染症指定病院として当該地域のコロナ患者の対応に全力を尽くしました。

流行極期は手術を含む一般診療の制限の影響を受けながらも、悪性疾患含め、患者の治療にできる限りの対応を行ってきました。引き続き松本西部地区の医療を担う当院の外科として、高齢・複数合併症等、リスクの高い患者さんが増加する中、地域医療の 1 つとして、他科との連携を行い、安全に手術、治療を行っていくよう継続的に努力します。

癌終末期含め、在宅診療にも対応し、患者さんに寄り添った医療を展開していきます。また、若手外科医の育成、に貢献できるようこれからも尽力します。

(文責：黒河内 顕)

## 【整形外科】

2021年1月からの診療は、常勤医は松江、清水、それと研修医の3人体制で行ってまいりました。外来診療は常勤3人だけでなく、信州大学整形外科から週2回、月曜日は関節外科、木曜日は腫瘍を専門とする医師に担当頂く事で、当科を受診し、例えば変形性膝関節症や軟部腫瘍などの患者さんに対し、専門的な診療を行う事が出来ています。手術が必要になれば、信州大学と連携し、手術を行ってまいります。

手術に関しては、こここのところ外傷患者の搬送や受診が減少していますが、高齢者の大腿骨近位部骨折や橈骨遠位端骨折などを中心に手術を行っています。また当科には脊椎専門医がおり、腰椎疾患はもちろんのこと、頸椎疾患や椎体骨折などの外傷に対する手術を行っています。

また、当院の立地や患者背景からみて、当院の役割の一つに、高齢患者をもつ家族、独居高齢者、老老介護世帯に対しての safety net があります。急性期病院では、診療報酬制度上、短期入院の傾向となります。体力の無い高齢者や介護力のない家族であっても、同様です。当院の回復期病棟は整形外科患者が半数以上を占めていますが、信州大学など他院からのリハビリ目的の転院も増えてきております。この病棟でリハビリを行い、退院調整を行ない、十分に日常生活能力や介護力が回復してから退院して頂くようにしています。例えば上述の通り、当院を受診された変形性膝関節症患者さんを、信州大学で手術を行って頂き、当院の回復期病棟で十分リハビリを行ってから、自宅退院する流れも出来ています。

これからも骨折などの外傷を中心とした急性期医療は、標準医療を提供できるように努力してまいります。また回復期リハビリテーション病棟、包括期ケア病棟など慢性期医療も引き続き行ってまいります。

(文責 清水 政幸)

## 【小児科】

常勤医3名(津野、中田、古屋)で診療を行いました。  
3月で嶋田俊医師が異動し、4月に古屋絢子医師が赴任しました。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響がありました。

午前の一般外来は、呼吸器、消化器などの急性感染症が中心ですが、頭痛や気持ちが悪いなど持続する体調不良を訴えて受診する方もいます。新型コロナウイルス感染症の影響か、体重が減るほどのストレスを感じているお子さんが例年より多かった印象があります。

新型コロナウイルス感染症の流行にあわせて、小児患者さんも増加しましたが、外来対応が中心でした。保護者の入院にあわせて入院したお子さんはいましたが、お子さん自身の病状が悪くて入院する方はいませんでした。

慢性外来も心理、発達、岸川医師の外来を含めて大きな変更なく行いました。気管支喘息、便秘症、川崎病、早産児の発達フォローなどが多いです。

火曜日午後は、院内出生児対象の1ヵ月健診、1ヵ月健診以降にフォローアップが必要なお子さんを対象とした乳児検診を行っています。一般の方で、乳児健診を希望される方もおられるため、その時間に行ないます。月1回7~8ヵ月健診を行っていますが、作業療法士さんに発達所見をじっくりみていただいています。

予防接種は水曜日、木曜日午後に行い、インフルエンザワクチンは例年通り月曜日にも行いました。今年も自治体からの助成があったため、希望される方が多く、早い段階でお断りする状況でした。成人への新型コロナウイルスワクチン接種は当初から小児科医も担当していましたが、9月末から小児に対する接種も始まりました。

松本市夜間急病センターへ常勤医一人あたり年6回、計18回協力しました。松本医療圏の二次救急当番は水曜日、第1土曜日、第3日曜日を担当しました。

入院患者は230人で、うち新生児が74人でした。小児疾患は感染症(急性気管支炎、感染性胃腸炎など)、

気管支喘息、ケトン血性嘔吐症、川崎病が主なものでした。夏以降にRSウイルス感染症が流行し、入院患者さんが急に増えました。新生児疾患は新生児黄疸、新生児一過性多呼吸、低出生体重児が主なものでした。

松本市西部保健センターで行われる乳児健診、波田小学校の校医としての健診、渚東・中央保育園の園医としての健診に加え、今年から梓川西保育園・院内保育園「きらり」の園医としての健診も担当することになりました。研修医は丸田医師がローテートしました。

信州大学医学部学生実習は、アドクリ1人、150通り4人、ポリクリ4人を受け入れました。

「赤ちゃんのためのビフィズス菌モニター調査」は、8月で登録は終了しましたが、その後の経過観察を継続させていただいています。多くのお子さん、保護者の方にご協力いただきました。

(文責 中田 節子)

## 【産婦人科】

2021年度は、塩沢先生、田村先生、斉藤、小原先生、横井先生で診療に当たりました。当直業務は塩沢先生、田村先生、斉藤の3人体制で行いました。

長引くのコロナ感染により産科領域は大きな打撃を受けました。分娩件数は171件で、前年に比べて50件の減少となりました。分娩の中では早産が3件、死産はありませんでした。帝王切開は40件で帝王切開率は23.1%でした。常位胎盤早期剥離、子癇、羊水塞栓症等の重大な産科合併症はありませんでした。

帝王切開の適応は前回帝王切開の17件と胎児機能不全の10件でほぼ7割を占めました。その他の適応として骨盤位が7件、妊娠高血圧症候群が3件でした。

婦人科手術では、開腹による単純子宮全摘術が8件、子宮筋腫核出術が1件、子宮外妊娠手術が1件ありました。腹腔鏡下による手術では、付属器切除術が12件、卵巣嚢腫核出術が10件、子宮全摘術が9件、子宮筋腫核出術が7件、子宮外妊娠手術が2件ありました。その他、子宮鏡下手術が10件、子宮頸部円錐切除術が18件ありました。開腹術・腹腔鏡下手術の件数は例年並みでしたが、子宮鏡下手術及び子宮頸部円錐切除術の件数は前年比でほぼ倍増しました。

婦人科外来診察では子宮筋腫、子宮腺筋症、卵巣腫瘍、子宮頸部異形成、子宮脱更年期障害、月経周期異常、月経困難症等、幅広く診療させて頂いています。悪性疾患に関しては、信州大学と連携し対応しております。塩沢先生には前年に引き続き当直も含め診療をして頂いております。スタッフの心の支えとして、アドバイザーとしてお勤め頂きありがたく思います。

今後、如何に分娩件数の減少を抑え、分娩件数を増加させるかという点が当科の課題となっています。

コロナ陽性妊婦の当院での帝王切開の実施。更には、コロナ感染対策をとった上で、当院の特色であった立ち会い分娩の復活を図ることも選択肢の1つであると考えます。

このようなコロナ下でも分娩場所として当院を選択

して頂いた患者さんを大切に、婦人科領域の患者さんも含め、時間外、夜間を問わず、お困りの場合には適切な対応をとり、リピーターを維持できるように心掛けていきたいと思っております。当院の特色である小児科医との連携を生かし、患者さんの信頼を得るべく、医療事故を起さないように地道に安全・安心な医療を行っていきたいと考えます。

(文責 斉藤 慶弘)

## 【泌尿器科】

泌尿器科では、まず前立腺肥大症を始めとする良性疾患に対し診療を行っています。前立腺肥大症によって内服治療をしても尿の出方が改善しない方には経尿道的前立腺切除手術を行っています。これにより尿勢が改善しQOLを向上させることが可能になります。合併症などの問題で手術が出来ない方や神経因性膀胱等で尿が出ない方は尿道カテーテル留置となる場合があります。この場合、通常は外来で尿道カテーテル（管）交換を行います。通院が大変な方は往診にてカテーテルの交換を行う場合もあります。尿管結石に対しては、鎮痛治療を行い、痛みが強い時や腎盂腎炎を合併したときには入院して治療を行っています。

悪性腫瘍、特に前立腺癌、膀胱癌は力を入れている疾患です。前立腺癌は早期発見が重要で、PSA高値で受診された患者さんにはMRI検査を行い、前立腺癌が疑われれば前立腺生検を行います。前立腺癌が認められた患者さんにはよく相談の上、ご希望された治療を手配させていただきます。膀胱癌については酢酸を使用して膀胱癌を白染させながら術野をわかりやすくして手術を行っています。これにより再発しやすい膀胱癌の再発率を低下させることができます。

排尿ケアチームによる排尿自立支援も行っています。患者様の排尿自立を促すよう多職種が集まり、下部尿路の評価を行い排尿誘導や保存療法、リハビリテーション、薬物療法等を組み合わせるなど下部尿路機能の回復のための包括的なケアを行なうという支援です。

当科は波田地区を中心に乗鞍や奈川からも患者さんが来られ、地域の中核を担う役割を果たしています。1人1人の患者さんに対し全人的見地からオーダーメイドの治療を行います。高齢な患者さんが多く、治療方針を立てる際には家族背景、生活環境も考慮する必要があります。よく相談してそれぞれの患者さんにあった治療方針を共に探してゆきます。泌尿器科内でも定期的な回診、カンファレンスを実施し、十分に方針を検討しています。

## 【泌尿器科医 2名】

飯塚啓二：日本泌尿器科学会専門医・指導医

石川雅邦：日本泌尿器科学会専門医・指導医

外来は火曜日、木曜日、金曜日は石川、月曜日、水曜日は飯塚医師が行っております。月曜日、水曜日の午後に手術を行い、金曜日の午後に膀胱鏡などの検査と泌尿器科往診を行います。それ以外の曜日の午後は患者さんの手術説明や病状説明の予約診療となっております。

入院患者さんについては、尿路感染や血尿、尿路結石症、前立腺炎、前立腺肥大症、前立腺腫瘍、膀胱腫瘍、精巣上体炎などの疾患にて入院されております。

（文責 石川 雅邦）

## 【脳神経外科】

脳神経外科では、2021年度も引き続き脳血管障害（脳出血・脳梗塞・くも膜下出血）、脳腫瘍、頭部外傷、てんかん、認知症などの診療にあたりました。外来診療は火・水・金の午前中で、上記疾患の他、動脈硬化のrisk factorでもある高血圧、糖尿病、高脂血症など生活習慣病の患者さんの診療にもあたりました。

脳梗塞については、心疾患が原因の塞栓症が増加傾向にあります。心房細動などの不整脈や弁膜症が基礎にあり、梗塞を発症する例で、循環器内科の医師と協力体制のもと治療を行っています。当院の脳ドックでも、心臓超音波検査が標準で行われ、脳梗塞の原因となる心疾患の早期発見に努めています。

脳血栓症、塞栓症ともに超急性期の血栓溶解療法が推奨されており、4.5時間以内のt-PAの使用が有効です。治療の対象となる患者も多く、近隣医療機関との連携を強化していきたいと考えています。脳出血に対する手術の適応は、昏睡状態にある患者さんの救命を目的とした開頭術の他は、縮小方向にあり保存的に治療する傾向にあります。

脳腫瘍の手術は良性腫瘍が主ですが、悪性の場合、集学的治療を大学にお願いしています。良性腫瘍でも摘出が困難な場所にある症例では定位放射線照射が有効で、近隣の専門病院に紹介し治療を行って頂いています。

てんかんの患者さんは病脳期間が長いため、内服指導、日常生活での指導などに時間をかけています。定期的な薬剤の血中濃度測定、脳波検査等を行っています。また、妊娠を希望される患者さんも多く、薬の胎児への影響、休薬による発作の危険などを良く説明し、計画的な妊娠を指導しています。

認知症は水曜日の午前中に「もの忘れ外来」専門外来を行っています。日本認知症学会ならびに日本認知症予防学会専門医の私と、認知症看護認定看護師の2人体制で、診断・治療はもとより家庭での状況、介護

状況を把握し、地域の介護福祉サービスへ繋げられるよう活動をしています。近年、注目されている軽度認知障害（Mild Cognitive Impairment：MCI）の診断・早期発見にも力を入れています。

脳卒中急性期後の機能回復にも積極的に取り組んでおり、回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟と連携しながら、今後もシームレスなリハビリの提供を目指していきます。

（文責 中村 雅彦）

## 【麻酔科】

COVID-19の流行があり、不確実性の時代が続いています。慣れたことでも注意深く、着実に仕事をしたいものです。

大きな動きとしては、「麻酔電子記録装置」の導入で2021年1月26日から運用されたことです。麻酔記録器の老朽化が進んだこと、また麻酔記録の電子化は時代の波ですので病院局に導入を強くお願いしてきたところでした。大きな予算額でしたので2019年度から病院局で予算化を検討していただき、導入することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

ここ10年のうちに麻酔剤も大きく変化し、静脈麻酔剤はプロポフォールやレミフェンタニルの短時間作用性のものを使い、シリンジポンプを用いて行なっています。吸入麻酔剤はデスフルランやセボフルランを使用しています。筋弛緩剤ではロクロニウムになりました。筋弛緩拮抗剤はスガマデクスというロクロニウムに特異的な薬剤に変わりました。デスフルラン+レミフェンタニルは高齢者でも麻酔覚醒がとても速く、より安全性の高い麻酔が出来るようになってきました。

脳波測定(BIS)も加えて術後譫妄の予防や迅速な覚醒に努めています。また手術室と協力してAGヒーターという保温シートを購入しました。保温による術後シバリング予防効果が現れています。信大麻酔科との連携を深め、誰がどこでやっても同じことが出来るようにする「標準化」に取り組みます。

「The time to repair the roof is when the sun is shining. ---J F Kennedy」

### 【手術麻酔】

2021年度の麻酔科管理症例は、全身麻酔および脊髄くも膜下麻酔症例=345例でした(前年度比+26例(+8.2%)。緊急手術は36例でした。

科別では外科100例、整形外科120例、産科40例、婦人科64例、泌尿器科17例、内科2例でした。また86歳以上の超高齢者は38例(11.0%)

でした。

### 【ペインクリニック】

2021年度のペインクリニック受診延べ人数は240人でした(前年度比+63人(+35.6%)。手技別では、硬膜外ブロック202例、星状神経節ブロック0例、その他46例でした。

神経ブロックで痛みを軽減するとQOLが改善され日常生活の幅を広げることが出来ます。帯状疱疹では、特に高齢者で帯状疱疹後神経痛になりやすかったのですが、良い抗ウイルス薬や鎮痛剤のプレガバリン等の出現で慢性化が減ってきていると思われます。また帯状疱疹は免疫能の低下に関連して、悪性腫瘍が絡んでいる事がありますので、健康診断で腫瘍検診をしていただくようご指導をお願い申し上げます。

### 【研修医指導】

丸田大貴医師(2021年9月)が麻酔科研修を行ないました。約30例の麻酔管理、気管挿管を行なってもらいました。優れた成績を残せたと思います。また外科や婦人科にローテーション時にはその科の手術時にも気管挿管手技を積極的に習得していました。マスク下人工呼吸や気管挿管の技術は一生役に立つ技術であり、また患者様を不測の事態から守ります。今後も積極的に技術の研鑽を積んでもらいたいと思います。

### 【今後の展望】

周術期(術前、術中、術後)の多職種介入でいち早く日常に戻れる取り組みを推進したいと思います。満足と安心、そして「安全」の医療を実践します。

手術室スタッフにはとても感謝しています。また回診時には病棟スタッフ、その他多くの職員の皆様にお世話になっています。ありがとうございます。これからもよろしく願い申し上げます。

「1万1000回の経験があっても1万1001回目は初めての経験」

(文責 小林 幹夫)

## 【救急総合診療科】

・外来総数           一般診察 11,031名  
                          発熱外来 5,899名  
・救急搬送数                           1027名  
(受け入れ総数：1,035名・入院570名)

### 【医師（敬称略）】

専 従：小澤正敬

研修医：田邊颯太、丸田大貴

院内兼任

外 科：中村雅彦、桐井靖、黒河内颯、三澤俊一  
          勝山翔太、

内 科：北野喜良、大和理務、澤木章二、佐藤吉彦  
          赤穂伸二、林元則、平野真理、米田傑

伊東哲宏、奥村美智、南澤朋美、西川真里

非常勤：高木洋行

信州大学（救急科）：上條奏、亀山明子

### 【概要】

救急総合診療科は、上記のとおり多くの先生の協力をいただきながら、内科・外科系疾患を中心に幅広く初診患者および救急患者を受け入れております。

単なる振り分け外来ではなく、常に緊急性を考慮しながら、必要があれば専門科に依頼します。ただし、当科で完結できる場合や患者の状態、状況、背景により調整が必要な場合は、当科でフォローアップしながら診ております。そして、昨今の primary care 重視の医学教育の最先端として、臨床実習生には可能な範囲で問診、視察、手技などを経験していただき、研修医には初診と救急対応のトレーニングの場を提供しています。

新型コロナウイルスの影響が大きく、昨年は外来総数（※発熱外来を除く）、救急搬送数は減少しましたが、今年はやや増加しました。コロナ渦で全体の総数は減少したものの、ここ数年の総数が示すとおり当院の窓口、顔としての役割が定着したと思われま

### 【体制】

平成17年の開設より当科をけん引してくださった清水幹夫先生が平成26年3月をもって退職されました。その後も引き続き清水先生の構築されてきた救急総合診療科の充実を念頭に置き診療に携わってまいりました。

昨年、新型コロナウイルス感染症の流行により発熱外来が設けられました。そして、今年も感染症患者の受け入れ拡大のため一時的に救急患者の受け入れを制限せざる得ない状況もありましたが、可能な限り充実した診療を心がけました。

### 【総合診療科の今後】

新たな専門医制度として「総合診療部門」という資格が始動しました。これに先立って長野県主導の「信州型総合育成プログラム」というカリキュラムの指定病院に当院は選定されております。

超高齢社会に突入し、さらに高齢化が進んでいる状況で、当院がどのような立ち位置で臨むのか総合診療科で行われる医療が重要な鍵となると思います。

専門医療と総合診療の融和が社会の要求だとすれば、当院の救急総合診療科はまさに時代の最先端医療を求められる場所になるでしょう。些事は気にせず「困ったことがあれば何でも相談してください」をモットーに診療を心がけたいと思います。

（文責 小澤 正敬）

## 【健康管理科】

### 【理念】

健康で充実した日々を過ごしていただくために、満足と安心の予防医療を実践します。

### 【基本方針】

疾病の予防と早期発見に努め、受診者の健康増進を図ります。

生活習慣病の発症予防のため、良質で実践しやすい生活指導を提供します。

受診者の権利を尊重し、プライバシーを守ります。

### 【職員配置】

医師	3名（常勤2名・非常勤1名）
保健師	4名（常勤2名・非常勤2名）
看護師	1名（非常勤）
管理栄養士	1名（非常勤）
事務	5名（常勤2名・非常勤3名）

### 【実施目標】

- 1 人間ドック・健診の充実  
（新規受診者・リピーターの定着）
- 2 特定保健指導の推進
- 3 松本市市町村検診事業の推進

### 【実績報告】

（前年度比）

健診（生活習慣病予防検診・企業健診等）	2,869名 (108.0%)
人間ドック	1,436名 (118.6%)
一泊ドック	149名
アクティブドック	29名
日帰りドック	1,245名
脳ドック	13名
COVID-19関連	

遺伝子検査	466名
抗体検査	16名
海外渡航等の陰性証明書作成	201名
松本市国保特定健診・後期高齢者健診	203名 (131.8%)
特定保健指導・初回面接	121名 (107.0%)
動機づけ支援	57名
積極的支援	64名
乳がん検診・子宮がん検診・骨粗鬆症検診・肝炎ウイルス検診・大腸がん検診・ABC検診	市の委託事業として実施。
予防接種（高齢者肺炎球菌・海外渡航目的・日本脳炎、子宮頸がんワクチン等）	108名 成人を対象とした予防接種全般の実施。
入学、入職時健診等の健康診断書作成	

### 【満足度調査結果】

2回に渡り満足度調査を実施し、6月（95.4%）12月（97.3%）となりました。

### 【おわりに】

COVID-19の感染状況が変動する中、安全かつ安心して検査を受けていただけるよう模索した1年でした。内視鏡室や検査科等の関連部署と適時検討し、より安全に検査を受けていただくため、問診票にて該当する方には抗原検査を受けていただきました。その結果、受診者の皆様のご協力もあり、より多くの方に内視鏡検査を受けていただくことができました。

今後も、安全・安心・正確な検査を実施し、受診者の方に満足していただける人間ドック・健診を提供していきます。

（文責 岩田 麻美）

## 【四賀の里クリニック】

### 【沿革】

四賀の里クリニック（旧会田病院）は、昭和25年7月5日、会田村及び中川村の2ヶ村組合立病院として開設しました。その後、錦部村及び五常村が加わり、4ヶ村組合立国保直営会田病院となりました。

昭和30年、前記の4ヶ村が合併して四賀村が発足し、病院は、四賀村国保直営会田病院となりました。昭和32年の増築を経て、現在の施設は、昭和60年に全面的に改築しました。

平成12年、介護保険事業の開始に伴い、介護療養型医療施設として運営を開始しました。また、平成17年4月、松本市との合併に伴い、松本市国保会田病院となりました。更に、平成22年3月、波田町の合併に伴い、波田総合病院とともに病院局が設置され、公営企業法全部適用の病院となりました。

平成27年3月に策定された会田病院基本方針により、平成30年3月を以って病床を廃止し、同年4月から四賀の里クリニックとなりました。

令和元年度からは常勤院長と非常勤医師により医療提供体制の充実を図っています。

### 【事業概要】

#### 1 運営方針

四賀地区住民のよりどころとなる地域医療の拠点として、市内の病院、介護施設と連携して、総合的に、きめ細かく患者のニーズに対応します。

また、地域に信頼され親しまれる医療機関を目指します。

#### 2 運営概要

##### (1) 診療科目

内科・外科

##### (2) 診療日・時間

平日診療、午前8時30分～午後5時15分

##### (3) 職員体制

院長、医師（院長補佐・信大等）、看護師、臨

床検査技師、放射線技師、薬剤助手、運転手、事務員

#### (4) 現在の診療科目

内科・外科：月～金 家田院長

内科：火～木 望月院長補佐

呼吸器内科：午前月2回 信大医師

糖尿病内科：午後月2回 京島医師

循環器内科：金午前 信大医師

### 【外来診療の状況及び傾向等】

#### 1 外来患者数

8,867人（1日平均36.9人）

#### 2 訪問診療及び往診

437人（月平均37人）

#### 3 看取り（オンコール）

36人（年）

#### 4 訪問看護（みなし指定）

延訪問人数 779人（月平均65人）

#### 5 患者の傾向

高齢者の慢性疾患の患者が大多数

### 【その他】

市立病院との再編・ネットワーク化により、令和2年3月から市立病院と同じネットワークの電子カルテを導入し、連携及び経営等の効率化を図っています。

また、現在、みなし指定で行っている訪問看護については、四賀地区の需要等を考慮しながら、利用者やご家族の希望等に寄り添えるように体制等を検討していきます。

（文責 本木 昇）

## 【看護部】

### 1 看護部の理念と方針

#### (1) 理念

安心で安楽な、心あたたまる看護を提供します。

安 心：安全で信頼できること

安 楽：心身ともに快適な状態。

心あたたまる：笑顔をもって、相手を尊重し守ること。

#### (2) 基本方針

- ・患者さんが必要とする最善の看護を提供します。
- ・最善の看護を提供する看護職として成長するために学び続けます。
- ・組織の一員として行動し、貢献します。
- ・働きやすい環境を整えていきます。

### 2 看護部目標

- ・地域に貢献できる質の高い看護を提供する。
- ・経営の視点を持ち、組織に貢献する。

### 3 主な取り組みと課題

#### (1) 新型コロナウイルス感染症対応

感染状況に合わせたパターンに適応した看護体制を整え、看護を継続した1年でした。

HCU機能を他の急性期病棟や地域包括ケア病棟へ移動し継続する体制、ポリバレンタナースを設定し、急性期2病棟を一体化した体制等形をかえながら、感染対応と一般診療診療の両立に努めました。外来対応のロナプリーブ投与を日帰りで病棟で実施するという前年度と異なる体制を実践しました。

外来診療は、発熱外来の電話対応から始まり、発熱外来の機能を高めながら地域住民の期待に応えてきました。

#### (2) 看護体制変更、業務改善のための取り組み

令和4年度診療報酬改定に向けて、急性期一般入院料2への転換、これからの看護体制に向けて取り組みました。

看護体制プロジェクト：急性期病棟の業務改善に取り組み、4人夜勤から3人夜勤へ変更になりました。また、救急外来の看護体制を検討し、体制変更には至らなかったのですが、次に繋がる課題を共有しました。

ナーシングカートプロジェクト：看護業務の効率化の中で課題解決のツールとして、患者のベッドサイドにいる時間を増やす、やりがいを感じられる看護体制を目的として、看護業務委員会が中心となり取り組みました。(看護業務委員会参照)

#### (3) 職員満足度調査

回収率は87.2%とやや下がりましたが、総合満足度は肯定の割合が増加し、否定の割合が減少という結果でした。記述回答のキーワードに看護職員のみ「コロナ」があり、他職種以上に影響が大きいことがうかがえる結果になり、支援の継続と注視することの必要性を感じています。

### 4 各委員会・プロジェクトの取り組み

#### (1) 副師長会

やさしい看護プロジェクト：接遇改善の取り組みとして、副師長が主体的に計画し全看護職へ働きかけ、継続している活動です。看護師個々を認める風土作りに取り組みました。

ほっとサロン：年3回開催し昨年の2倍、20名の参加がありました。ほっとサロンニュースを発行し、アンケート結果で「参考になった」が80%でした。

#### (2) 看護業務委員会

ナーシングカート導入と業務改善、業務量調査を実施しました。各病棟の記録記載場所やナースコール対応などの特徴と、業務の課題が明らかになり、後半の看護体制プロジェクトに活かされました。

#### (3) 看護記録委員会

質的監査の結果、「一時的な問題にはサブタイトルをつけて記載する」「一時的な問題が48時間以上継続した場合、看護問題としてあげ看護計画を立案している」の2項目で、来ていないとの回答が多い結果でした。

(設問27:28%・設問28:33%)

一時的に発生した問題についての看護計画見直し、約3割が出来ていない状況が分かりました。

(4) 看護部教育委員会

新人のローテーション研修、クリニカルラダーレベルにあわせ「気づく、使う、磨く」をキーワードとした教育を企画、計画、実施しました。院内留学、長期研修者報告会など学びを共有し、学び合う組織、専門職の成長を支え、育む体制作りに取り組みました。

(5) プリセプターサポーター委員会

急性期から退院支援そして在宅という多くの機能をもつ当院の強みをいかした、ローテーション研修に継続して取り組みました。コロナ禍で途中での変更を余儀なくされる中、新人やプリセプター、部署を支援しました。

(6) 臨地実習指導委員会

感染症対応の中、予防策も徹底して可能な限り有効な実習となるように各部署を支援しました。

松本看護大学・松本短大看護学科の臨地実習を受け入れました。

(7) 固定チーム推進委員会

チーム編成が何度もあり、チーム活動は難しい部署もありました。年間活動のまとめ冊子を作成、部署単位の共有の要となっています。昨年同様2年にわたり発表形式と、ディスカッションができませんでした。活動は長野地方会で発表を継続予定です。

(8) 看護広報委員会

オンラインでのガイダンス用ビデオを作成し、院内の他職種の協力のもと完成度が高い内容の紹介ビデオができました。集合で見学会が実施出来ないなか当院で働く姿のイメージづくりに役立つと好評で、人材確保に効果がありました。

(9) 看護必要度プロジェクト

集合研修ができない中で、ナーシングスキルを参考にした資料とテストを作成して実施しました。

(10) その他の活動

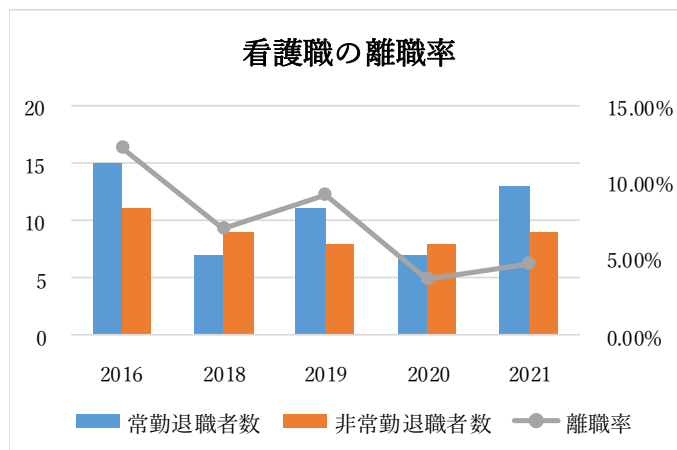
- ・ 感染リンクナース会
- ・ 糖尿病リンクナース会

- ・ 認定看護師会
- ・ 排泄ケアグループ
- ・ 看護補助者リーダー会
- ・ 看護情報システムWG
- ・ 認知症ケアグループ

5 認定資格取得状況

認定資格種類	取得者数
認定看護管理者	1名
感染管理認定看護師	2名
緩和ケア認定看護師	1名
がん性疼痛認定看護師	1名
がん化学療法認定看護師	1名
皮膚・排泄ケア認定看護師	1名
認知症認定看護師	1名
慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1名

6 看護職員の動向



2021年4月時点で育児休暇の看護職員9名、3月時点では8名でした。夜勤専従の取り組み、感染症対応で人材不足のため、3名の応援看護師の期間限定の支援により支障なく運営できました。

## 7 研修受講および資格認定

研修名	参加者
長野県看護協会研修	19名
*上記以外の研修参加者	
県外学会（オンデマンド含む）	8名
県内研修会参加（発表者含む）	15名
ファーストレベル	1名
新人研修	1名
災害支援ナース	2名
医療安全管理者	3名
オンライン・リモート学会参加	13名

## 8 研究発表・事例報告

演題	院内発表者
第34回 院内集談会 令和4年2月26日	
コロナ禍における包括ケア病棟の役割を考える ～看護師の視点から～	向山 三代 (5階病棟)
外来新体制の取り組み ～看護師の立場から～	古畑 薫子 (外来)
寝床環境の重要性	竹内 亜矢子 (外来)
糖尿病療法士として小児科I型糖尿患児の病療養指導への関わり	小林 真由美 (糖尿病チーム)
演題	県内発表者
第25回 固定チームナーシング研究会 長野地方会～資料集～	
バスタオルを使った体位変換の廃止にむけた取り組み	波多腰 あや子 清水 圭 (5階病棟)
他職種での情報共有をやすくするために ～カンファレンスシートの検討、共通カルテの運用～	百瀬 幸重 鈴木 由香 (4階東病棟)

雑誌投稿	著者
医事業務 1月No.617号 職員満足度をあげよう ～時間外削減で選ばれる選ばれる部署になる～	山名 寿子

## 9 講師等派遣

研修名	講師
信州呼吸器ケア研究会	藤田 直樹
長野県医学生奨学金貸与学生	藤田 直樹
信州木曾看護専門学校	吉田 ひとみ
第1回 長野県CKD メディカルスタッフセミナー	木村 順子
看護管理実践計画演習支援	大島 千佳
出前講座	講師
感染管理研修会 (計4回・125名)	池田 美智子
褥瘡・皮膚排泄研修会 (計3回・65名)	竹内 亜矢子
口腔ケア ※オンライン含む (計4回・61名)	草深 芳枝
高齢者になる自分のための心構え (計2回・50名)	山崎 徳男

(文責 山名 寿子)

## 【外来】

### 【目標】

- 1 来院者視点で受診しやすい外来環境を整備し、新病院建設に活かすことができる。
  - (1) 検査サポートセンター設置・運営。
    - ・再受診者の検査等に関わる全般を担う。
    - ・自動再来受付機の導入に伴う患者サポート。
    - ・予約等に関する電話対応。
    - ・次回検査サポート。
  - (2) 予約センターの設置検討。
- 2 多職種と協同して業務改善を実施し業務の効率化を図ると共に、部署間の応援体制を強化し外来患者に必要な看護を提供できる。
  - (1) 診療部、秘書課を中心とした多職種と業務分担について検討し実施する。
  - (2) 各部署、専門性の高い看護の提供。
  - (3) 看護指導体制の強化、在宅療養支援訪問（認定看護師の同行開始・発熱外来の継続）の実施。
  - (4) 発熱外来の継続。
- 3 相手や周囲の人が、心地良いと思える接遇ができる。

### 【活動報告】

検査案内センターの稼働が定着し、患者の動線の短縮化・一部窓口業務や検査説明の一元化・各部署番号案内によりわかりやすくなったなど、業務改善につながりました。患者が集中する際は声かけの配慮や応援体制で対応できるようになり、12月の患者満足度調査では満足度が85%でした。予約に関する電話相談対応も一部開始しました。大腸内視鏡説明動画の作成により、統一した説明、業務の効率化を図ることができました。次年度は、予約センター設置について検討していきたいと考えています。

検査案内センター稼働に併せて業務改善も実施し、医師への一部業務シフトや秘書課との連携ができました。4月より院内（外来・透析センター・地域連携室より）

の糖尿病療養指導士が糖尿病外来に配置され専門的看護が提供できる様になりました。今後は、糖尿病外来以外の生活習慣病リスクのある患者への介入も検討していきたいと考えています。

大腸内視鏡検査の自宅前処置の体制を整えることができ、自宅処置者の増加につなげることができました。

新型コロナウイルス感染症への発熱外来対応は今年度も継続となりました。毎波ごと患者傾向が変化する中で、スタッフがICNと協同し、工夫しながら対応できました。他部署からの応援にも助けて頂き、とても感謝しています。

サービス向上委員会の研修に参加し、自己の振り返りや目標立案をすることより、接遇に対して意識できるようになりました。

### 【外来のデータ】

外来患者数	368.4名/日
発熱外来患者数	705.3名/月
救急搬送受入人数	87件/月
内視鏡実施件数	
上部	336件/月
下部（胆道系含）	115件/月

### 【外来スタッフ】

看護師	30名（常勤13名・非常勤17名）
看護補助者	1名（非常勤）
受付事務	7名（非常勤）
歯科衛生士	1名（非常勤）

### 【認定看護師】

がん化学療法認定看護師	1名
がん性疼痛認定看護師	1名
皮膚排泄ケア認定看護師	1名
日本糖尿病療養指導士	1名

（文責 百瀬 久美）

## 【3階病棟】

### 【基本姿勢】

集中治療室を有し、急性期・亜急性期の患者さんに高度な医療を提供します。

地域特性を考慮し、連携の必要な患者さんや緩和ケア対象の患者さんの穏やかで、安心、安楽な環境を提供します。

中信地域の感染症発生時の2類感染症への速やかな対応をします。

### 【病棟目標】

- 1 地域に貢献できる質の高い看護を提供する。
  - (1) 必要とされている看護を強化し、地域での存在意義を高める。
  - (2) 看護職員が満足できる組織になる。
  - (3) 危機管理に備えた人材育成ができる。
- 2 経営の視点を持ち、組織に貢献する。
  - (1) 効率的なベットコントロール。
  - (2) 時間外勤務の管理と削減。

### 【病棟の概要】

病床数 58床（感染症病床含む）  
 スタッフ 看護師 26名  
 病棟事務 1名  
 勤務体制 2交代  
 看護方式 固定チームナーシング

### 【活動】

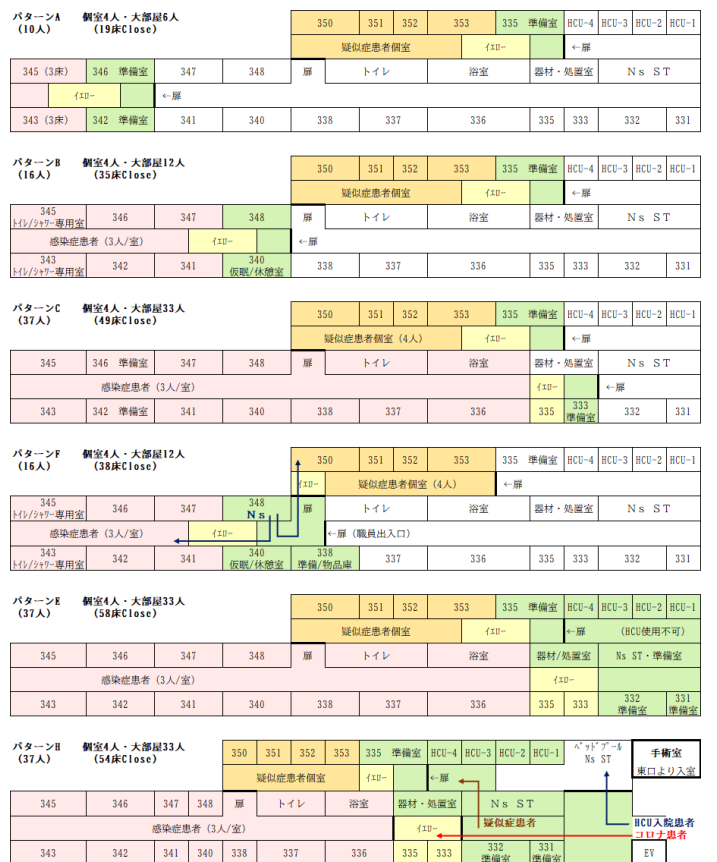
ダイヤモンド・プリンセス号のCOVID-19陽性患者の受け入れから始まり、第1波～第5波までとCOVID-19を中心に病棟が目まぐるしく変化した年でした。

3階病棟は急性期を中心に手術患者から終末期まで3チームに分かれて各領域で特徴のなる看護体制を行っていましたが、感染症病床の確保のため固定チームは崩壊し、病棟目標は意味を持たない物になってしまいま

した。

その中で、公立病院の使命感と公務員である責任感から多くのスタッフが感染症に関わっていただきました。

感染症に関わらないスタッフも、慣れない病棟で重症室を作りチームとして病院全体の急性期を担っていただき、一般診療をサポートできたことが一番の功績とも言えます。精神的ストレスが多々ありましたが、それでも3階病棟から離職する職員は無く、病棟一丸で乗り越えてきた2021年でした。



(文責 藤田 直樹)

性教育への講師派遣は昨年度に引き続き中止

## 【4階西病棟】

### 【理念】

ひとりひとりの尊厳を尊重し、個々のニーズにお応えした看護を提供します。

病棟の特徴を活かし、専門性を発揮する中で24時間365日、最善の看護を提供します。

### 【病棟目標】

- 1 患者・家族の視点に立ち、多様性に配慮した看護を提供することが出来る。
- 2 新病院建設にむけて病棟を整える。

### 【病棟の概要】

病床数 59床（病的新生児3床・特殊疾患4床）

スタッフ 助産師 14名  
 看護師 25名  
 看護補助者 6名  
 病棟事務 1名

勤務体制 2交代制

診療科 産婦人科・小児科を含む全科

### 【周産期チーム】

- 1 チーム目標
  - (1) 妊娠期から産褥期まで多様性に配慮した個別性のある看護を継続的に行う
  - (2) 母児の持つ力を最大限に引き出し、心と身体に寄り添いながら満足で安全な分娩ができる
  - (3) あらゆる新生児に予測性を持ったケアを行い、成長発達を支える
- 2 活動内容
  - (1) 助産師外来：参加者実績：502名
  - (2) 産後ケア入院：5名
  - (3) 院内助産（7月～案内）希望者：23名
  - (4) 子どもかんふぁ：1回/月
  - (5) 松本市要保護児童対策地域協議会参加
  - (6) 院内両親学級、松本市両親学級への講師派遣、

### 【一般急性期チーム（小児科を含む）】

#### 1 チーム目標

- (1) 専門的知識・技術の向上をはかり、安全な急性期の看護を提供する
- (2) ケースカンファレンスの実施、受け持ち看護師の役割を発揮して、個別性のある看護ケアが提供できる
- (3) チーム間での情報共有・協働を進め、患者対応を円滑にする

#### 2 活動内容

- (1) ナーシングカート導入による受け持ち患者周辺での看護業務の推進
- (2) 薬剤関連のインシデント低減に向けた内服薬管理の見直し
- (3) スムーズで安全な処置が行えるよう回診車の整理
- (4) HCU閉鎖時の部署を超えた協力体制による、HCU機能の維持

### 【入院患者実績】

患者平均年齢	51.7歳
産婦人科	34.5歳
小児科	1.7歳
その他	74.5歳
平均在院日数	10.3日
産婦人科	7.4日
小児科	6.2日
その他	12.8日
重症度、医療看護必要度	（基準値29%以上）
重症者割合	33.5%
重症者数	3,964人
分娩件数	174件
帝王切開術	40件
病床稼働率	79.1%

（文責 横山 舞紀）

## 【4 階東病棟】

### 【基本方針】

回復期リハビリテーション病棟とは、急性期の治療を終えて他施設からの転院、院内急性期病棟からの転棟患者の受け入れをし、集中的なリハビリ治療を提供し、患者の在宅での生活、社会復帰を目指します。

回復期リハビリ病棟への入院対象患者は、脳血管疾患、整形外科疾患、外科手術後、肺炎などの廃用症候群など診療報酬で定められている疾患を対象とし、規定の入院期間内でのリハビリプログラムと共に退院支援を行います。

医師・看護師・リハビリセラピスト・MSW・看護補助者・管理栄養士・薬剤師など多職種が協働し、患者のADL能力を高め、目標を持って「できる」事を増やし、患者・家族を支援します。

### 【病棟目標】

- 1 多職種が協働し、患者・家族へ個別性のある看護を提供する。
  - (1) カンファレンスの持ち方の検討（患者・家族のゴールの共有）。
  - (2) カンファレンスの記録の仕方の検討。
  - (3) 多職種が参加できる研修や勉強会の企画。
  - (4) 多職種との日常的なコミュニケーション。
- 2 回復期リハビリ病棟看護師の役割を理解し専門職としての実践能力を高める。
  - (1) 脳血管疾患（高次機能障害）、整形疾患（手術療法、保存療法）を重点的に勉強会を実施する。
- 3 安全・安心な療養環境・職場環境を整える。
  - (1) 再転倒のリスクを年5件以下にする。
  - (2) 身体拘束カンファレンスの充実、あり方の検討。
  - (3) 5S活動による安全レベル向上、業務効率化。

### 【病棟の概要】

医師：内科1名（病棟責任者）、整形外科2名  
（H30.12より主治医制に編成）  
看護師、介護福祉士、看護補助者、リハビリセラピスト、管理栄養士、薬剤師

病床数：33床

勤務体制：変則2交替制

看護方式：固定チームナーシング

H26.4病棟開設

回復期リハビリ病棟入院料1（H28年度取得）

### 【看護活動】

小グループ活動で、多職種で情報共有しやすくするためのツールを2020年度作成したため、より効果的に活用できるようにフォーマットの整備を行いました。また、転倒転落についてのスタッフへの勉強会を行い他職種とカンファレンスを行うことで効果的な転倒転落対策について検討することができました。

### 【病棟運営】

病棟データ	
1日平均患者数	27.1人
平均利用率	82.4%
病棟入棟患者の疾患別内訳	
大腿骨などの骨折、術後	65%
脳血管疾患	26%
靭帯損傷後	4%
股関節または膝関節の人工置換術後	3%
廃用症候群	2%
施設基準データ	
在宅復帰率	85%
重傷者割合（FIM総得点55点以下）	53%
リハビリ実績指数	56.9

回復期リハビリ病棟入院料1の基準は維持できています。今後も、多職種と連携しながら円滑な病棟運営を行っていきたいと思います。

（文責 池田 なつみ）

## 【5階病棟】

### 【理念】

「病気や障害をもちながら、生きようと前を向く姿や思い」「これからどこで、誰と、どのように過ごしたいのか」患者の思いと家族の思いを私たちは精一杯ささえ、寄り添う看護を提供します。

### 【病棟目標】

- 1 患者の個別性を尊重し、最善の看護を提供する。  
専門的知識を持ち患者、家族を含めた看護を実践する。
- 2 高齢患者を対象とする。
- 3 糖尿病を持つ患者の看護実践をはかる。
- 4 病棟稼働率を90%を維持していく。

### 【病棟の概要】

病床数：49床

勤務体制：2交代制

看護方式：固定チームナーシング

スタッフ：看護師 24名

：介護福祉士 1名

：看護補助者 9名

### 【Aチーム】

- 1 目標
  - (1) デイケアからのアプローチによる高齢者の不穏状態の改善をはかる。
  - (2) 勉強会を開催し、知識や技術を習得し質の高い看護を提供する。
- 2 活動内容
  - (1) 患者さんの個別の日常生活動作をデイケアの中に取り入れ、行動表を記載、FIM得点を実施夜間の睡眠傾向をおいながら、日々の入院生活の不穏状態の緩和につなげました。
  - (2) 呼吸器疾患に対する排痰ケアをリハビリスタッフと共に体位ドレナージ方法を習得しました。

### 【Bチーム】

- 1 目標
  - (1) 患者にわかりやすい、糖尿病確認シートを作成し理解度を評価する。
  - (2) 糖尿病患者の入院から退院までのマニュアルを作成し、他職種と連携しながら支援、指導ができる。
- 2 活動内容
  - (1) 糖尿病療養指導士と共に確認シートを見やすくしました。文字のみで無く○×式に改良し、英語など数値を表す言葉にはフリガナをつけ、覚えやすい工夫を行い、80%の実施しやすいとの評価を得ました。
  - (2) 指導するためのチェックリストを作成し、使用実施を行いました。

### 【病棟運営】

新型コロナウイルス患者受け入れパターンの変更に合わせ、患者層の変化がありました。

- ・患者平均年齢 74.6歳
- ・平均在院日数 12.6日
- ・平均稼働率 83.1%
- ・在宅復帰率 56.2%

レスパイト患者、大腸ポリープ（EMR）の診療制限に伴い、減少がありました。

手術後、緩和ケア、看取り、認知症など様々な患者に合わせた個別性の看護をMSW、リハビリ、退院支援などと協働し、カンファレンスを感染対策を実施しながら、提供しています。

（文責 倉坪 俊代）

## 【中央手術室・中央材料室】

### 【基本姿勢】

手術室：患者さんの安全、自分がすべき事を常に考え行動します。手術室のプロとして、手術室看護の専門性を高め、知識・技術を磨き、患者さんに質の高い看護を実践し、安全で安心できる看護を提供いたします。

中央材料室：日々の医療・看護に使用した物品を回収し、物品に合った確実な洗浄・消毒・滅菌を実施し、安全で安心して使用できる器材・医療材料を提供いたします。

### 【目標】

- 1 手術患者の安全・安心の医療・看護を実践する。
- 2 モチベーション高く働き続けられる職場を目指し、環境整備を推進する。

### 【手術室】

スタッフ：麻酔科医 1名  
看護師 9名  
看護補助者 1名（中央材料部兼任）

勤務体制：日勤（2名拘束で緊急手術対応）  
手術室数：4室（バイオクリーンルーム1室）  
手術件数：517件（前立腺針生検を含む）  
ペインブロック件数：217件

患者さんが安心して手術に臨めるよう、知識・技術の向上を図るために部署内勉強会等を実施し、日々努力しています。また、手術室看護の質の評価を継続し、手術看護の質の向上に努めています。

接遇強化にも注力し、患者満足度調査では97.9%の高い満足度を得ました。

環境整備では引き続き5S活動に取り組み、今年度は、科別ワゴンを導入したことで、物品の整理、また、スムーズな手術進行に繋げることができました。

### 【中央材料室】

スタッフ：看護補助者3名（1名手術室兼任）  
勤務体制：日勤（3連休以上は休日出勤あり）  
保有器械：高圧蒸気滅菌器2台

超音波洗浄器2台

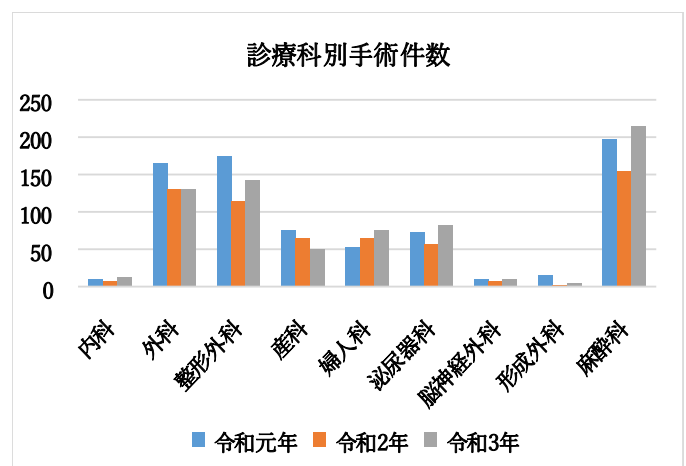
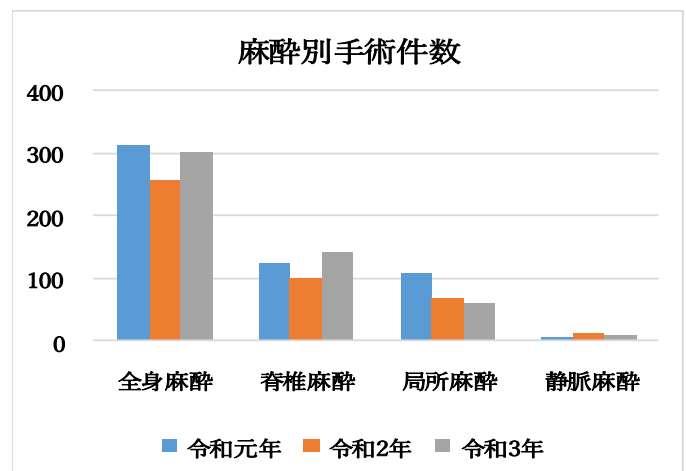
チューブドライヤー2台

E O G滅菌は外部委託（月・金）

中央材料室への洗浄業務の一元化と医材の流れの一方通行化により、より衛生的で安全な医材管理状況が継続できております。

COVID-19診療によって起きた需要の変化に対応し、不足なく医療材料が提供できるよう心がけました。また、発熱外来患者用の処置用シート、消化管内視鏡時に使用するマスクの作成等、各部門のニーズにも都度対応しております。

### 【年度別手術件数】



(文責 阿部 梢絵)

## 【腎透析センター】

腎臓内科専門医・臨床工学技士・看護師・看護助手・医療秘書によりセンター業務を担い、血液透析・腹膜透析治療を行っています。

### 【基本方針】

- 1 医療安全における意識を全員が高く持ち、安全・安心な透析医療を提供し、インシデントを最小限にとどめる。
- 2 透析患者の療養に関して患者家族との信頼関係を構築し、日常生活も含め良好な療養生活が送れるよう支援する。
- 3 透析導入前からCKD・DKD療養支援を実践し多職種連携（糖尿病チーム・CKDチーム）で腎不全重症化予防対策に努める。
- 4 栄養・リハビリ・歯科衛生との連携を図り、フレイル予防対策に努める（透析とCKD・DKD外来患者を対象に関わりを強化し対策を講じていく）

### 【血液透析】

血液透析では、長期化する透析治療における合併症予防の観点から患者様の状態に応じ、より最適な治療が提供するため、一般的な透析（HD）・血液濾過透析法（HDF・OHDF）を取り入れています。

在宅透析では、患者様自身の管理による在宅血液透析を1名の方が実施しています。

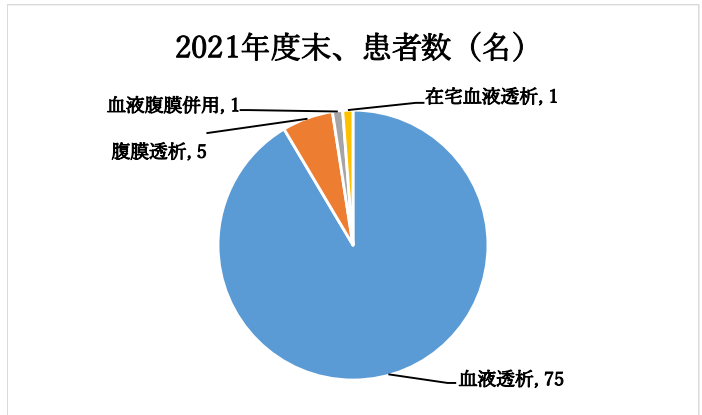
### 【腹膜透析】

腹膜透析は、自宅治療が基本となり患者様自身で管理する透析方法です。CAPD・APDなどを組み合わせ多様化する患者様の生活背景に合わせた腹膜透析治療を行っています。腹膜透析専門看護師を含めた透析看護師が、治療サポートを行っています。

### 【CKD外来】

毎週水曜日の腎専門外来で医師の診察にあわせ3名の腎臓病療養指導士が生活改善の相談・療法選択説明などを実施しています。栄養士による栄養相談・リハビリスタッフによる運動指導なども実施しています。

### 【患者統計】



維持透析患者平均年齢 73.2歳

維持透析患者最高年齢 95歳

### 【糖尿病指導】

糖尿病外来にも2名の日本糖尿病療養指導士による糖尿病透析予防指導を含めた外来指導を行っており、状態悪化予防・腎症などの糖尿病合併症予防に努めています。

### 【新型コロナウイルス感染対策】

新型コロナウイルスの感染が終息しない中で、令和4年1月頃を境に透析患者様の感染も目立ってきました。感染症指定病院としての機能をもつ本院としては、コロナ陽性の透析患者を他院から受け入れて治療を実施しました。病棟での隔離透析や、透析センター内で時間帶ずらした透析を実施しました。当院に維持透析で通院されている患者様やご家族にも協力いただき積極的にワクチン接種も受けていただき感染予防に努めました。

感染透析患者受け入れ 6件

病棟隔離透析 24回

外来隔離透析 6回

（文責 木村 順子）

## 【訪問看護ステーション】

### 【理念】

在宅で安心した療養生活が送れるように、看護を提供します。

### 【看護目標】

- 1 入院患者が在宅療養にスムーズに移行できるような連携を作る。
- 2 地域へ訪問看護の存在を周知する。
- 3 働きやすい職場にする
- 4 勉強会や研修への参加を増やす。

### 【ステーション概要】

職員：看護7名（病院職員2名）・事務1名

### 【年間訪問実績】

訪問回数 5,008件／年  
介護保険数 4,154件（訪問者910名）  
医療保険 854件（訪問者122名）  
新規利用者 94名  
終了者 84名（うち在宅看取り33名）  
訪問者数 平均86名／月・回数417件／月

### 【チーム活動】

目標：訪問看護利用者（以後利用者）が安全に安心して在宅で生活を送る事が出来るよう、他施設と連携を図り共有ノート使用方法の統一を図ります。

内容：在宅療養ではケアマネージャーなど様々な他職種との連携が必要となってきます。そのため利用者に必要なケアを情報共有ノートに記載していますが、なかなかケアの統一を図れないことがあり、アンケートを作成し、共有ノートの記入の仕方や形式の見直しを行ないました。

記載方法を統一することで、内容が見やすくなり、ケアの統一を図ることが出来ました。また、簡潔された記載にて状態把握が容易になり、限られた訪問時間の中で

利用者・家族のお話を傾聴する時間も増え、満足と安心するケアに繋げることができたと考えます。

### 【ステーションの取り組み】

入院から在宅療養へのスムーズな移行のため退院前カンファレンスに参加（46件）することで病棟と状態等の情報共有はできました。しかし、コロナ禍の影響で入院中の利用者のADLなどの変化を家族にイメージしていただきにくく、介護指導がスムーズに進みにくい状況でした。

退院後すぐに訪問できないこともあるため、病棟と問題点等をさらに検討する必要があると考えます。

訪問看護や在宅診療、在宅サービスへのつなぎ方を病院内でも周知されていないことがわかり、徹底が必要と感じました。

新たな地域拡大への働きかけはできませんでしたが西部山間地区への訪問は継続できました。今年度も施設で看取りの講演の実施、在宅療養を考える会に参加し、地域の居宅介護支援事業所や在宅サービス事業所と連携のとりやすい関係は構築できていると思います。

看護記録や書類の見直しなど、業務改善を行い、1人の利用者担当以外の複数の看護師が訪問できる体制を整えることで、緊急訪問や急な勤務変更に対応できるようになりました。加えて訪問時間の調整ができるようになり、新規の依頼や重症者へスムーズに対応できるようになりました。

在宅での看取りも継続して行っており、今年度訪問回数5,000件を達成することができました。

院内への研修は参加できましたが、院外はほとんどできませんでした。看護の質の向上のために促進していかなければいけない課題です。

今後も地域に適した、個々の利用者寄り添った質の良い看護が提供できるように努力していきたいと思えます。

（文責 塩原 由理江）

## 【薬剤科】

今年度は昨年度から引き続き、新型コロナウイルス対応が、薬剤科業務の多くを占める1年となりました。今年度から新型コロナ治療薬の選択肢が増えたことにより、使用方法の提案を行い、当院における治療方針作成に関わりました。また治療薬の流通が厚労省管轄となるため、施設登録から発注・管理まで薬剤科が担当して、治療に影響がないように業務を行いました。

また新型コロナ感染第5波が落ち着いた10月には、実行委員会と薬剤科が幹事を担当して「松本市立病院 健康フェア」を開催しました。コロナ禍が続く中、地域の皆様がご自身の健康について、また感染症対応を行っている当院について、関心を持っていただくよい機会となりました。

来年度からは、四賀の里クリニックへの薬剤師配置など、薬剤科の体制も大きく変わります。松本市病院局の薬剤師の立場から、病院、地域医療に貢献していきたいと考えます。

(文責 御子柴 雅樹)

## 【治験業務】

本年度は昨年度からの続きの1治験9症例の治験を継続実施しました。(RTA402 第Ⅲ相臨床試験(糖尿病性腎臓病患者を対象としたプラセボ対照ランダム化二重盲検比較試験):12症例、2018年5月20日開始。

(文責 石塚 剛)

## 【医薬品情報業務(DI業務)】

薬事審議会規定に沿い、薬事審議会を1回開催し、医薬品の採用、削除、有効性、副作用、経済性、適正使用などについて検討を行いました。本来、年3回開催する運用ですが、新型コロナウイルスの影響により本年度は1回の開催となりました。

情報誌の発行では、薬事審議会での決定事項、新医薬品の使用方法、PMDA発表資料、トピックスなどの情報をまとめた院内医薬品情報誌「医薬品情報」をイントラネット上の掲示板に随時掲載し、また採用医薬品の添付文書改

定情報を掲載した「医薬品情報BOX」を定期的に発行しました。

医薬品情報提供サービスにおいては、常に改定作業を行い、医薬品データベースは年12回の医薬品データの更新と情報改定を行い、最新の医薬品データの提供を行いました。

情報システムでは、電子カルテのオーダシステム・TOSHO 調剤システムにおいて、システムおよびマスタの統括管理を行い、リスク回避対応では、システム変更の提案とカスタマイズを行いました。

新型コロナウイルス感染症に対する治療薬の採用と使用方法の検討を行うため、新型コロナウイルス感染症対策本部会議に定期的に出席し、当院での治療方針について検討しました。

(文責 石塚 剛)

## 【薬品管理業務】

在庫管理システムを変更し、同一システムを四賀の里クリニックでも採用することにより、医薬品見積りの統合を図りました。四賀の里クリニックへ月1回程度、薬剤師の派遣を行うことで薬品の適正管理に努めるとともに、電話等でも補助を行いました。来年度は薬剤師1名を派遣し適正在庫の管理や松本市立病院との採用医薬品の統一を進めていきます。

昨年に続く後発医薬品メーカーの業務停止による影響で医薬品の安定供給が難しい状況となりましたが、他社製品への切り替えや門前薬局と小分け購入等連携をすることで、できる限り患者の不利益が生じないよう薬品管理を行いました。

見積もりでは、一部の卸業者の不正によって入札に参加できる卸が限られ、例年よりも少ない2社の契約となりました。納品が困難な医薬品も多数ありましたが卸と密に連携をとり問題のないよう対応しました。

購入金額上位の品目は抗癌剤、新型コロナウイルス治療薬、透析用薬剤でした。本年度の最も高い購入額となった医薬品はアバスチン点滴静注用400mgでした。次いで新型コロナウイルス感染症治療薬であるベクルリー点滴静注用100mgとなりました。

(文責 山田 志織)

#### 【TDM 業務】

2021年度は薬物血中濃度測定件数433件(院内測定薬剤はジゴキシン:58件、フェニトイン:25件、バルプロ酸:89件、バンコマイシン:20件)でした。

測定値評価は164件(院内測定薬剤はジゴキシン:49件、フェニトイン:18件、バルプロ酸:81件、バンコマイシン:16件)でした。

今年度は測定、評価件数は共に増加しました。今後も安全な薬剤使用のために、適切な血中濃度の評価、解析を行ってまいります。

(文責 角田 裕幸)

#### 【注射薬調剤業務】

2021年度は入院注射箋枚数:18,826枚(前年比+1,135枚)、高カロリー輸液無菌調製件数:407件(前年比-206件)、抗癌剤無菌調製件数:537件(前年比-127件)でした。入院注射箋枚数は前年度と比較し増加しましたが、高カロリー輸液無菌調製件数、抗癌剤無菌調製件数は減少しました。また、今年度は、新型コロナウイルスのワクチンの調製を行いました。

(文責 丸山 稔)

#### 【病棟業務】

各病棟専任薬剤師が患者の病態を把握して、処方提案を行い、医師、看護師と連携することで薬物治療に貢献出来ました。また、疑義照会を通して安全な薬物療法に貢献出来ました。

2021年度の薬剤管理指導件数は2,646件(薬剤管理指導料①306件、薬剤管理指導料②2,340件)、退院時薬剤管理指導料326件、麻薬管理指導加算31件となりました。

総薬剤管理指導加算の点数は904,670点となりました。

算定件数、加算点数ともに、昨年度と同等な結果でしたが、新型コロナウイルス対応以前との年度比較では、1,000件程度、低下していました。

(文責 小野里 直彦)

#### 【調剤業務】

外来処方箋枚数は、院内10,116枚(前年度より2,465枚増)、院外43,906枚(前年度より42枚増)、院外処方箋発行率は、81.3%(前年度は85.1%)であり、前年と比べ院内処方の件数が大きく増加しました。増加の要因として、発熱外来の患者数増加に伴う院内処方の増加が挙げられます。今後も発熱外来に対応する院内処方続くものと思われま。

調剤においては、ジェネリック薬品メーカーの供給低下に伴い在庫不足となる薬剤が増え、その対応に追われました。他のメーカーへ切り替えや先発品に戻すなどの対応を行い在庫確保に努めました。

また、新型コロナウイルス対応としては、ラゲブリオ、パキロビッドパックの内服が開始となり、薬剤管理を行っております。

(文責 角田 裕幸)

#### 【製剤業務】

2021年度は、21製剤の院内製剤を行いました。主にムーベン、3%酢酸、50%塩化第二鉄液であり、それぞれ、1,049件、57件、8件の製剤を行いました。また、昨年度から引き続き、院内製剤として、手指消毒剤であるオスバンアルコールグリセリン液の調製を710本分(500mL/本)行いました。

今年度から、膀胱洗浄時に使用するソリューションGの調剤を20件行いました。

(文責 高田 周平)

## 令和3年度 処方箋枚数統計

### ① 院内処方箋枚数 (枚) <<外来>>

診療科	内	外	整形	小児	産	婦人	眼科	耳鼻	皮膚	泌尿	脳外	透析	形外	麻酔	総合	リハ	歯	健康	在宅	合計
年間	2,602	735	356	381	27	32	14	6	27	255	169	564	4	3	4,578	1	2	193	167	10,116
月平均	216.8	61.3	29.7	31.8	2.3	2.7	1.2	0.5	2.3	21.3	14.1	47.0	0.3	0.3	381.5	0.1	0.2	16.1	13.9	843.0

※令和1年度よりリハビリ科、歯科口腔外科、在宅診療科の項目を追加した。

### ② 院外処方箋枚数 (枚) <<外来>>

診療科	内	外	整形	小児	産	婦人	眼科	耳鼻	皮膚	泌尿	脳外	透析	形外	麻酔	総合	リハ	歯	健康	在宅	合計
年間	17,014	2,402	5,140	1,717	468	1,204	739	392	1,293	4,356	1,850	1,874	66	34	5,298	22	30	2	5	43,906
月平均	1,417.8	200.2	428.3	143.1	39.0	100.3	61.6	32.7	107.8	363.0	154.2	156.2	5.5	2.8	441.5	1.8	2.5	0.2	0.4	3,658.8

### ③ 入院処方箋枚数 (枚) <<入院>>

診療科	内	外	整形	小児	産	婦人	眼科	耳鼻	皮膚	泌尿	脳外	透析	形外	麻酔	総合	リハ	歯	健康	在宅	持参薬	合計
年間	8,568	4,465	4,819	538	1,019	379	21	7	40	987	866	188	10	1	1,376	0	11	0	2	2,405	25,702
月平均	714.0	372.1	401.6	44.8	84.9	31.6	1.8	0.6	3.3	82.3	72.2	15.7	0.8	0.1	114.7	0.0	0.9	0.0	0.2	200.4	2141.8

※平成23年7月より持参薬処方開始のため、持参薬の項目を追加した。

### ④ 院外処方箋発行率 (%)

診療科	内	外	整形	小児	産	婦人	眼科	耳鼻	皮膚	泌尿	脳外	透析	形外	麻酔	総合	リハ	歯	健康	在宅	合計
	86.7	76.6	93.5	81.8	94.5	97.4	98.1	98.5	98.0	94.5	91.6	76.9	94.3	91.9	53.6	95.7	93.8	1.0	2.9	81.3

## 令和3年度 注射箋枚数統計

### ① 入院注射箋枚数 (枚) <<入院>>

診療科	内	外	整形	小児	産	婦人	眼科	耳鼻	皮膚	泌尿	脳外	透析	形外	麻酔	総合	リハ	歯	健康	在宅	合計
年間	8,063	4,323	685	293	735	209	0	0	0	807	1,012	460	0	33	2,206	0	0	0	0	18,826
月平均	671.9	360.3	57.1	24.4	61.3	17.4	0.0	0.0	0.0	67.3	84.3	38.3	0.0	2.8	183.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1568.8

### ② 高カロリー輸液無菌調製注射箋件数 (件)

診療科	外来		入院		
	外	合計	内	外	合計
年間	109	109	98	200	298
月平均	9.1	9.1	8.2	16.7	24.8

※処方があった診療科のみ表示

### ③ 抗癌剤無菌調製注射箋件数 (件)

診療科	外来					入院				
	内	外	婦人	泌尿器	合計	内	外	小児	泌尿器	合計
年間	56	380	11	55	502	2	18	1	14	35
月平均	4.7	31.7	0.9	4.6	41.8	0.2	1.5	0.1	1.2	2.9

※処方があった診療科のみ表示

## 【放射線科】

### 【目標】

- 1 新病院基本設計の策定
- 2 経営の健全化
- 3 人材の育成、画像検査の質的向上

### 【数値目標】

平成31年度と同等の検査数とする。

- ・CT 9, 335件
- ・MRI 3, 060件
- ・超音波 5, 738件
- ・マンモグラフィ 2, 280件

### 【取組み内容】

- 1 画像診断の全領域の技術を向上させ、経営の健全化と診療に貢献する。
- 2 各技師が積極的に学会等へ参加し最新の画像機器や技術について知識を深める。
- 3 自分の仕事の質を評価し、技師間において技術（知識）の共有を行う。
- 4 人称確認と内容確認をし患者間違いに注意する。
- 5 安心して検査を受けられるよう患者さまへの声かけと気配りに注意する。
- 6 円滑な業務ができるよう職場コミュニケーションの向上に努める。

### 【業績】

検査件数は、前年比CT：12%増、MRI：8%増、マンモグラフィ：13%増、超音波検査：10%増となっています。

資格取得に関しては、COVID-19の影響により新たな資格の取得には至りませんでした。

発熱外来専用のCTを新たに導入し一般患者との動線を分けることができました。撮影数については、肺炎の重症度判定のため大幅に増えました。

感染症病棟で使用するための専用の移動用X線撮影

装置とフラットパネルを導入しました。これにより病棟外へのウイルスの拡散防止となっています。

X線DR装置についても感染対策機能を有する装置に変更し、一般患者との動線を区別することに役立っています。

### 【COVID-19による影響】

令和3年度の検査数は令和元年度の件数には届きませんでした。増加傾向を示し総検査件数は前年度と比較し、10%増となっています。

CTに関してはCOVID-19の感染拡大により前年比12%の増加となり、過去最多の検査件数となっています。

### 【スタッフ構成・勤務体制】

- ・診療放射線技師：9名。
- ・全日当直体制をとり救急対応。

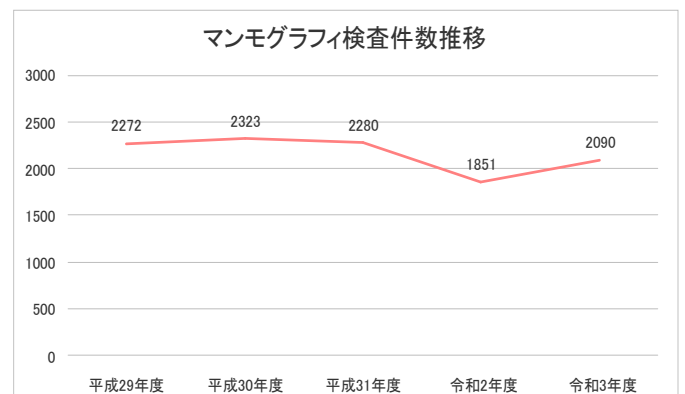
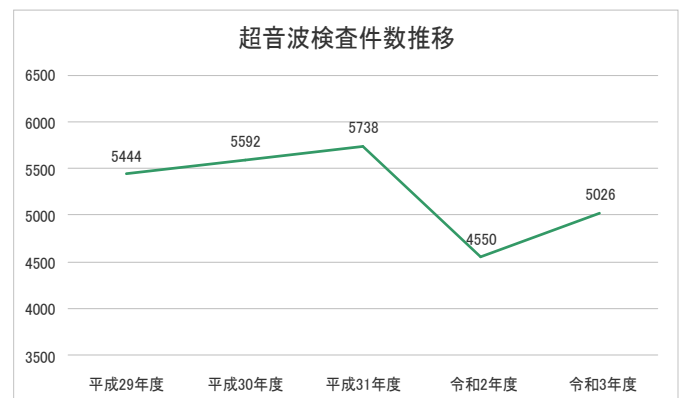
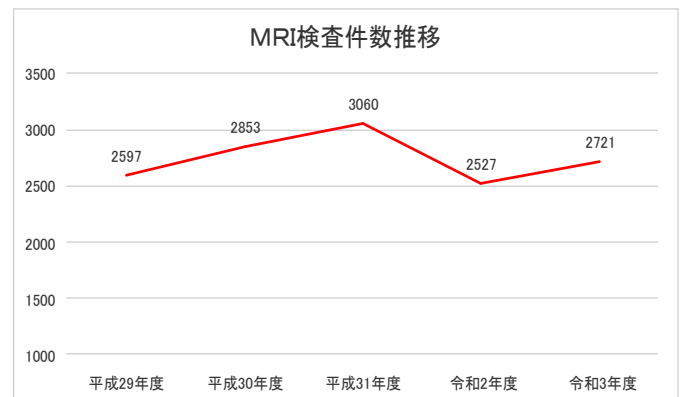
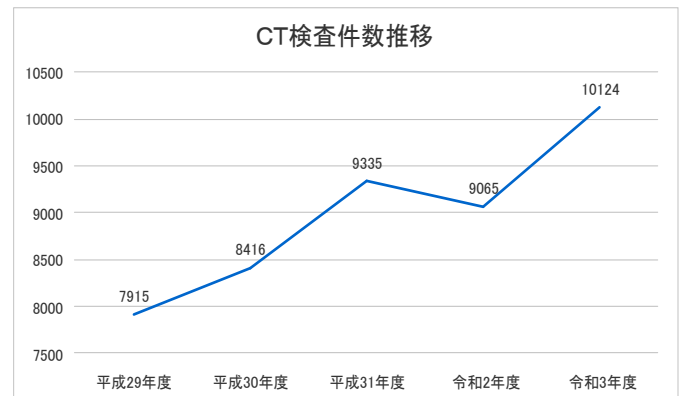
### 【設備機器】

一般撮影装置	3台
ポータブル撮影装置	3台
フラットパネル	4台
乳房撮影装置	2台
マンモトーム	1台
骨密度測定装置	1台
X線DR装置	1台
64列マルチスライスCT装置	1台
80列マルチスライスCT装置	1台
1.5テスラMRI装置	1台
DSA血管撮影装置	1台
超音波検査装置	2台
CR装置	3台
外科用イメージ	2台
歯科用撮影装置	1台
ドライイメージャー	1台
RIS・MWM	1台
PACSシステム	

【所属学会・取得資格】

日本放射線技師会会員	3名
長野県放射線技師会会員	4名
死亡時画像診断（A i）認定技師	1名
C T認定技師	2名
肺がんC T検診認定技師	1名
日本超音波医学会会員准会員	4名
乳腺超音波講習会試験（A判定）	2名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	4名
第一種放射線取扱主任者	1名
超音波検査士（消化器・体表臓器）	2名

（文責 川澄 豊）



## 【検査科】

### 【目標】

- 1 検査の質の向上・チーム医療推進・スキルアップ
- 2 経営面の努力
- 3 医療安全に積極的に取り組む
- 4 患者接遇の改善

### 【検体検査部門】

生化学 37,890件（前年度比4.4%増）  
血球計算 31,652件（前年度比4.8%増）  
尿検査 15,268件（前年度比4.0%増）

検査件数は昨年度と比較して生化学検査、血球計算、尿検査とも新型コロナウイルス感染症を受けた前年度と比較して5%程度増加しました。

2020年度より稼働している生化学免疫測定機器は精度の向上、TARの短縮に寄与しているものと考えます。また今後新病院建設が本格化するにあたり、現有機器の更新等の検討を今後順次進めていきたいと考えています。臨床に対し、迅速かつ正確な報告に向け、コロナ禍において明確となった課題を来年に活かし、検体部門の充実をしていきたいと思ひます。

（文責 中林 徹雄）

### 【輸血検査部門】

血液型 748件（前年度比3%増）  
抗体スクリーニング 594件（前年度比5%減）  
使用製剤年間使用数はRBC：384単位、FFP：40単位、PC：110単位でした。

新型コロナウイルス感染症の影響により件数が減少する分野が多い中、輸血部門検査数は前年度と変わらない状況となりました。輸血医療はどんな状況下でも必要な医療であり、安全かつ適正な輸血が提供できよう対応してきたいと思ひます。

（文責 原口 育美）

### 【微生物・遺伝子検査部門】

一般細菌培養 1,631件（前年度比10%減）  
抗酸菌培養 172件（前年度比35%減）  
SARS-Cov-2 遺伝子検査 5,463件

新型コロナウイルス感染が収束せず、遺伝子検査数（前年度比42%）は増加しました。9月には大型の遺伝子分析装置を追加導入し、増加する状況の中でも、迅速かつ正確な結果報告することができ、新型コロナウイルス感染症診療の一端を担うことができました。1月には、診療報酬の改訂内容に合わせ、コスト面を意識した「糞便培養」の運用の見直しを行いました。

アフターコロナも視野に入れ、変化する状況に柔軟に対応しながら業務改善を行い、細菌・遺伝子検査の発展に尽力したいと思います。

（文責 原口 育美）

### 【病理部門】

症例数は組織診1,279件（迅速組織診断22件を含む）、細胞診3,960件でした。今後も継続して病理検査部門の更なる発展に向け尽力していきます。

（文責 小堺 智文）

### 【生理検査部門】

生理検査総件数は8,315件（健診を除く）でした。10年以上使用していた心臓超音波診断装置を更新し、据え置き型とポータブル型の2台が導入できました。ポータブル機器にて外来患者検査中であっても、新生児や救急患者等の緊急時に対応できるようになりました。更新したことにより精度の向上は勿論、早期診断および検査件数の増加にも寄与できるものと考えます。

今後も生理検査室として精度を保てるように業務改善や知識の向上に努めていきたいと思ひます。

（文責 荻原 由佳里）

### 【ドック・健診部門】

受診者総数 4,504名  
ドック（1泊・日帰り・脳） 1,436名  
健診（協会けんぽ・企業・特定） 3,068名

前年と比較してドック・健診数の増加があり、生理

検査、検体検査ともに増加が見られました。昨年度と引き続き、生理検査前後での感染対策を徹底しました。

今後も、健康管理科と定期的な話し合いを設け、受診する方の検査が円滑に進むよう、常に見直しを行っていきたいと考えます。

(文責 下平 美智子)

#### 【糖尿病関連業務】

自己血糖測定器（以下SMBG）新規貸与者数は49名でした（前年度日1名減）。

新型コロナウイルス感染症が収束しない中での業務でしたが、SMBGの新規貸与者は前年度とほぼ変化はありませんでした。今後もより良い糖尿病治療のサポートが出来るように尽力したいと思います。

(文責 塚原 勝弘)

#### 【勉強会】

第1回	7月30日	担当：中田	尿定性検査基本の振り返り
第2回	8月25日	担当：小堺	Hodgkinリンパ腫LRの一例
第3回	8月27日	担当：萩原	心電図症例検討会
第4回	9月17日	担当：吉田	USが診断に有用だった内臓錯位症候群の1例
第5回	10月29日	担当：岩本	症例報告
第6回	11月26日	担当：山田	凝固検査
第7回	12月22日	担当：塚原	自動血球計算分析装置による白血球算出について
第8回	1月28日	担当：原	長期IUD装着後患者における腹部放線菌症
第9回	2月21日	担当：下平	Hyper ventilationの実施方法にて脳波に有意な差が見られた小児欠神てんかんの症例（集団会）

#### 【学会発表】

第62回日本臨床細胞学会総会春期大会

「穿刺吸引細胞診推定し得た顆粒細胞腫の1例」

筆頭演者：小堺智文

第35回長野県臨床細胞学会学術集会

「炎症性乳癌の臨床像を示した多型形浸潤性小葉癌の1例」

#### 【論文執筆】

「乳癌術後局所再発が疑われた腫瘍に対して穿刺吸引細胞診が有用であった顆粒細胞腫の1例」

筆頭著者：小堺智文

#### 【まとめ】

2021年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けました。新型コロナウイルス感染症検査として遺伝子検査、精密抗原定量検査が数多く実施されました。

一方で一般的な検査数は5%程度の増とやや元直したものの、いまだコロナ以前というわけにはいきませんでした。

今後も臨床から必要とされる検査室を目指し、迅速・正確な検査データを提供し、臨床に役に立つような付加価値をつけた結果報告をしていきたいと考えています。

(文責 中林 徹雄)

【2021年度 検査件数実績】

\* 検査科部門件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体検査	45,841	45,552	46,804	46,114	52,963	42,471	45,582	41,439	43,865	47,882	43,823	49,544	551,880
細菌検査	558	764	571	422	1,070	601	360	297	275	1,065	950	739	7,672
病理・組織診	102	72	102	92	109	80	126	105	143	115	115	118	1,279
細胞診	250	239	322	365	307	383	388	379	375	352	242	358	3,960
生理件数	341	346	356	394	350	303	430	422	455	353	337	424	4,511

\* 健康管理部門 検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体件数	4,429	4,618	8,803	7,996	8,648	9,086	9,989	9,092	8,211	6,966	6,312	6,745	90,895
生理件数	499	553	1,008	920	1,004	1,053	1,186	1,017	939	717	669	691	10,256

## 【リハビリテーション科】

### 【人員配置・施設基準】

令和3年度リハビリテーション科の人員配置は以下の通りです。

- ・理学療法士 常勤13名・非常勤2名
- ・作業療法士 常勤10名・非常勤1名
- ・言語聴覚士 常勤 3名

うち常勤理学療法士3名、常勤作業療法士1名、産休・育児休暇を取得しています（うち2名の理学療法士は10月から3月に一時復帰）。25名の療法士を、急性期病棟・外来担当・回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟・訪問リハビリテーションに配置し、以下の施設基準を取得しています。

- ・脳血管疾患リハビリテーションⅠ
- ・運動器疾患リハビリテーションⅠ
- ・呼吸器疾患リハビリテーションⅠ
- ・廃用症候群リハビリテーションⅠ
- ・心大血管疾患リハビリテーションⅠ
- ・がんリハビリテーション

以上の体制で、小児から超高齢者を対象に、入院早期から外来・在宅まで、入院中は365日、途切れのないリハビリを提供しています。

### 【目標】

「施設基準ぎりぎりの人員配置の中で、昨年度と同程度の患者サービスを維持する」としました。前年度と比べ入院、外来対象患者数は10%増加。訪問は19%減少。業務改善として、急性期入院患者のオーダー漏れをなくす取り組みをし、対象となる患者の70%にリハビリを提供できました。また休日のセラピスト配置数を増やし、休日の対応患者数を増やしています。

コロナ陽性患者に対しては、オンラインでの運動指導を継続していましたが、高齢者の増加に伴い令和4年2月より対面でのリハビリを開始し、入院の長期化を防いでいます。

また、1年かけて準備をしてきたフレイル外来が令和

4年3月より開始となり、リハビリでは身体機能・認知機能の評価、運動指導を担当しています。

### 【院外業務・講師派遣】

地域への貢献のため近隣の以下の施設等への職員派遣は継続しています。コロナ感染状況に応じて施設等を相談し対応しました。

特別養護老人ホーム	ちくまの・ピアやまがた
デーサービス	波田・やまがた
松本市すくすく相談	

出前講座に1回（フレイル予防について）、また松本市フレイル予防講座へ10回職員を派遣しています。

その他、フレイル予防チームを中心に一般向けに動画を作成し配信しました。

フレイルをわかりやすく解説！ 「ハルナさんの明日」編（松本市で使用している紙芝居を題材にフレイルを解説）
みんなで楽しもう！手話つきリトミック体操 ～夢の地図～（耳や目が不自由な方でも行える体操）

### 【研修・研究・学会発表・論文】

スタッフそれぞれオンラインなどの研修会には積極的に参加し、その内容については科内の勉強会で伝達しています。科内勉強会は月2回程度実施しています。

研修などを通して知識を広げ、患者満足度を上げるべく日々努力しています。

（文責 滝澤 明美）

## 別表 令和3年度 科別件数

## 理学療法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	536	423	506	582	520	432	481	483	429	419	341	502	5,654
外科	99	98	102	115	178	164	165	115	243	177	141	204	1,801
整形外科	598	663	704	674	534	567	624	821	871	711	604	715	8,086
小児科	0	0	0	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0
脳外科	137	114	81	79	62	77	75	84	105	138	144	160	1,256
その他	79	40	62	103	145	119	118	122	80	115	139	104	1,226
計	1,449	1,338	1,455	1,559	1,442	1,359	1,463	1,625	1,728	1,560	1,369	1,685	18,032

## 作業療法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	426	304	369	411	309	298	351	337	316	341	271	353	4,086
外科	94	85	106	122	168	157	171	127	246	174	123	196	1,769
整形外科	463	529	593	541	392	417	459	574	626	506	408	542	6,050
小児科	14	15	14	14	13	9	13	13	16	18	15	27	181
脳外科	156	165	153	159	157	139	114	109	117	144	117	139	1,669
その他	52	30	65	144	201	117	123	135	101	112	143	107	1,330
計	1,205	1,128	1,300	1,391	1,240	1,137	1,231	1,295	1,422	1,295	1,077	1,364	15,085

## 言語聴覚療法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	212	153	176	198	205	206	169	182	202	163	90	158	2,114
外科	25	22	45	50	61	41	21	13	21	26	12	25	362
整形外科	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6
小児科	21	18	19	19	21	17	24	20	28	22	20	27	256
脳外科	145	119	178	162	142	81	56	76	78	116	142	152	1,447
その他	8	3	8	10	22	11	55	31	4	5	37	4	198
計	411	315	426	439	451	362	325	322	333	332	301	366	4,383

## 訪問

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療	12	12	11	7	8	7	11	13	12	11	11	12	127
介護	119	121	145	133	129	98	103	114	114	98	105	117	1,396
計	131	133	156	140	137	105	114	127	126	109	116	129	1,523

## 【臨床工学科】

### 【目標】

専門性を活かし、良質で安全な技術提供からチーム医療に貢献すると共に医療事故ゼロを目標とする。

#### 1 血液浄化業務

- (1) 安全、安心、安楽な治療のための技術提供と質の向上。
- (2) 学会、研究会への参加、発表から最新の治療や技術、知識を吸収して導入。
- (3) 関連加算の維持

超音波診断装置によるバスキュラー・アクセス管理の充実

#### 2 MEセンター業務目標

- (1) 医療事故防止に向け、医療機器の安全な管理と効率的な運用。

医療機器の点検、修理、整備の充実と医療機器関連の職員研修

- (2) 医療機器安全管理加算の維持

#### 3 ペースメーカ業務目標

- (1) 外来診察の効率的な運用
- (2) 埋め込み手術、緊急時の支援体制の確立

#### 4 内視鏡業務目標

業務の確立とレベルアップ

### 【業務報告】

血液浄化業務において今年度は多用途透析用監視装置の更新ができず11年以上使用している機器が9台残ってしまう状態となりましたが、多人数用透析液供給装置 DAB-70Si への更新を行うことができました。

装置の性能不足のため透析液流量を制限していた患者にも透析効率を考慮した治療を提供できるようになりました。

旅行透析に関してはCOVID-19の影響のため引き続き受け入れ制限したため0件となりました。

臨時透析に関してはCOVID-19陽性患者の透析を他院から6名受け入れ、計24回施行しました。

在宅血液透析治療（HHD）に関しては、1名の患者について継続して行っています。今後については昨年度同様、患者の動向をつかむことは難しいため状況に応じて対応を検討する予定です。

透析液水質管理業務については透析液安全管理委員会年報にて報告していますが、透析液の清浄化については問題無く、透析液の無菌化が担保されています。透析液水質基準については2016年度版に準拠し管理を行っています。

MEセンター業務において、機器の計画的な保守点検、機器不具合時の迅速な対応を継続しています。

機器のメンテナンス講習、セミナーへの参加は新型コロナウイルス感染症のため実施できない現状です。

内視鏡業務においては、新規に参入し基本的な業務については確立したため今後、よりレベルアップできるよう推進します。

ペースメーカ業務については引き続き遠隔モニタリング加算算定し患者の安全に寄与しています。

### 【血液浄化業務】

血液透析件数	11,606 件 (前年 11,246 件)
旅行・臨時透析受け入れ	6 件
CHDF 年間延べ日数	41 日
PTA（血管拡張術介助）	57 例中 28 例
DHP-PMX（Endotoxin 吸着）	3 例
病棟出張透析	27 回
CART	2 回
LDL 吸着（今年度新規治療としてレカナも開始）	40 回
エコーを用いた VA 管理	90 件
体液量測定	161 件
装置メンテナンス	222 件
透析装置オーバーホール	13 台

### 【MEセンター】

例年と同様に電気メス9台、閉鎖式保育器5台の定期点検を当科において実施しています。人工呼吸器に関して今年度はメーカーによる点検を行いました。

機器の購入に関しては、除細動器（TEC-5631：1台、TEC-8352：2台）・AED（AED-3151：3台）・送信器（ZS-630P：3台）を更新購入しました。

新型コロナウイルス感染症に対する補助金を使用し、ネーザルハイフロー用機器（AIRVO2：3台、コンフォートエア：1台）、MRI対応人工呼吸器（パラパックプラス310：1台）購入しました。

購入とは別に厚生労働省よりCOVID-19対策として、サーボ i を無償譲渡してもらいました。

### 【医療安全対策】

新規導入機器だけでなく以下の研修を行いました。

- ・ポンプ(輸液・シリンジ) セミナー
- ・人工呼吸器セミナー（使用方法・組立など）
- ・ネーザルハイフロー機器
- ・心電図モニターセミナー
- ・除細動器取り扱い研修
- ・AED取り扱い研修
- ・医療ガス安全管理研修

(文責 安部 隆宏)

### 【医療機器点検回数】

点検回数	789 件
輸液ポンプ	530 件
シリンジポンプ	204 件
人工呼吸器	34 件

今年度も引き続きCOVID-19対策のため病棟の制限等あり、入院患者数の減少があった事から医療機器が例年に比べ使用されなかったため点検回数が減少したと考えられます。(修理報告は別添)

中央管理化された病棟設置医療機器については、週1回以上の始業・使用中・使用後点検を行っています。

医療ガス設備点検としてアウトレット外観点検を2回実施しました

### 【学会等の発表、科内勉強会】

院内集談会：赤羽 颯

「COVID-19陽性患者の透析経験」

### 【その他】

超音波診断装置を使用したバスキュラー・アクセスの管理に参入し日常的に患者のシャント管理ができるようになりました。

医療安全に関しては医療機器に起因した3b以上の事故報告もなく安全に寄与できていると思います。

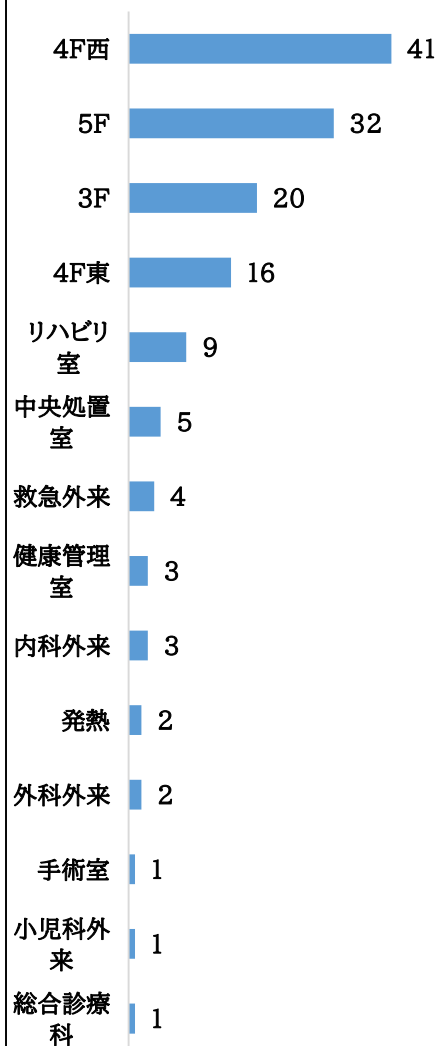
継続してオーバーホールなど保守点検業務を臨床工学科で行う事により、毎年経費の削減に寄与できていると考えています。

COVID-19が収束しないため、研修会や学会などにあまり参加できず、いろいろな問題の対応に苦慮していますが各科員が協力して対応しています。

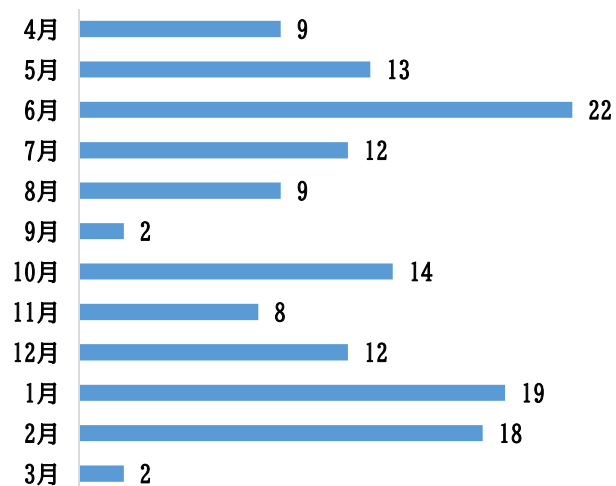
### 修理依頼機器



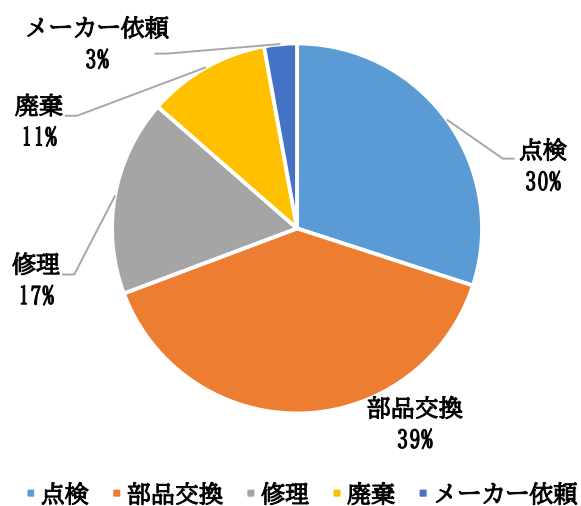
### 依頼部署



### 月別件数



### 修理分類



## 【栄養科】

### 【年間目標】

給食委託業務の確認をします。  
入院患者の適正な栄養管理をします。  
栄養指導の適切な実施をします。

### 【実施計画】

栄養指導件数 100件/月

### 【新しい取り組み】

病棟へ予備食、使い捨て食器配置。  
電子カルテへ栄養量記載。  
水分とろみは嚥下調整食へ統一。  
ペースト菜のエネルギー増量。

### 【新型コロナ感染症対応】

入院：問診・栄養指導等をオンライン対応とし、ディスプレイ食器の2段弁当・とろみ茶用カップ・麺用丼を導入しました。また栄養指導室を内科外来5診横へ移動しました。各種教室については未実施としました。

### 【お祝い膳】

和食から洋食へ変更となりました。提供数は176名/年と前年より46名減少しました。

### 【医療監視日】

2021年11月25日に実施しました。

## 【行事食】

4月	お花見	ちらし寿司、ゼリー
5月	こどもの日	からあげ、2色ゼリー
6月	梅雨入り	鶏天梅じそソース、ゼリー
7月	七夕	ハンバーグ、星型スイカ
	土用の丑	ちらし寿司、うな卵
8月	お盆	天ぷら盛り合わせ、精進煮
9月	お彼岸	2層水羊羹
10月	お月見	きのこご飯
11月	秋メニュー	サンマ梅煮、栗ご飯
12月	冬至	南瓜のいとこ煮
	クリスマス	ハンバーグトマトソースがけ、ケーキ
	年越し	年越しそば
1月	正月	おせち
	七草	七草ご飯
2月	節分	大豆の煮物、ボーロ
	バレンタイン	チョコレートケーキ
3月	雛祭り	ちらし寿司、若竹煮

### 【1日食数(平均)】(新型コロナ感染症対応中)

一般食	188食/日
治療食	加算 118食/日
	非加算 7食/日
計	313食/日

### 【特別食加算(平均)】

件数	96件/月
算定率	77%

### 【入院栄養指導(平均)】

件数	19件/月
算定率	16%

### 【外来栄養指導(平均)】

件数	65件/月
----	-------

(文責 今井 奈緒)

## 【地域医療連携室】

地域医療連携室では、当院の急性期・包括ケア・回復リハ病院という役割の中で病病・病診連携を図ることを主なる仕事として取り組んでいます。

### 【診療支援係】

担当：兼任看護師1名・事務1名

近隣医療機関との外来受診、入院・転院連携、受託検査受け付けや案内、または外部医療機関への検査依頼などの病院連携を主に行っており、近隣医療機関への医療情報提供書・返書などの管理、地域医療連携室に関わるデータ管理もしています。病病連携窓口として大切な役割を担っています。

### 【入院支援センター】

担当：看護師3名（10月～2名）

R1年7月日、院内の正式な部署として開設されました。退院後の生活を視野に入れた情報収集を行い、安心して入院ができるよう、患者・家族へ丁寧な入院説明を心がけています。外来検査説明も行っています。

### 【退院支援係】

担当：退院支援専従看護師1名

専任看護師1名、専任MSW2名

入院患者の退院支援に向けて、患者・家族との面談や病棟でのカンファレンスに参加し、情報の共有をしながら、退院支援計画書に添って退院支援を行っています。必要時、退院前後の患者宅の訪問も行います。

### 【医療福祉相談】

担当：MSW5名

患者からの医療福祉相談、在宅患者の療養環境整備、行政・介護福祉との連携、院内ボランティアの調整を行っています。

### 【広報】

広報を担うため副室長が入院支援も兼任しております。5月診療案内の作成と配布、広報誌「えがお」の地域・医療機関への配布を行いながら、外部広報の顔として活動しました。

コロナ感染症により外部への活動制限がありましたが、経営推進委員が地域連携室担当し、開業医・地域包括ケアセンターへの訪問、またMSWに同行し朝日村地域包括ケアセンターでの会議にも参加し、当院のアピール活動に尽力しました。

### 【すいかフォーラム】

近隣医療機関医師との研修会「すいかフォーラム」は毎年2回開催していましたが、コロナ感染症にて未開催となりました。

### 【信州脳卒中連携パス協議会】

11/9	実務者会議（WEB会議） 参加者：院長・事務
1/11	総括会議（WEB会議） 参加者：院長・事務・リハビリ科

### 【広域救急隊との合同連絡会・研修会】

コロナ感染症にて未開催となりました。

### 【日本医療マネジメント学会長野県支部看護師分科会】

中信地区では8月6日豊科交流学習センターにて幹事会に出席、活動計画案など話し合いました。以降はメールでの意見交換となりました。

11月20日長野県支部特別講演会「高めよ防災力～その時に備えて～松本市危機管理課防災専門官（課長補佐）の講演があり、オンライン研修に参加しました。

### 【波田地区担当職員連絡会】

第1月曜日13:30より波田福祉ひろばにて開催され、病院からコロナ感染症の状況、イベント等について報告し、意見交換ができました。

【出前講座】

フレイル予防・感染症・褥瘡対策に関する申し込みが多くありました。コロナ感染レベル4→レベル3の状況を見ながらでしたが、出前講座は24件、デイホーム出前「にこにこ講座」は4件実施することができました。

(文責 安藤 美喜子)

2021年度 紹介・逆紹介・紹介目的別患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紹介合計数		320	260	302	307	379	929	346	346	349	394	317	317	4,566
外来紹介	診療紹介	210	171	196	220	250	221	230	238	237	288	212	611	3,084
	情報提供依頼	23	13	10	13	28	9	28	15	16	19	17	9	200
	検査紹介	35	19	36	27	30	29	41	54	44	28	26	34	403
外来紹介総数		278	203	242	260	308	269	299	307	297	335	255	254	3,307
入院紹介	病院紹介	16	23	27	10	33	7	19	15	11	30	34	25	250
	医院紹介	23	27	32	37	37	24	25	24	38	27	24	36	354
	施設紹介	3	7	1	0	1	2	3	0	3	2	4	2	28
入院紹介総数		42	57	60	47	71	33	47	39	52	59	62	63	632

逆紹介合計数		246	265	236	194	269	252	222	255	232	255	267	293	2,986
外来紹介	紹介元へ	71	64	63	47	52	57	57	67	69	77	74	68	766
	当院より	163	193	161	135	196	183	155	182	155	161	183	210	2,077
逆紹介外来患者数		234	257	224	182	248	240	212	249	224	238	257	278	2,843
入院紹介	紹介元へ	0	0	0	0	1	0	2	1	0	2	0	3	9
	当院より	12	8	12	12	20	12	8	5	8	15	10	12	134
逆入院患者総数		12	8	12	12	21	12	10	6	8	17	10	15	143

## 【医療福祉相談係】

### 【目標】

- 1 援助者としての専門性を発揮し、相談者が安心して依頼できる体制作りを行う。
- 2 院内・外とさらなる連携を図り、患者様に適した退院支援や在宅へのスムーズな移行を目指す。
- 3 近隣市村と連携し、地域包括ケアシステムにおける病院の役割を果たす。
- 4 コロナ禍でも工夫しながらボランティア活動を推進し、地域に根ざした病院づくりに寄与する。

### 【業務内容】

- 1 専門技術を高める上で、必要な研修会への参加を行い、院内への情報発信にも取り組む。係内勉強会を継続する。
- 2 他医療機関や介護施設・サービス事業者、近隣市町村等と個人情報に留意しながら連携を深める。
- 3 退院前カンファレンス開催により、介護支援連携指導料の算定を行う。入院中2回算定できるよう努める。
- 4 院内他部署との連携を深め、業務内容の見直しを図る。
- 5 感染症に留意してボランティア活動を実施できるように、社会福祉協議会等の関係機関と連携を図る。

### 【活動内容】

1年間の延べ相談件数は6,673件でした。(1名の相談者に対して1日1件と数える)相談のあったケースは1年間に実人数で1,061名でした。(1人の相談者に対して1年間に1名と数える)

2020年度と比較すると、相談件数は303件増、ケース件数については、69件の増でした。外来・その他に関わる介入件数は608件、前年より27件減でした。小児科外来の相談件数が急増しています。相談内容

の80%が介護についての相談となっています。

患者さんに関わる事業者・院内他職種が集まり、退院前カンファレンスを開催しています。介護支援連携指導料算定件数は30件で、入院中2回算定者は1名でした。算定対象外の回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟でも、病棟との共同でより密にカンファレンスや退院支援が行われました。

ボランティア受入れについては感染症の流行に伴い、令和2年1月を最後にボランティアの活動、受け入れを中止しています。感染症の終息を待ち、活動再開を検討していきます。

### 【その他】

4月～12月常勤4名、1月に常勤1名が育休より復帰し5名体制に戻りました。

退院支援看護師の早期の関わりや多職種連携により、課題をより早く明確に把握しやすい体制となっています。回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟での退院支援は、院内・外の連携が密になり、DPC病棟も含めてカンファレンス等により、安心して患者様が退院できるよう対応しています。新型コロナ患者様の退院支援・調整も対応しています。

近隣市村との連携を図り、地域ケア会議等に参加しています。地域の医療・介護スタッフと共同し、事務局として在宅療養を支える会を12月に開催しました。在宅療養を支える会だよりを3月から発行しています。地域関係者との交流・連携を深めています。

産科で社会的介入が必要な方も随時あり、助産師、地域の保健師等と連携し対応しています。より良い支援ができるように、松本市要保護児童対策協議会、信大主催の「こどもかんふぁ」へ助産師とともに参加しています。

小児科発達外来患者の福祉的支援に介入し、医師とともに保育園や学校等での支援会議に参加しています。

(文責 増島 澄子)

相談援助別内容取り扱い件数	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
介護保険利用について（在宅）	3,677	3,779	3,199	3,015	3,062
介護保険利用について（施設）	2,506	2,573	2,316	2,100	2,355
障害者総合支援法活用援助	73	132	123	166	168
転院相談	326	424	496	304	309
制度活用援助	289	267	130	181	143
経済的問題等相談援助	53	93	108	80	103
心理（精神）的問題等相談援助	43	118	106	98	114
担当者会議	139	131	141	102	96
介護・福祉用具相談	29	54	37	65	65
産科相談	138	107	58	33	11
小児科相談			47	111	192
その他	393	257	52	115	55
合計	7,666	7,935	6,813	6,370	6,673

相談援助方法別取り扱い件数	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
来室面接	0	0	0	0	0
院内面接	3,057	3,216	2,821	2,353	2,408
電話相談	2,403	2,504	2,668	2,723	2,508
連絡調整	2,136	2,123	1,219	1,220	1,674
自宅訪問	14	14	14	8	5
申請代行	3	5	6	9	10
その他	53	73	85	57	68
合計	7,666	7,935	6,813	6,370	6,673

入院・外来別（件）	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
入院中相談	6,699	7,030	6,380	5,753	6,065
外来・院外等その他の相談	967	905	431	635	608
合計	7,666	7,935	6,813	6,370	6,673
相談者実件数	1,130	1,158	1,045	992	1,061

2019年度ボランティア受け入れ（2020年度・2021年度なし）

コスモスの会	バルンカバー作り	毎月1回
個人ボランティア	お話し相手	毎週2回
個人ボランティア	マジックショー慰問・バルンカバー作り	年2回
個人ボランティア	アロマセラピー・吸引びんカバー作り	月1回

## 【退院支援部門】

### 【目標】

入院早期より介入することで退院困難な要因を見つけ出し、患者が病気や障害を持ちながらも地域の生活の場に戻り安心して暮らせるための支援をしていく。また、どこでどのように暮らしていきたいかの意向を大切に支援していく。

患者、家族において入院時より早期に面談し退院についての意向確認させていただくことでスムーズな支援活動を行う。

### 【スタッフ】

看護師 4名（専従1名・専任2名）

MSW 1名

### 【活動内容】

- 1 入院後3日以内に患者の退院支援スクリーニングの確認を行い、情報収集しアセスメントしています。
- 2 入院時より7日以内に患者、家族に初回面談し意向確認をしています。
- 3 病棟担当看護師、MSW、専従（専任）看護師とのカンファレンスを行い情報交換しています。
- 4 週1回退院支援カンファレンスを行い課題はないか、スムーズに進んでいるか確認しています。退院支援が必要な患者様に退院支援計画を作成し患者（家族）へ説明し渡しています。
- 5 社会資源の活用などが必要な際はMSWに依頼し介入しています。退院調整においては退院支援看護師、MSWが早期に介入することで在宅や施設の退院先へのスムーズな対応に心がけています。

新型コロナウイルス感染症対応より面会禁止となり、退院支援においても影響がありました。感染対策を徹底し、面談時にも人数制限し短時間でを行い、御家族や行政へも協力を仰いだ形になりました。また、退院支援看護師が、入院時より介入することで

他職種と連携をとり円滑な退院支援が行えるよう取り組みを始めました。今後は、できる限り退院支援看護師が入院時より介入出来るようにとり組んでいくことを検討しています。

入院支援加算	876件/年
小児科（糖尿病小児慢性疾患申請）	2件/年
入院時支援加算	1件/年
小児加算	1件/年
退院前訪問指導料（小児）	1件/年

### 【総合評価への取り組み】

入院中に総合的に身体面・認知面・精神面の機能をFIM、HDS-R、GDS評価させていただくことで心身の状態や介護状況のイメージをしやすくし、退院後の生活に役立てていただくように情報提供しています。

総合評価算定年間件数は526件であり、11月9日、黒河内医師による総合評価研修開催（参加できない方向けに、ビデオ配信）しました。

### 【会義・研修会】

ベッドコントロール会	1回/週
地域連携室会義 （周辺施設との意見交換会は開催できず）	1回/月
認知症会議	1回/月
認知症ラウンド	1回/週
DMサポートチーム会議	1回/月
DMリスクについて研修	1回/年
退院支援に関する研修	Web研修
三郷小学校連携会議	計3回

### 【おわりに】

小児科糖尿病教育入院の患者が2名、うち1名I型DMで学校との連携が必要であり、支援会議を行いました。

地域包括病棟や回復期病棟の開設の伴い、それぞれの方に合ったケアが受けられるようになりました。地域の皆様に寄り添えるよう努めます。

（文責 小林 真由美）

退院支援計画書作成

2021			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	入院患者数 (産科新生児除く)	人	246	238	266	222	299	204	240	217	231	278	305	233
	スクリーニング数①	件	216	230	231	220	296	198	239	192	230	277	292	251
	面談数(延べ)	件	61	7	91	89	90	62	131	214	130	100	82	132
	カンファレンス数	件	81	102	105	90	92	70	115	84	121	106	100	116
	計画書作成数②	件	78	101	99	92	94	74	119	94	125	115	102	111
	作成率②÷①	%	36.2	43.9	42.8	41.8	31.7	37.3	49.7	48.9	54.3	45.5	34.9	44.2

退院先 入退院支援加算 (600点)

2021	退院支援加算実績		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	自宅	件	49	50	47	37	63	45	46	49	49	55	34	47
	有料老人ホーム	件	8	6	8	5	10	7	9	8	7	13	12	8
	介護老人福祉施設	件	1	1	8	5	8	7	6	6	6	11	11	11
	介護老人保健施設	件	4	13	6	7	4	5	7	4	5	4	8	9
	その他 転院	件	3	1	4	7	5	2	5	2	1	7	4	3
	合計	件	65	71	74	61	90	66	73	69	70	90	69	78

合計 876

入退院支援加算における在院日数

2021			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	最短日数	日	5	4	4	2	5	5	5	9	2	4	4	2
	最長日数	日	142	90	106	84	106	138	167	90	145	167	127	123
	平均日数	日	31.2	32.9	27.8	35.5	32.8	31.1	30.4	28.4	33.4	35.8	31.5	40.1

入退時支援加算 (200点)

2021			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	入院時加算件数	件	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

合計 1

総合評価加算 (50点) 月報

2021			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	実績 (退院時算定)	件	20	42	43	51	53	32	43	42	47	30	29	40

合計 526

2021	小児加算	件	1	200点
	退院前訪問	件	1	580点

## 【医療安全管理室】

## 【医療安全委員会】

## 【医療安全推進部会】

(5) 5S活動、医療事故発生時の対応、患者誤認防止、ダブルチェックについて

(6) 医療安全だより「リスクのくすり」の発刊

### 【成果：数値目標】

医療事故・医療訴訟件数	0件／年
事例報告件数	789件／年
医師レポート数	18件／年

報告数の減少には、患者数の減少、事務部による患者情報不備件数の報告件数減少が考えられます。(インシデント事例内容は、グラフにて提示)

安全な医療の提供のため、「ダブルチェック」ポスターの作成、「 Medikation エラー防止」ポスターの更新、「患者確認時のお願い」ポスター作成し、掲示しました。

### 【成果：医療安全研修】

基礎教育研修会：概ね計画どおり実施出来ました。BLSについては、講義のみ採用月に実施し、実技は12月27日に実施しました。

一般教育研修会(全職員対象)は、7月12日～7月16日の5日間にて実施しました。ヒューマンエラー、苦情対応、記録の重要性、呼吸器組み立て、呼吸器管理、心電図、麻薬、ハイリスク薬、抗がん剤、心電図、医療ガス、輸液ポンプ、スキンテアについて、院外講師(ZOOM・ビデオ)と院内担当講師による講義がありました。参加者356名(参加率93%)でした。

RCA大会は、11月26日に実施し、朝からのポスターセッションと6グループ(3部署で分析)によるプレゼンテーションを実施し、219名の参加がありました。

追加研修は、安全衛生委員会とタイアップし「メンタルヘルス・暴言暴力研修」を実施しました。

外部の医療安全研修参加状況として医療コンフリクト・マネジメントセミナーは導入編のみ実施されました。医療安全全国フォーラム、医療の質・安全学会は、コロナ禍において集合研修が中止となり、参加を見合わせました。

### 【目標】

- 1 医療安全の確保について、職員及び患者・家族の意識向上を図る。
- 2 報告する文化・学習する文化を培い、安全文化を醸成していく。
- 3 推進部員が部署内で、役割が発揮できるように支援する。(推進部員の自主的活動の体制)
- 4 医療安全地域連携換算に準じ、第三者の視点を生かし自施設の課題を速やかに改善する。

### 【数値目標】

医療事故・医療訴訟件数 0件／年  
事例報告件数： 1,250件／年  
医師レポート数 20件／年

### 【取り組み内容】

- 1 医療安全研修会の実施
  - (1) 基礎教育研修会(新規・中途採用職員対象)
  - (2) 医療安全管理学・BLS
  - (3) 電源設備、医療機器、医療ガス供給システム
  - (4) 輸血療法、ハイリスク薬など
- 2 一般教育研修会(全職員対象)
  - (1) 医療事故防止全体研修：1日3～5コマ(1コマ30分)5日間にて実施。
  - (2) 院内RCA大会。
- 3 指導者教育研修会(推進部員・全職員)
  - (1) 医療コンフリクト・マネジメントセミナー(導入編)
  - (2) 医療の質・安全学会
  - (3) 推進部員による相互視察
  - (4) 医療安全管理室によるラウンド

【医療安全カンファレンス】

毎週水曜日に1部署毎にリスク報告事例の対応について報告し、検討しました。年間で37事例の検討ができました。

【地域連携活動】

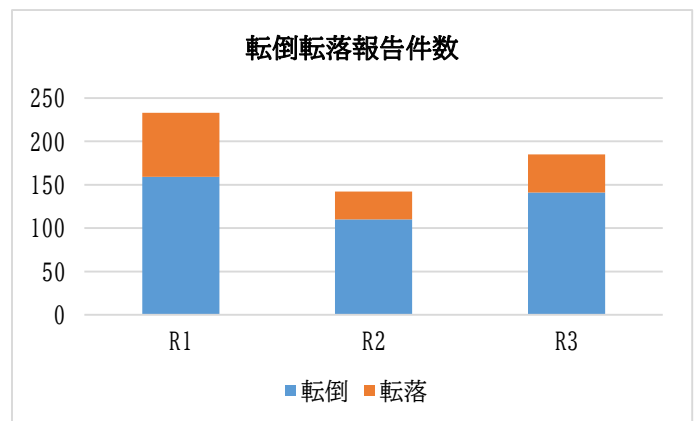
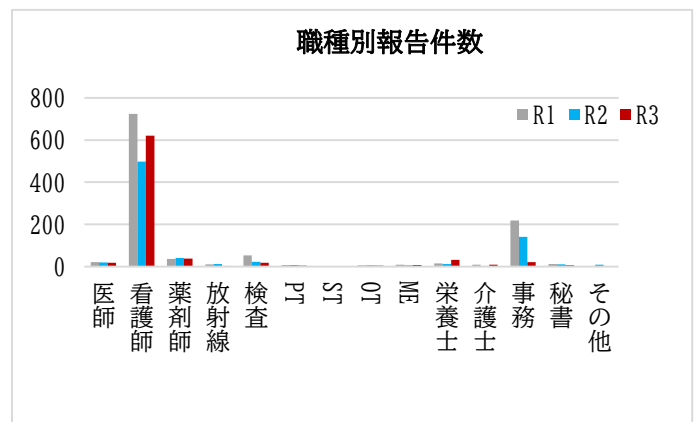
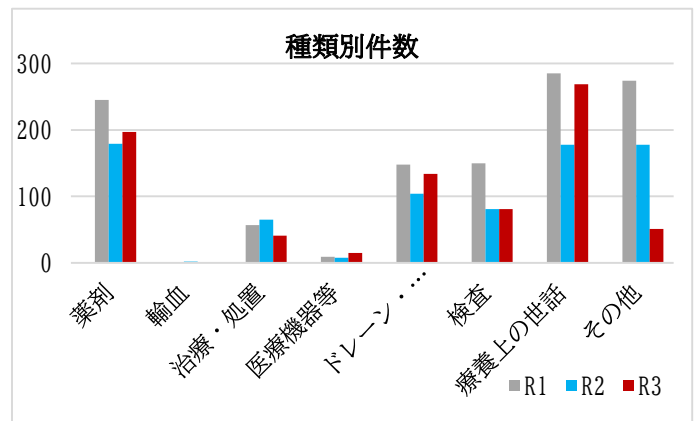
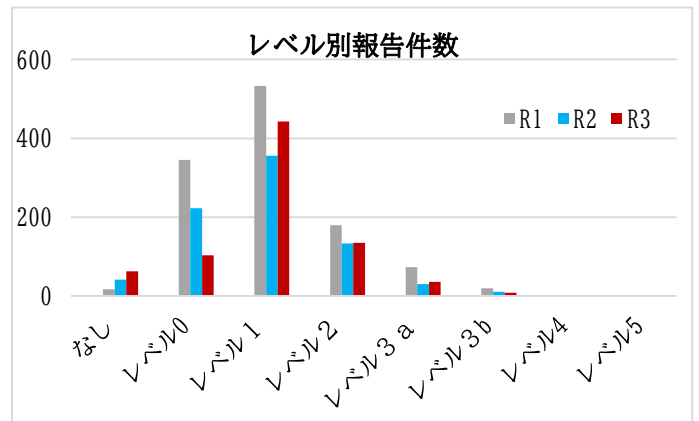
中信地区での地域連携活動が2つ始動しました。

医療安全対策地域連携加算1に伴う相互視察を協立病院と相互に、医療安全対策地域連携加算2に伴う相互視察を藤森病院と行いました。コロナ禍により、ZOOMを用い検討事項を持ち寄り、意見交換の場をつくることが出来ました。

【おわりに】

安全な医療提供が、患者・家族・職員の満足につながると考えます。今後も、医療安全に対する感性を磨き、各部署で発生した事例に関し、推進部員（RM）が中心となり医療事故防止活動を行えるよう関わって行きたいと思えます。

（文責 寺澤 明美）



【感染対策室】

## 【感染対策チーム】

## 【感染対策委員会】

### 【目標】

- 1 新型コロナウイルス感染症の院内感染拡大を防止する。
- 2 いつでも、どこでも、正しく手指衛生と個人防護具の使用ができる。

### 【数値目標】

- 1 手指衛生が「5つのタイミング」で実施できる。
- 2 耐性菌検出率がS I C S S ( J A N I S ) 以下で推移できる。
- 3 研修会2回以上参加。

### 【取り組み内容】

- 1 手指衛生が「5つのタイミング」で実施できる。  
手指消毒使用量をS P D 払出より算出し、毎月関係委員会（I C T 定例会、感染対策、リンクナース会、病院の質向上、運営会議）等で報告すると共に、手指消毒用ディスペンサーの追加設置や研修会、リンクナースによる月間使用量調査を行いました。また、アルコール過敏症職員向けの非アルコール性手指消毒剤やディスペンサー用手指消毒剤をS P D 採用とし、払出量として集計に反映させるようにしました。結果、各部署の年間平均使用量は次ページ資料図①の通りです。前年度を上回る部署もありますが、5部署が前年度使用量を下回る結果となりました。「5つのタイミング」による手指衛生（特に手指消毒）実施は研修だけでは意識付けが不十分であり、次年度は直接観察による遵守状況評価やキャンペーン、手洗いチェッカーによる手技評価等の企画をリンクナースと協働して進めたいと考えます。
- 2 耐性菌検出率がS I C S S ( J A N I S ) 以下で推移できる。  
監視対象菌検出時は細菌検査科よりI C T メンバー

にメール連絡で報告、当該患者情報収集（感染症報告書入力）後ラウンドにて接触感染対策の遵守状況を確認しました。耐性菌検出率は資料図②の通りですが、検出者の多くは入院時培養検査検出（持ち込み）事例でした。

### 3 研修会2回以上参加。

感染対策及び抗菌薬適正使用支援チームとして企画・実施した研修会と参加者数は資料図③の通りです。昨年度に続き、新型コロナ感染予防の観点から集合研修を見合わせ、前期・後期で計4つの指定動画閲覧と振り返りテストに回答する形式を取りました。結果、2回以上参加した職員は全体の97.5%でした（19年度93%、20年度95%）。

昨年度と同様「いつでも受講できる」点が参加率増加に結びついたと考えます。

### 【職員予防接種】

#### B型肝炎ワクチン

インフルエンザワクチン（委託業者を含む）2回接種（接種率94%、19年度91%、20年度95%）  
麻疹、麻疹風疹（MR）、風疹ワクチン（ムンプスは薬剤供給停止につき中止）

### 【院外研修】

昨年度に続き、通常の感染予防策と新型コロナウイルス感染症感染拡大予防や施設内発症時の対応について老人施設、地域講座等で研修を行いました。

（担当：池田 I C N）

### 【地域連携】

藤森病院：合同カンファレンス（年4回開催）

松本協立病院：相互ラウンド（年1回開催）

新型コロナウイルス感染症対応を中心に貴重な情報交換、他者目線での当院評価、アドバイスをいただき大変参考になりました。

### 【学会発表】

21年度、学会発表はありません。

### 【おわりに】

新型コロナウイルス感染症は変異株も出現し、パンデミックは収束気配をみせませんが、コロナ以外の院内感

染対策もチーム内で分担して活動した1年でした。  
 今後も新型コロナウイルス感染症対応はもとより、院内  
 感染防止という目的に向かってチームとして、また関係  
 部署と協働して取り組みたいと思います。

(文責 藤原 恵)

資料① 各部署の年間平均使用量

病棟	使用量：ml／1日／1患者		
	第1目標：10ml、第2目標：30ml		
	2019年度	2020年度	2021年度
3階病棟	6.4	11.9	21.2
4階西病棟	6.5	7.6	6.7
4階東病棟	4.8	5.9	8.2
5階病棟	6.2	8.7	6

病棟 以外	使用量：ml／1人 透析		
	使用量：ml／1人 採血		
	2019年度	2020年度	2021年度
透析	6.1	7.3	6.7
処置室	0.7	1	0.9

## 【医療相談室】

平成16年、医療相談室開設（病院長直属）医療コーディネーター配属（非常勤職員）されており、平成24年、患者サポート体制充実加算が新設される前から患者さんの思いを医療者に伝える橋渡し役として医療メディエーター（医療対話推進者）の資格を持った看護師が常駐する医療相談室が設置され現在に至っています。

令和2年12月、新たに「患者支援ミーティング」が毎週開催されるようになりました。

### 【医療相談室（コーディネーター）の役割】

#### 1 相談の窓口

- (1) 患者・家族の想いに寄添い傾聴し、不安、不満、疑問点などを整理したうえで関連部署につなぐ。
- (2) 医療者側からの相談、依頼に対応する。
- (3) 説明の場を調整し患者・家族、医療者双方の対話を推進し関係の再構築を図る。
- (4) 相談内容の集計（毎月集計、年間集計）

#### 2 ご意見箱（患者の声）

- (1) ご意見の収集、回答の依頼、回答の掲示。（掲示期間は2週間）
- (2) ご意見の集計、対応に関する報告を行ない患者・家族にフィードバックする。（6ヶ月毎の集計、年間集計を掲示）

#### 3 各種会議に出席し報告、改善策の検討

#### 4 教育・研修・学術活動

- (1) 木曽看護専門学校 医療安全研修講師
- (2) 松本市立病院医療安全研修講師「医療事故後の対応・苦情対応の成功例と失敗例」
- (3) 看護部コミュニケーション研修講師「傾聴・メディエーション・アサーション」
- (4) メディエーター養成研修は新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため中止となっています。

### 【実績と今後の課題】

#### 1 マニュアルの改訂

#### 2 患者支援ミーティングの充実

- (1) 報告用紙の修正、患者支援対応フローを作成し、当該部署が改善策を検討した結果を患者支援ミーティングに回答、評価を実施するようになりました。
- (2) 暴言暴力について報告、検討する場を設けました。

#### 3 医療相談

新規相談件数は76件と前年度より13件減少しました。感染症対応による稼働率、患者数の大幅な低下等の影響が推測されます。感染症受け入れ病院として面会制限が厳しい中、「説明がない」「対応が冷たい」等の苦情が目立ちましたが、オンライン面会や荷物の受渡し時に家族に説明するなどの改善策がとられ効果が得られています。医療事故関連の新規対応は0件でした。

#### 4 ご意見箱（内容別年度別集計）

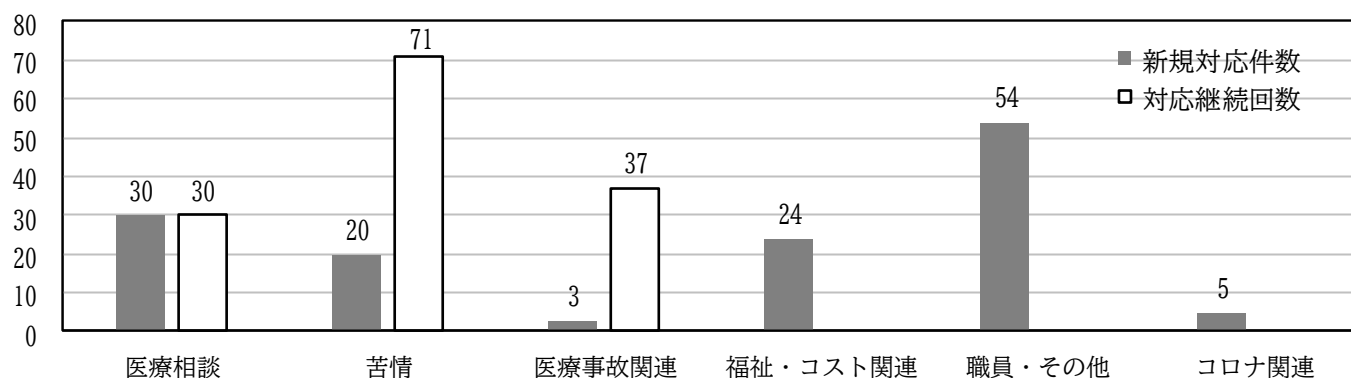
ご意見総数は68件、苦情26件、励まし・感謝24件、設備や病院建築へのご意見が18件でした。ご意見数も年々減少しています。患者さんが意見を言いやすい環境を整える事も必要です。

#### 5 まとめ

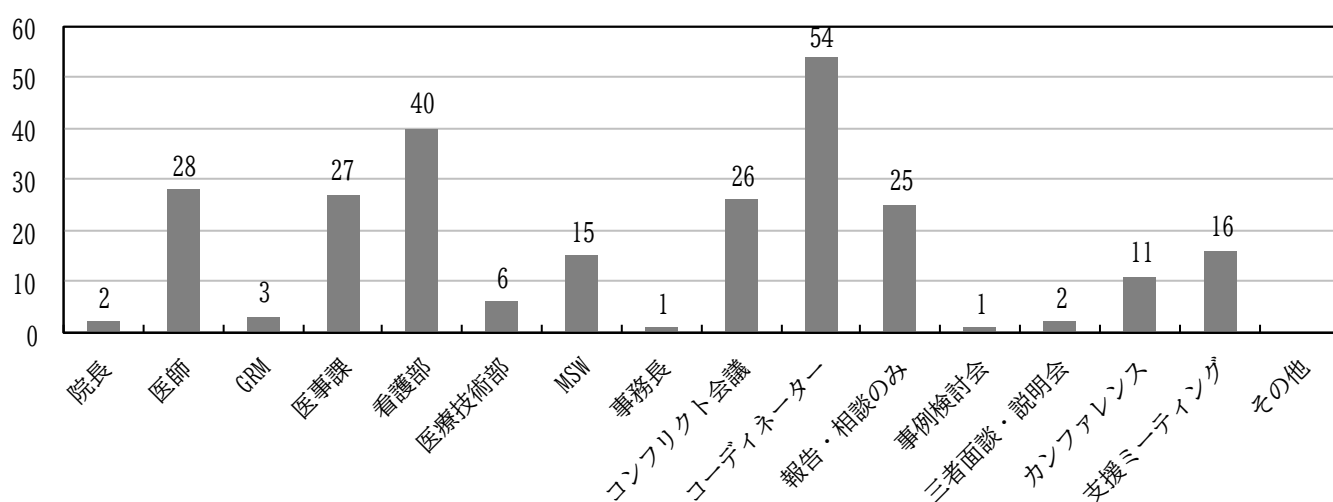
「相手にコンフリクトがない」「これはコンフリクトではない」という判断は危険です。患者・家族と医療者の認知フレームの違いからコンフリクトが発生し、表面化していないコンフリクトもあります。特に医療事故の場合は、医療安全管理室との連携を密にし早期対応ができるよう、過誤の有無を検証した上で説明、対話の場を設けることが重要です。今年度は医療安全全体研修でメディエーションの考え方について全職種に伝えることができました。診療部、看護部、事務部問わず病院の質の向上に役立ててもらえるよう、今後も継続してメディエーションの考え方を広めていきたいと思えます。

（文責 山田 なおみ）

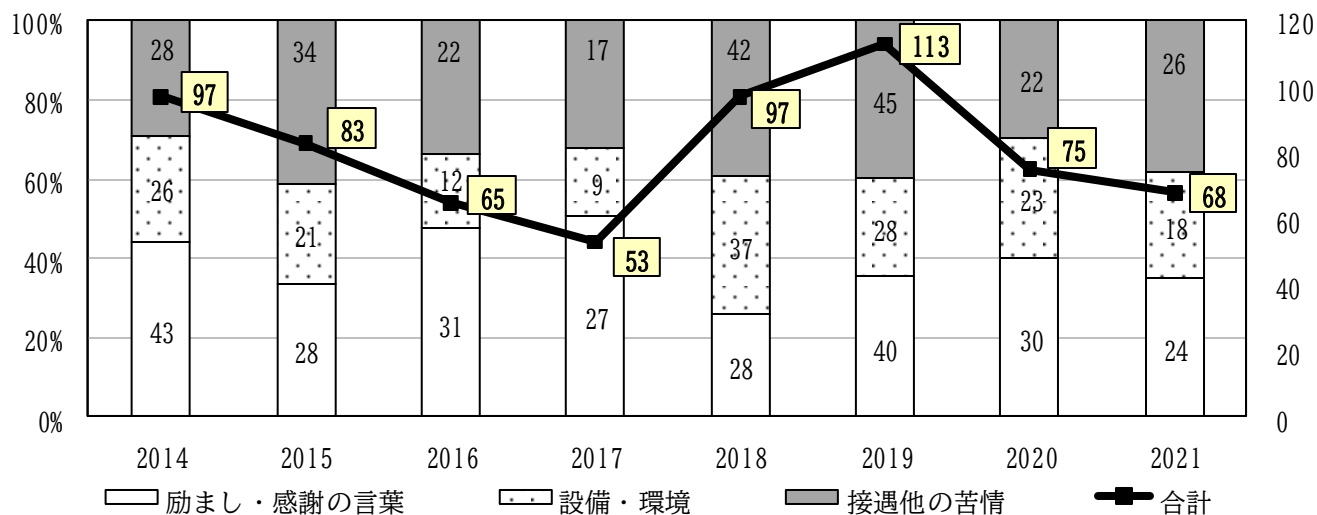
相談内容別件数 (総数289) 2021年度



相談後の対応種別集計



2021年度 ご意見 (患者さんの声) 件数 年度別推移グラフ



## 【医療秘書室】

2008年の診療報酬改定後、全国の医療機関で、医師事務作業補助者（以下略、補助者）の採用が進められています。当院では呼称を「医療秘書」としています。

2021年度は25：1体制のもと、10名でスタートしました。当院医療秘書の業務は、以下のとおりです。

### 【書類作成補助】

書類の多くは、電子カルテ内にテンプレートが登録されており、補助者が作成後に印刷し、医師が確認します。

手書きの書類は、原本のコピーに補助者が下書きした内容を医師が確認後、清書するようにしています。ほぼ全ての書類作成に対応しています。

### 【診療録の代行入力】

補助者には1台ずつノートパソコンが貸与されており、外来診察室で医師の隣に同席し、口答指示にて予約、検査、処置、処方、病名など幅広いオーダー入力に対応しています。

また、透析センターにおいて毎日の透析実施業務、定期血液検査、注射オーダー入力等を当番制で行っています。

さらに2014年度に開設した問診センター（現医師サポートセンター）では初診患者の問診票入力、紹介状の事前入力、処方内容の電子カルテへの転記業務等を行っています。

書類作成補助、診療録の代行入力については年度の初めに医師への希望調査を行い、作成支援を希望する書類、診察時の同席希望の有無を確認しています。

書類作成は医療秘書室で行い、勤務シフトに従い外来・透析業務を行います。他部門から新規の業務依頼があった際は、その場では判断せずに、部署内で検討することになっています。

業務を円滑に行うため、週1回の秘書室内でのミーティングと月1回の定例会議を行っています。定例会議には、統括責任者（診療部長）、外来看護師長、医事職員

も出席し、業務内容の確認、新規業務に関する検討などを行っています。看護部や医事部門から参加することで、他部署との調整や職員への周知を図っています。

### 【医療の質向上に資する事務作業】

新規採用医師への電子カルテの操作説明などを行っています。

### 【その他】

- ・健康診断後の診断書・情報提供書の作成。
- ・乳がん検診、婦人科検診後の結果郵送準備。
- ・HCU入退室時の重症加算業務等。

### 【新型コロナウイルス感染症に関する業務】

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、医療秘書室では以下の業務を行っています。

- ・発熱外来への情報提供書入力、返書作成。
- ・職員や一般患者の予防接種後のカルテ代行入力。
- ・院内PCR検査オーダー入力等

また早急に対処しなければならない事案に対しては、臨機応変に業務に勤めています。

### 【おわりに】

事務のエキスパートとして患者様や他職種を支えるチーム医療の一員を目指していきます。

（文責 佐藤 吉彦）

## 【治験管理室】

2021年度の治験実施状況は下記の通りでした。

### 【治験概要 RTA\_402】

治験依頼者	協和発酵キリン株式会社
住所	東京都千代田区大手町一丁目6番1号
治験薬等の名称	RTA_402
予定される効能・効果	2型糖尿病を合併する慢性腎臓病の腎複合イベントの改善効果

2018年より開始した国内第3相多施設共同・前向きプラセボ対照・無作為・二重盲検・並行二群間比較試験（国内約140施設・約1,100人登録）で当院では登録後の脱落症例はあるものの、8人が継続しています。

### 【治験概要 FIND-CKD】

治験依頼者	バイエル薬品株式会社
住所	大阪府大阪市北区梅田2-4-9
治験薬等の名称	FIND-CKD
予定される効能・効果	非糖尿病性慢性腎臓病の進行に対する標準治療へのFinerenone上乗せによる有効性と安全性の検討。

国際共同第3相多施設・前向きプラセボ対照・無作為・二重盲検・並行二群間比較試験（約240施設・1,580名,国内40施設・158名）で当院では契約3症例予定し、1症例実施中です（2026年3月まで予定）。

## 【おわりに】

コロナ禍で新規治験依頼が少ない状況においても、慢性腎臓病（糖尿病および非糖尿病）への新規薬剤開発は進捗しており、長期間での有効性及び安全性を検討する第3相治験に当院が参加する意義は病院経営においても大きいものです。

特に国際共同試験に依頼されて参加したFIND-CKD治験は県内では当院を含めた2施設のみであることから、これまでの当院での治験実績がより評価された結果であると思われます。

今後も治験コーディネーターはじめ関連部署と連携し、多くの治験に参加することで有益な医薬品情報を入手する機会が増え、病院経営上へのメリットを発信するとともに、安心して確実な治験業務を継続して行く予定です。

（文責 赤穂 伸二）

## 【臨床教育研修センター】

### 【スタッフ】

桐井靖、佐藤吉彦、赤穂伸二、小澤正敬、中田節子、大島千佳、田原勇一、中林徹雄  
(毎月第2火曜日、7:40～定例会)

### 【研修医】

令和3年度は1年次研修医として丸田大貴先生、2年次研修医として田邊颯太先生、合計2名の基幹型研修医の臨床研修を行ないました。

今年度より信州大学臨床研修プログラムの地域医療研修を当院も担当することとなり、4月に増井智基先生が総合診療科、奈川診療所、回復期リハビリ病棟、地域包括病棟、を主たる研修場所として研修しました。また産婦人科には松本協立病院の協力型プログラムとして7月に高野青児先生、9月に駒場渉先生、11月に伊藤慎太郎先生、松本医療センターから10月に太田隼也先生、1月に伊東優一先生がそれぞれ短期研修に来られました。コロナに翻弄されて十分な症例数の確保が難しいなか各々が、各科で診療に参加し研鑽しました。

症例プレゼンテーションと抄読会はコロナの流行状況で非定期となりましたが学生を交えて可能な限り行ないました。

田邊先生は当院の基幹型研修を終えたあと信州大学の小児科専攻プログラムへと進みました。研修医の皆様方が医師として大成することを心より楽しみにしています。

### 【学生実習】

1月11日、第3波により臨床クラークシップIIは全県で実習中止となりました。

4月～6月は通常通りの実習が行なわれ当院にも6名の医学生が実習にきました。自治医大学生実習は、4～6月の基幹病院実習がコロナ禍に移動距離も長いことより中止、8月の地域医療実習はオンライン指導、夏期研修は中止となりました。

8株による第5波に伴い、9月の信大臨床クラークシップが中止となり10月より再開されました。2月までの5か月で18人の実習生を受け入れましたが、救急総合診療科は残念ながら指導体制不足でお断りすることになりました。小児科短期学外実習は6名の学生を受け入れました。

コロナ禍の医学教育への影響は甚大であったと言えます。その様な中で実習した学生には各科の指導医からできる限りの教育がなされました。ご協力頂いた各位に心より感謝申し上げます。

### 【レジナビ参加】

7月17日にレジナビオンライン、2月26日県の医師確保対策室によるオンライン説明会が行なわれました。2年前に作成した当院の紹介動画をもとに当院の紹介を行ないました。病院見学や直接面談で当院の良さを伝える機会が少ないなか、機会を逸さず当院の良さを伝えていこうと思います。なにより研修医に選んでもらえる病院であるよう教育内容をアップデートして行きたいと思います。

### 【おわりに】

基幹型研修医が2名マッチングしましたが、1名が残念ながら国家試験不合格となりました。細々とした研修医の獲得が続いていますが「少人数に手厚い指導」を目指して未来につながる研修医を育てて行きたいと思っています。

(文責：桐井 靖)

【研修医・実習生 症例プレゼンテーション】

※毎月研修医および学生のプレゼンテーションにより症例検討を行なっています。

4/22	児島大貴 (救急科)	入院後 CO2 ナルコーシスを発症し、呼吸停止した症例
	田邊颯太 (小児科)	Air leak による酸素化不良のために退院まで時間を必要とした新生児の一例
	増井智基 信大地域医療研修医	松本市立病院地域包括ケア病棟で経験した二症例
	谷高百合奈 (内科)	閉塞性黄疸で発見された膵頭部癌の一例
6/3	井澤薫実 (救急科)	尿道損傷による血尿を主訴に来院後、敗血症から DIC に至った一例
	安藤史織 (内科)	早期に持続血液濾過を導入することで救命できた重症肺炎の一例
	丸田大貴 (腎臓内科)	重症 AS に慢性腎臓病を合併した HF pEF の症例
7/1	石山愛 (産婦人科)	悪性を否定できなかった多房性卵巣腫瘍の一例
	丸田大貴 (内科)	Two Cases of Esophageal Varices Treatments
7/27	高野青児 松本協立病院	成熟嚢胞性奇形種に対して腹腔鏡下卵巣核出術を試行した一例
8/26	田邊颯太 (循環器内科)	急性胆管炎に対しての ERCP 後に心電図上で ST 上昇を認め、たこつぼ心筋症と診断された一例
	丸田大貴 (小児科)	糖尿病と潰瘍性大腸炎を合併した小児例
9/30	駒場渉 松本協立病院初期研修医 2 年	妊娠中に COVID-19 感染した二例
10/28	田邊颯太 (内科)	重症肺炎の治療後に左上腹部の激痛で再入院となった一例
	久保卓也 (外科)	盲腸癌を先進部とする腸重積の一例
	金田康資 (内科)	高齢発症した Sjogren 症候群によるクリオグロブリン腎症に対しステロイド導入した症例
	新村茜 (整形外科)	腰部脊柱管狭窄部位と異なる高位の神経根障害を認めた一例
10/26	太田隼也 (産婦人科) 松本医療センター	妊娠高血圧症候群、HELLP 症候群疑いで緊急帝王切開となった症例
	吉田維孝 (小児科・学生)	熱性けいれんを既往に持つ 急性細気管支炎の一例
11/25	伊藤慎太郎 松本協立病院初期研修医	子宮筋腫に対して手術治療を行った三例
	桑田浩平 (外科・学生)	絞扼性イレウスの術後に生じた腹壁癒痕ヘルニアに対して修復手術を行なった一例
	太田礼香 (内科・学生)	急性腎障害を合併した ネフローゼ症候群の一例
	内海悠磨 (整形外科・学生)	橈骨遠位端骨折の一症例
	上田悠 (小児科・学生)	頸部リンパ節腫脹が初発症状であった川崎病
	丸田大貴 (外科)	胃切除後に内ヘルニアをきたし緊急手術となった一例
12/23	塚田遼 (産婦人科・学生)	手術適応となった子宮腺筋症の一例
	管紘一郎 (内科・学生)	表在型食道癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を施行した一例
	内海悠磨 (整形外科・学生)	徒手整復が困難で手術を行った橈骨遠位端骨折の一例
1/27	井出想野 (産婦人科・学生)	妊娠 39 週に重症化した妊娠高血圧症候群に対し緊急帝王切開が行われた一例
	伊藤悠馬 (内科・学生)	大動脈解離、心肺停止で救急搬送された一例
	久保寺賢良 (救急科)	入浴中に心肺停止となった一例
2/24	伊東優一 松本医療センター初期研修医	下腹部膨隆・過多月経を契機に発見された子宮筋腫の一例
	藤川真之介 (内科・学生)	定期通院時、黄疸を契機に発見された膵癌の一例
	吉田朋美 (外科・学生)	ESD の適応病変であった早期胃癌に対し、幽門側胃切除術と Billroth I 法再建術を行った一例
	池田光太郎 (救急科・学生)	偶発性低体温症の三例

【抄読会】

※月に一回担当を決めて原著論文を輪読しています。

コロナ関係の再診論文を NEJM を主に輪読しました。

4/20	丸田大貴	アフリカ変異株のアストラワクチンに対する耐性の報告 Efficacy of the ChAdOx1 nCov-19 Covid-19 Vaccine against the B.1.351 Variant:NEJM, March 16, 2021
5/25	田邊颯太	レムデシベルにオルミエントを併用した効果 Baricitinib plus Remdesivir for Hospitalized Adults with Covid-19:NEJM 2021;384:795-807, Jan. 5, 2021 NLMoa2031994
7/27	丸田大貴	ファイザーの COVID-19 ワクチンの 12-15 歳に対する安全性、免疫原性と効果 Safety, Immunogenicity, and Efficacy of the BNT162b2 Covid-19 Vaccine in Adolescents:NEJM, May 27, 2021
	田邊颯太	ファイザーとモデルナの COVID-19 ワクチンの妊婦に対する安全性 Preliminary Findings of mRNA Covid-19 Vaccine Safety in Pregnant Persons:NEJM, April 21, 2021
9/30	丸田大貴	コロナへのヘパリン Therapeutic Anticoagulation with Heparin in Noncritically ill Patients with Covid-19:NEJM, 2021;385:790-802
	田邊颯太	デルタへのファイザーとアストラ Effectiveness of Covid-19 Vaccine against the B.1.617.2(Delta) Variant: NEJM, 2021;385:585-94
10/26	丸田大貴	イスラエルのブースター接種 Protection of Vaccine Booster against Covid-19 in Israel:NEJM 385:1393-400, Sep. 15, 2021

## 【在宅医療支援室】

### 【設置の経緯】

当院は2018年10月に在宅療養支援病院となりました。現在の往診体制の導入期を支えた在宅療養支援推進チームが役割を終え、そのバトンを受け継ぐ形で在宅療養支援室（以下略、支援室）が2021年度に設置されました。

### 【実績】

2021年4月～2022年3月の実績は以下のとおりです。

往診件数 224件

（往診料+在宅患者訪問診療料を算定した件数）

延べ利用数 152名

（在宅患者訪問診療料を算定した患者数）

看取り件数 14件

（在宅ターミナルケア加算を算定した回数）

### 【職員配置（兼務）】

医師 1名

在宅往診担当看護師 1名

訪問看護師 1名

訪問リハビリテーション 1名

医療ソーシャルワーカー 1名

事務員（業務支援） 1名

### 【業務内容】

退院後の通院等が難しくなり、定期往診を希望される患者（ご家族）さまの導入支援を行っています。患者さま等を交えて、ご自宅での療養生活を続けるにあたっての不安や要望を往診導入外来で関係スタッフと共に確認し、往診開始後の持続性のあるケアの質の向上につなげています。

### 【成果】

在宅療養支援病院の届出を契機とした、往診体制の見直しから約2年が経過し、ようやく24時間365日対応や在宅看取りの充実をテーマとした、運用を軌道に乗せることができました。

連携先の関係機関への声かけや病院広報誌への掲載等による活動を重ね、徐々に院内外からの紹介もいただけるようになりました。

地域包括ケアシステムの普及に伴い、「病院の外に出る医療」が必要とされる社会情勢の中で、入院と外来に続く第3の病院機能として、在宅医療の形を当院に残すことができたのは、支援室における2021年度の最も大きな成果でした。

### 【課題】

支援室の活動に係わる認知が進むにつれて、業務の多様性が増加し、実務面でコアになるメンバーがいない兼務中心の職員配置が課題となりました。ご紹介をいただいても支援室の職員が本来の業務に追われてしまい、往診対応に十分な時間を確保できないことがあり、さらなる体制の充実に向けて、運用の中心となる職員を育てる必要があります。

現在の支援室の実績規模では新たに増員を行う収益力はありません。「業務の効率化」と「在宅ケアに関心を持つ職員の発掘」など与えられた環境を踏まえて、中長期的に支援室を支える運用体制について考えていきたいと思っています。

（文責 田中 大貴）

## 【病院総務課 総務担当】

### ・具体的な業務

物品購入、工事等の業者選定、入札・契約事務

(文責 吉沢 武士)

主に松本市の行政事務、院内の調整、人事や給与等の職員関係の事務、医薬品や診療材料等の資材管理、施設や機器の維持管理、物品購入や工事等の契約業務を担当しています。

### 【業務内容】

#### 1 一般庶務

病院の庶務担当で、院内各部署との調整や対外的な様々な問い合わせ等に対応しています。

また、松本市病院局の庶務担当として、市役所内との連絡・調整を担っています。

##### ・具体的な業務

院内調整、医師会等各種団体との協議、文書受付、法規法令の立案・集約、電話交換、各種問い合わせ

#### 2 職員関係

給与や共済組合等の各種手続きや含む・福利厚生を担当しています。

##### ・具体的な業務

人事、給与、共済組合、社会保険等各種手続き、福利厚生、職員互助会

#### 3 資材管理

院内で使用する医薬品や診療材料の調達・管理をしています。

##### ・具体的な業務

医薬品、診療材料、各種消耗品の購入・管理、SPD

#### 4 施設管理

病院の施設や機器の維持管理を行っています。

##### ・具体的な業務

施設・機器維持管理、廃棄物処理、防火・防災・防犯管理

#### 5 契約業務

大型機器から消耗品まで物品の購入や施設内外の工事等の業者選定、契約を行います。

## 【経営企画課】

経営企画課は令和2年に新設されました。

組織横断的な経営方針の策定や経営改善案を企画、提案し迅速に実施するために組織された部署です。

課長（事務部長兼任）以下、経営企画担当、医療情報担当、財政担当、経理担当で構成しています。

電子カルテを中心とした病院における診療情報や経営情報を統括して管理を行い、得られた情報の分析・検討から、病院の運営方針・経営戦略などの意思決定を行うための情報発信や企画立案を行っております。

### 【業務内容】

今年度は新型コロナウイルス感染症への対応を最優先課題として取り組んできました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、第2種感染症指定病院である当院は、感染拡大当初より疑似症を含む新型コロナウイルス陽性入院患者の受入を積極的に対応してまいりましたが、外来においても発熱外来を早くより設置し、発熱症状を有する患者さんの受入体制を構築してきました。

#### 1 医療情報

こうした診療現場を支える為、外来ではドライブスルーによる受診をオンライン診療により実現し、病棟においても、オンラインによる面会環境を構築し、行動制限が求められる中においても、患者さんご家族とご面会の場を提供してきました。

#### 2 広報

当院は新型コロナウイルス感染症に関連する情報公開を積極的に行い、新型コロナウイルス感染症に関わる様々な情報を、各メディアを通じて発信を行ってまいりましたが、その窓口としての業務も担ってきました。

院内においても、新型コロナウイルス陽性入院患者数の状況や、発熱患者の来院状況等、リアルタイムに各現場端末に配信し、職員の情報共有を行ってまいりました。

#### 3 財政・経理

新型コロナウイルス感染症の受入を積極的に行った結果、一般の診療制限や入院・外来患者数の減少により、病院経営は厳しい状況におかれておりますが、各自治体との情報共有を進め、国や県からの補助金の手続き等を滞りなく行う等、病院の安定経営に努めています。



(文責 中島 啓幸)

## 【医事】

超高齢、人口減少社会を迎え、当院でも病院の機能や役割分担を明確化するとともに、在宅重視の医療支援をすすめています。

現在、厳しい経営状況が続き、医事担当では経営改善のため患者増、診療単価増、救急受入増、紹介率・逆紹介率増につなげるべく、様々なデータの分析とシミュレーション等により、病院の重要な方針検討に必要な情報提供に努めています。しかしながら、新型コロナウイルスが蔓延し、感染症指定医療機関としての役割を担うため感染症患者受け入れを積極的に行い、一般診療を制限していることから、入院患者数は減少したままとなっています。

医事職員は患者さんと直接関わる部署として、患者さんが当院にまた来たいと思って頂けるように職員の質を向上させ、接遇に心がけ、患者さんの期待に応えられるような病院作りをこれからも努力してまいります。

### 【業務内容】

#### 1 医事業務

##### (1) 診療報酬請求事務

保険請求（返戻・査定対策業務）  
自賠・労災・保健福祉事務所報告  
厚生労働省保険事務局届出  
産科医療保障制度

##### (2) 受付・請求業務

外来、入院、診断書等書類申請  
会計、現金管理、診療費窓口徴収会計  
未収金整理（督促・催告）還付

#### 2 経営改善策の提案

##### (1) 各種データ分析

他医療機関とのベンチマーク分析  
施設基準届出・管理

（文責 波多腰 孝之）

### 【診療情報管理室】

診療情報管理室では、入院患者さんの病歴作成業務、DPC データ作成、診療記録の管理、診療記録開示、医療統計作成等の業務を担当します。蓄積するデータの精度管理や、データから医療統計分析を実施し、医療現場へ情報を還元する業務も担当します。医療の質向上に役立つよう、情報共有や病歴登録方法の意識統一を密にし、精度の高い診療情報の管理に尽力しています。

近年、電子カルテの発展が進み、診療情報管理業務の内容も変化しています。紙媒体の診療記録をどのように保管するかという「物の管理」から、「情報の管理」へと移り変わってきています。

当院では、電子カルテ導入から17年、DPC 導入から8年が経過し、質の高い病名コーディングや、精度の高い統計分析など、期待される役割はますます大きくなっていると考えます。

#### ○診療情報管理室の業務内容

##### ※病歴統計業務

退院患者病名登録、退院患者手術登録、退院時要約確認業務、死亡診断書登録など

##### ※情報提供・データ抽出業務

「DPC 導入の影響評価に係る調査」、「COVID レジストリ研究事業」、全国がん登録への患者情報提供、NCD (National Clinical Database) 登録、定期報告資料の作成、各部署から依頼される統計資料の作成等

##### ※データ分析

DPC データ分析ソフト「girasol」でのベンチマーク

##### ※紙カルテ管理業務

紙媒体診療記録の製本、紙カルテ貸出等

##### ※診療記録の開示業務

患者さん等から開示依頼された診療記録（診療録、検査結果、画像等）の提供

##### ※その他

委員会事務局（診療記録管理委員会、クリティカルパス委員会、DPC 委員会等）

（文責 診療情報管理士 神田彬文）

## 【安全衛生委員会】

安全衛生委員会では、労働者の危険または健康障害を防止するための基本となるべき対策（労働災害の原因および再発防止対策・メンタルヘルス対策など）の重要事項について調査審議を行っています。また委員会は、毎月1回開催されています。

### 【構成】

総括安全衛生管理者（産業医）  
第1種衛生管理者（2名）  
感染対策室（ICN：感染管理看護師）  
病院労働組合  
メンタルヘルス担当  
各部署より選任された者

### 【研修】

放射線被曝・職業感染防止研修会	
2021年5月26日 川澄放射線技師長 藤原 ICN	新入職員を中心に、全職員を対象として開催しました。安全に医療を提供するため、自分自身を守るための知識を学びました。
暴言暴力・ハラスメント研修会	
2021年12月23日 日本産業カウンセラー協会 窪田明美先生	働きやすい職場環境や風土を作るため、具体的な事例をあげて、講義いただきました。 (参加者 90名)

### 【放射線被曝線量管理】

透視下での検査や処置では、関わる職員の放射線被曝線量が高くなる傾向になるため、透視装置に防護クロスを設置しました。また、透視検査に関わる職員に眼の水

晶体用線量計を導入し、被曝量の確認だけでなく、職員の安心にも繋がりました。

### 【新型コロナウイルス感染症関連】

全職員が健康チェックシートに沿って毎日の体温測定、症状の有無の自己チェックを継続しています。

### 【メンタルヘルス関連】

12月に全職員を対象にストレスチェックを実施しました。実施者は325人で実施率は87%でした。高ストレス者には面談の声かけを行いました。

### 【おわりに】

引き続き、職員の健康保持増進、安全な職場環境の確保に努めていきたいと思っております。

(文責 岩田 麻美)

## 【医療ガス安全管理委員会】

当委員会は医療法などにに基づき設置されており、中央配管の酸素、窒素、圧縮空気、笑気ガスや、酸素ポンペ、炭酸ガスポンペ、吸引などの医療ガス関連の安全管理や保守点検を行ない患者様の安全を確保しています。

2017年9月6日に厚生労働省医政局より、医療ガスの安全管理について通知が出され、より安全に医療ガスが使用できるよう、保守点検の必要性・研修の必要が増しました。この通知に準拠すべく取り組んでいます。

### 【年度目標】

医療ガスの安全な取り扱い及び医療ガスに起因する医療事故の防止。

### 【実施目標】

医療ガス設備点検（委託業者定期点検、臨床工学科による医療ガスアウトレット外観点検、事務職員等による日常点検）や老朽化した設備の改善、維持をします。

啓蒙活動として全国の医療ガス関係事故事例の収集と分析、対応と注意喚起、医療ガス保安講習会への参加をしていきます（今年度も新型コロナウイルス感染症により、講習会へ参加することが出来ませんでした）

新規採用職員及び医療安全研修会で医療ガス設備の説明（配管設備、ガスポンペ、その他）を実施します。

### 【実施事業】

#### A：事務職員による点検

液体酸素、日常点検実施（毎日）

#### B：臨床工学科による点検

液体酸素、ガス庫（吸引・圧縮空気・酸素・笑気・窒素ガスポンペの点検、エアドライヤ、コンプレッサの水抜き（毎週月曜日）

医療ガスアウトレット外観点検（年2回）

10月、2022年3月

#### C：定期医療ガス設備点検（年4回）

岡谷酸素・エア・ウォーター防災により5月、8

月、11月、2022年2月行っております。

研修として4月新規採用職員オリエンテーションを開催しました。7月にはリスクマネジメント研修として医療ガスの取り扱い研修を行いました。

### 【医療ガス事例報告】

ガス庫にあるエアドライヤ1台（NO. 2）が経年劣化による内部腐食にて故障、漏電したため停止中です。

経緯：2022年1月21日原因不明でブレーカーが落ち、ガス監視盤電源喪失、ガス庫内換気扇停止してしまう事例が発生しました。ブレーカーを立ち上げにて復旧したため様子を見ましたが、1月24日同様事例が発生しました。再度立ち上げするも状況変わらず、中部電気保安協会、関電工、岡谷酸素へ連絡し原因究明依頼したところ、漏電によることが判明、使用中止し症状改善となりました。

以前より定期点検時に内部腐食の指摘があり、更新の提案がありました。しかしエアドライヤは2台あり、1台については2020年度更新済みであり、また病院移転のタイミング等考え、保留としていたところでした。

### 【職員研修】

- ・4月新人オリエンテーション 9名参加  
「医療ガスの取り扱いについて」
- ・7月リスクマネジメント研修 19名参加

### 【まとめ】

2022年度も医療ガスに係る事故防止に取り組みます。

（文責 安部 隆宏）

## 【NST委員会】

### 【年間目標】

低栄養患者の適切な栄養管理について、多職種が団結して専門性を発揮するチーム医療を目指します。

### 【NST回診】

全病棟：NSTカンファレンス、第2・4金曜日、14：00～15：00、各病棟15分（回復期別）第1・3は褥瘡回診、第2・4は褥瘡評価も併せてしました。

### 【NSTランチタイムミーティング】

12：45～13：15実施、7月から各スタッフより、一通りの内容を実施し新人職員への研修としました。後期は症例検討勉強会、業者からの勉強会は出来ませんでした。（新型コロナ感染症対応）今後は、オンラインでの講習会などを受けていくことを検討していきます。

### 【取り組み】

共通カルテを使用するよう検討、開始しました。他職種が同日のカルテへ記載することで、見やすくコンパクトになりました。

### 【リニューアル・変更製品】

国際ルールの変更に伴い、栄養剤接続部分の形状が変更となりました。対応は臨床工学科へ依頼しました。

### 【JSPEN】

新型コロナ感染症流行のため、学会未となりました。

### 【その他】

来年度のNST活動は委員会としていくか課題が出され、検討しました。

（文責 清沢 幸江）

## 【給食委員会】

### 【年間目標】

給食委託職員と一緒に、患者食の美味しさ・食べやすさ・経済効果についてお互いに協力し合い、より良い物の提供を目指します。

### 【委員会と委託との合同ミーティング】

	第1回	第2回	第3回	第4回
委員会	5/31	9/6	12/1	3/2
合同	5/27	7/19	10/21	1/26

### 【内容】

給食委託	2年目・㈱日清医療食品
食事アンケート	4、7、11、2月実施
満足度推移	67.7%→64.1%→72.3%→66.7%
第三者による検食	1/17～2/13実施 事務・看護職員希望者による検食実施（自己負担）見た目・色彩・全体・味付け・メニュー内容について提案頂き検討、献立修正・調理の工夫等へつなげました。
お祝い膳	新型コロナ感染症＋出産後のお祝い膳として、デイスポ食器ではありますが、折り紙等も添え、お祝いの気持ちを込めました。
1皿のカレーライス	大病の為、食事摂取困難・明日転院定患者の希望を、病棟スタッフ～病院栄養士～委託職員のチームで対応し、喜んで頂ける食事を提供する事ができました。

（文責 清沢 幸江）

## 【化学療法管理委員会】

2021年度は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが収束せず、昨年度から引き続き対応に追われ、最新情報の入手が難しい状況が続いています。そこで、数ヶ月に1回程度、製薬会社MRによるWEBでの薬剤勉強会を委員会の中で行い、チームの知識力を向上する事で、安心安全ながん薬物療法へ繋げる試みを開始しました。

また、抗がん剤を扱うスタッフの職業性曝露対策を推進するため、経営赤字のため進めていなかったCSTD（閉鎖式薬物移送システム）の使用対象拡大について、具体的な検討を開始しました。

### 【WEBでの薬剤勉強会】

5/4	MSI-High（マイクロサテライト不安定性）固形癌に対する免疫チェックポイント阻害剤について
6/11	悪液質に対する新薬エドルミズ錠
7/9	膵がんに対する新薬オニパイド点滴
12/11	MSI-Highを有する切除不能・進行再発大腸癌の1次治療におけるキイトルーダ

### 【抗がん剤の安全な取り扱いについて】

今年度は、抗がん剤を扱うスタッフの職業性曝露対策のため、CSTDを「揮発性の高い薬剤」のみではなく「細胞毒性のあるすべての抗がん剤」へ使用対象を拡大するために具体的な検討を開始、機種選定の段階まで到達しました。

2019年度がん薬物療法における職業曝露対策ガイドライン改訂後、近隣病院での導入は進んでいましたが、経営赤字の続いていた当院での使用は躊躇われていました。購入許可となり、機種を検討している状況です。2022年度には、出来るだけ早く使用を開始したいと考えています。

### 【がん化学療法レジメンの整備】

新規に1種類のみレジメンを登録しました。

「切除不能進行・再発 MSI-High を有する結腸、直腸癌の1次治療におけるペムプロキシマブ」、「MSI-High を有する」とは、遺伝子DNAのミスマッチ修復機能に欠損があるため、DNAのエラーを修復出来ず、遺伝子変異が蓄積する結果、多くの遺伝子変異を持つことになることを意味します。

大腸がんに限らず、各固形癌の中の数%程度の患者さんが MSI-High を有していることが分かっています。StageIV（切除不能、進行再発）の場合は、抗がん剤治療への感受性が悪く、予後不良のため、多くの固形癌の場合、1次治療で標準治療の抗がん剤治療を行った後、病理検査で、MSI-High 固形癌であることが分かった場合は、2次治療で免疫療法が行われます。

大腸がんにのみ、今年1次治療の段階での免疫療法の使用が認められ、その根拠である KEYNOTE-177 試験の結果は、ペムプロキシマブ単剤 vs 標準治療（ペムプロキシマブのクロスオーバー可）において、無増悪生存期間中央値（16.5 ヶ月 VS 8.2 ヶ月）、1年無増悪生存（55% VS 37%）、1年生存率（77.8% VS 77.4%）、OS 中央値（未到達 VS 36.7 ヶ月）と目覚ましいものでした。大腸がんの場合は stageIVの場合、1-2%の患者さんが MSI-High を有しています。術後の病理結果により、薬物治療の選択肢が分かります。

### 【まとめ】

昨年度に続き、医師や外来スタッフが、発熱外来への対応、新型コロナウイルス感染症患者の入院受け持ち等の対応を行いながら、がん治療を行っています。新規情報等を得て、積極的に導入していく事は、困難な状況が続いています。しかし、一つ一つ出来る事を確実にやり、チーム力を養いながら、患者さん、ご家族にとって、安全、安心で安楽な治療が遂行されるよう努力していきたいと思います。

（文責 小野里 直彦）

## 【クリティカルパス委員会】

### 【概要】

当委員会は、新規クリティカルパスの作成推進と適用推進を促すことにより、医療の質の向上・業務の効率化を図ることを目的として運営されています。

### 【委員構成】

委員長：病院副院長

委員：看護部 3名  
 薬剤科 1名  
 検査科 1名  
 栄養科 1名  
 リハビリ科 1名  
 医事担当 1名  
 診療情報管理室 1名

	食物経口負荷試験（2種）
産科	正常分娩、帝王切開術（2種）、流産手術 産褥 COVID-19
婦人科	婦人科開腹手術、子宮頸部円錐切除術 腹腔鏡手術（2種）、子宮鏡下手術
泌尿器科	TUR-P、前立腺針生検、TUR-Bt 泌尿器小手術、内尿道切開術 開腹前立腺肥大症手術 根治的前立腺全摘除術

### 【おわりに】

病床機能や医療制度に対応したクリティカルパスの作成・整備を進めました。また各クリティカルパスに付随する「患者説明書」の作成を進めました。

クリティカルパス適用時に発生した問題点を委員会にて取り上げ、問題の解決を図りました。

（文責 津野 隆久）

### 【取り組み】

クリティカルパスの適用率29.5%でした。適用されたクリティカルパスは以下のとおりです。

内科	食道ESD、胃ESD、大腸ESD 内シャント造設術、腎生検、 大腸ポリペク（2種）、糖尿病 COVID-19（2種）、誤嚥性肺炎
外科	急性虫垂炎（2種）、単径ヘルニア（3種） 腹腔鏡下胆嚢摘出術、幽門側胃切除術 胃全摘術、結腸切除術、直腸前方切除術 痔核手術、乳房手術（3種）
整形外科	大腿骨頸部・転子部骨折、脊髄腔造影検査 大腿骨人工骨頭挿入術、抜釘
小児科	光線療法、正常新生児（2種） 一過性多呼吸、新生児低血糖 低出生体重児（2種）、早産児（2種） 巨大児、母子感染（2種） 成長ホルモン検査（2種）

## 【検査科業務委員会】

以下の11回定例会を開き、検査科業務についての提案及び改善を行いました。

### 【開催日と主な内容】

第1回 4月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度検査科業務委員会について</li> <li>・2020年度検査件数・支出、時間外検査件数について</li> <li>・新規項目導入について</li> </ul>
第2回 5月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度機器購入について</li> <li>・集談会報告について</li> </ul>
第3回 6月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本臨床検査技師会精度管理調査について</li> <li>・新型コロナウイルス検査遺伝子検査について</li> </ul>
第4回 7月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リンパ節生検でのフローサイトメトリー法のオーダー変更</li> <li>・血液ガス分析について</li> <li>・汎用PCR装置について</li> </ul>
第5回 8月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用PCR装置の導入について</li> <li>・心臓超音波装置導入について</li> </ul>
第6回 9月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用PCR装置の導入について</li> <li>・臨床検査技師のタスクシフト、シェアについて</li> <li>・県医師会制度管理調査について</li> </ul>
第7回 10月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部保健学科学生の実習について</li> <li>・保健所監査について</li> <li>・県医師会制度管理調査について</li> </ul>
第8回 11月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所立ち入り検査について</li> <li>・2022年予算提出について</li> </ul>
第9回 12月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外注検査項目について</li> <li>・UCG用サーバー更新について</li> </ul>

第10回 1月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度日本臨床検査技師会精度管理調査結果について</li> </ul>
第11回 3月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度検査科体制について</li> <li>・2022年度購入機器予算申請について</li> <li>・信州大学医学部保健学科学生実習について</li> </ul>

(文責 中林 徹雄)

## 【サービス向上委員会】

### 【活動目標】

- 1 患者・患者家族および職員からサービス改善のための意見、苦情を収集し対応する。
- 2 研修・院内全体で日々の取り組みを通して職員の接遇力の向上を推進する。

### 【活動報告】

- 1 あいさつ運動  
患者及び来院者と職員間での接遇向上を図るため、接遇の基本である「あいさつ強化」を8月から翌年3月まで第2週目に当番を設置し実施しました。
- 2 患者満足度調査  
6月、12月の2回実施しました。それぞれの結果に基づいて各部署で接遇目標を掲げ実施しました。集計結果および接遇目標は総合受付前に掲示発表や、運営会議への報告を行いました。
- 3 院内ラウンド  
6月25日、9月24日、11月26日、2月25日に4グループに分かれて、掲示物管理ラウンド、院内表示ラウンドを実施しました。  
掲示物の剥がれは直し、掲示期間切れは各担当に戻し、掲示場所以外の掲示物は撤収し、院内の壁の美化を目指しました。  
院内表示は、外来患者が迷わないように、新しく数字表記された案内などの確認を実施しました。

### 【接遇研修会】

動画を活用し、全職員対象に実施しました。

実施期間 11/15、11/16、11/19 2回/日、1時間/回 計6回実施	内容 ①Nursing Skills 「医療者にとって求められる基礎的マナー」を視聴 (あいさつ、身だしなみ、電話対応、所作、敬語、I・WEメッセージ) ②テスト・アンケート
対象者 院内全職員	
講師 奥山 美奈 先生 TN サクセスコーチング株式会社 代表取締役	成果 Nursing Skillを活用することにより、看護職は100%の参加率をえられました。また、回数を多くし時間帯をずらすことにより院内全体での参加率も96%とでした。 アンケートでは個々に自己の接遇に対する振り返りをし、研修での学びから自己目標を掲げ各部署長に提出しました。

### 【おわりに】

今年度は研修会に力を入れ出席率も高く、接遇に関する意識付けにつながる活動ができました。今後も、全職員が患者さんやご家族の気持ちに寄り添い、接遇の基本（笑顔・あいさつ・言葉使い）を常に実践できる風土を気づいていけたらと思います。

また、職員間でもあいさつ・コミュニケーションを良好にする事で自然に明るく信頼感の持てる職場環境作りにつながります。「笑顔あふれる明るい病院」今後も患者・家族・職員の満足が得られるように活動をしていきたいと思っています。

(文責 百瀬 久美)

## 【手術室運営委員会】

COVID-19の世界および国内流行により、手術制限などの対応を病院方針に基づいて行ないました。

### 【手術室運営委員会ミニ】

COVID-19の国内流行は2021年1月に第3波警戒レベル4、5と引き上げられ、当院ではパターンB、パターンE、パターンHへと移行しました。

手術制限、HCU使用制限せざるを得なくなり、手術室運営委員会は月例会の他に「ミニ」を毎週開催し、次週の予定、帰室病棟状況把握をするようにしました。

第3波が2021年2月に収束の様子を見せはじめ、3月25日にパターンBとなり、手術室運営委員会「ミニ」は一旦終了となりました。

しかしそれも束の間、第4波で5月12日より再び「ミニ」を開始することになりました。以後の経過は下記のとおりです。

	事象	「ミニ」
7月1日	パターンF	終了
8月	第5波	再開
10月1日	パターンF	終了
1月8日	第6波 パターンB	
2月	パターンH	再開
3月9日	年次総会	
3月25日	パターンF	終了

### 【COVID-19対応】

当院では「陰圧手術室」が無いため、COVID-19感染患者の手術は行なわないこととし、信大病院搬送を基本としました。しかし一方で大流行の場合には信大病院だけでは対応できない事態も考えられるため、マニュアル作成や改訂、シミュレーションを行ないました。

### 【術前検査】

手術室入室の全患者に対して入院時PCR検査、抗体検査等から順次抗原検査に移行していきました。

### 【取り組み内容】

帝王切開、腹膜炎を想定しました。帝切での新生児対応は小児科、夜間器械出しは医師などとしました。

気管切開は病棟陰圧室としました。また感染対策部門と協議しつつ随時改訂しています。

- ・使用手術室：R3で空調を止める。
- ・着衣：袖付ガウン（アイソレーションガウン）、ディスポエプロン、キャップ、N95マスク、フェイスシールド付サージカルマスク、手袋
- ・入室：術者、器械出し（状況により医師）、外回り看護師、麻酔科医。
- ・検査：X線撮影は麻酔科。
- ・入退室方法
- ・物品の出し入れ方法
- ・部屋、器材、機器の消毒方法

### 【手術枠】

手術室利用優先割当「2021年度版」として下記のとおりです。

- 月 午前婦人科全麻、帝王切開。  
午後泌尿器科。
- 火 整形外科。（原則他科は入れない）  
信大形成外科の局麻。
- 水 婦人科、産科。  
午後泌尿器科（全麻は要相談）。
- 木 外科。乳腺外科。
- 金 各科局麻。
- 他 脳神経外科、内科要相談。  
枠外手術、緊急手術は都度連絡。  
信大形成外科全麻は事前連絡。  
（金）に局麻、腰麻の手術を！。  
COVID-19蔓延中は全麻は基本2例まで。

#### 【その他】

- ・「WHO手術安全チェックリスト」の使用継続。
- ・不測の災害への対応：地震，停電，火災等の災害対策を推進。
- ・手術の確実かつ迅速化。
- ・術野感染予防。合併症発生確率減少。
- ・新しい手技、手術方法→倫理委員会。
- ・手術室退室から病棟までの医師同行。
- ・閉創前のガーゼ器械カウント。
- ・器械受け渡しのセイフティゾーンの設置。
- ・麻酔科不在時、信大麻酔科コール方法。

#### 【おわりに】

患者の安全確保のため、ご意見ご要望は何時でもお寄せください。

手術室運営での皆様のご協力、譲り合いに篤く感謝申し上げます。ありがとうございます。

(文責 小林 幹夫)

## 【情報システム委員会】

2020年3月に新版電子カルテシステムへの更新、本年までに一部を除き、システム安定稼働体制が構築されました。情報システム委員会は、2020年8月システム導入プロジェクトメンバーから常設メンバーへ縮小、さらに2020年12月コアメンバーに縮小しました。

コアメンバー会では、発生するシステム上の問題を吸い上げ共有し対応策について検討しました。

新型コロナウイルスの影響を受け、昨年7月に予定されていたSSIの導入時メンバーの再来院が未だ実現せず、行われる予定であったシステム構築および一部ハードウェア関連の更新が解決しない状態が続いています。

マスター管理に関しては、扱えるマスターの権限を絞り、また担当者を明確化することで部門システムは各担当者により管理できる体制を継続することができています。

各所で発生するシステム上の課題、要求に対する対応は情報システム担当者が集約し、ベンダーのSSIに問い合わせる体制をとり、継続してシステムが安定稼働できる体制を取ることができています。

(文責 吉澤 聖道)

## 【DPC委員会】

### 【目的】

当委員会は、DPC/PDPS（診断群分類別包括支払い）制度の周知や課題の解決を目的として設立されました。

### 【スタッフ構成】

委員長；診療部医師（外科）1名

委員；看護部1名、薬剤科1名、検査科1名、リハビリテーション科1名、臨床工学科1名、医事係1名、診療情報管理士2名。

### 【令和3年度の取り組み】

- ・DPC/PDPS運用における課題や成果について、3ヶ月に1度、計4回の委員会を開催し協議を行いました。
- ・DPC対象病院要件の「適切なコーディングに関する委員会」として、「部位不明・詳細不明コード」「未コード化傷病名」の使用割合等について検討を行い、最適化を行っています。  
…2021年度平均使用割合 「部位不明・詳細不明コード；4.26%」「未コード化傷病名；0.22%」
- ・「DPC/PDPS点数」と「出来高点数」を比較し、差が大きい症例は、コーディングの最適化を行っています。
- ・DPCデータ分析ソフト「girasol」を活用し、自院の分析や他病院とのベンチマークによる現状把握や課題の整理等を行いました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、学会等が自粛される中で継続して分析ができた点は、良かったと考えます。
- ・当院の「医療機関別係数」について分析を行い、「効率性係数」や「救急医療係数」の向上等に向けた対策の立案を行いました。
- ・DPC/PDPS制度に関する理解を深めるため、具体的な点数設定やDPC入院期間の考え方について確認を行いました。

(文責 神田 彬文)

## 【褥瘡対策委員会】

この委員会は院内における褥瘡対策を討議検討し、褥瘡が発生しないよう適切な体制を整備し、その効率的な推進を図ることを目的とした委員会です。

専従の医師・皮膚排泄ケア認定看護師・病棟看護師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師・管理栄養士が委員に選出され多職種で褥瘡対策に取り組んでいます。

### 【活動内容】

- ・褥瘡対策委員会 毎月1回
- ・褥瘡回診 毎月2回

褥瘡のある患者を各病棟から委員会メンバーがピックアップし回診しています。結果をDESIGN-Rで評価し治療方針・ケア方法を検討し評価しています。

また院内のマットレス使用状況を把握、体圧分散マットレスやエアーマットレスの配置管理を行い患者様の寝具環境を整えています。

### 【褥瘡発生件数】

3階病棟は感染症病床と一般床の混合のため、一般床からの転棟が多く、発生率が0と考えます。

回復期リハビリ病棟・地域包括ケア病棟に褥瘡発生が多い原因として、急性期からの早期転棟によることで長期寝たきりの状態の患者が多くなったこと、また褥瘡対策マットの耐用年数が長期にわたり過ぎていることも背景であると考えます。

当院は高齢患者が多く、褥瘡発生率が増加傾向にあります。今年度は、昨年度の17件から23件に増加しました。

今後は褥瘡発生が1件でも減るように、より一層マットレスの適正使用・ケアを進めるよう努力していきます。

2021年	3階病棟	4西病棟	回復期病棟	地域包括病棟
4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	2
6月	0	0	0	1
7月	0	0	0	0
8月	0	1	3	2
9月	0	0	0	0
10月	0	0	0	2
11月	0	0	1	3
12月	0	1	0	1
1月	0	0	0	1
2月	0	0	4	0
3月	0	0	1	0
合計	0	2	9	12
前年比	3→0	2→2	6→9	6→12

### 【にこにこ講座】

新型コロナウイルス感染防止のため中止中です。

### 【皮膚排泄ケア認定看護師活動】

- ・出前講座
    - 特別養護老人ホーム、ピア山形  
「褥瘡予防対策について」
    - 特別養護老人ホーム、ちくまの  
「褥瘡予防について」
- 皮膚排泄ケア認定看護師は、院内に限らず、特別養護老人ホームや介護施設に出向き講座を行っています。
- 専門知識をもって、地域の特徴や施設のニーズにあわせたケア方法などを広める活動を行っています。

(文責 藤田 直樹)

## 【生活習慣病予防委員会】

### 【目的】

地域住民の皆様への健康意識向上を目的とした教室企画開催する。

糖尿病を始めとする生活習慣病についての予防および悪化予防についての知識向上を図る。

### 【活動内容】

新型コロナウイルスの影響から2021年度の教室開催は中止としました。

#### 1 健康フェア

10月に血圧・血糖測定、栄養相談、健康相談を実施しました。

#### 2 糖尿病予防啓発活動

11月、世界糖尿病DAYにあわせて、正面玄関にブルーサークルを展示しました。

### 【おわりに】

生活習慣病予防委員会では、糖尿病教室や腎臓病教室を中心に、地域住民の皆様へ健康意識向上を図っています。

今後も地域の皆様への健康ニーズにあった話題提供や、健康意識を向上できる教室を企画していきます。

(文責 木村 順子)

## 【診療記録管理委員会】

### 【概要】

診療記録管理委員会は、松本市立病院における診療記録の質向上に向けて、診療記録に関わる諸問題について検討・討議することを目的とし、設置されています。

### 【委員構成】

副院長1名、診療部1名、看護部1名、医療技術部1名、医事担当1名、診療情報管理室2名で構成されています。

### 【令和3年度の取り組み】

退院時サマリーの退院後2週間以内作成率90%以上の維持に努めました。令和3年度の作成率は、96.7%でした。

入院カルテ記載率及び48時間以内の手術記録完成率の向上に努めました。

電子カルテ内「文書管理」の管理、および新規登録文書の承認、文書管理番号の付与を行いました。

令和2年度の新規登録文書について、使用状況の調査を行いました。

既存の文書をUDフォント(ユニバーサルデザインフォント)に変更しました。

「診療記録管理委員会規約」と「診療記録監査規定」について見直しを行いました。

診療録に対し「診療記録管理委員会監査」を実施しました。

新たに、毎月全医師対象とした「診療情報管理室監査」を開始し、診療録の質の向上に努めました。

(文責 津野 隆久)

## 【診療報酬適正委員会】

当委員会は、各診療科長、薬剤科長、副看護部長、計算センター並びに医事担当の15名により構成され、毎月開催の診療会議と同時開催し、次の事項について検討しています。

- ① 審査機関による返戻・査定事例の発表及び再発防止策について協議
- ② 科別診療報酬の請求状況
- ③ 診療報酬請求額及び返戻・査定額
- ④ 重点項目の推移

直近5年間の査定率は以下のとおりです。

- ・年度 総査定点数／総請求点数（査定率）
- ・2017年度 254,341／342,746,265（0.7%）
- ・2018年度 432,341／360,021,807（1.2%）
- ・2019年度 457,673／369,282,005（1.2%）
- ・2020年度 345,533／304,293,290（1.1%）
- ・2021年度 478,642／2,946,758,455（1.6%）

査定減の理由としては、不適當、過剰、適応外の順で多く、現場では必要な医療として実施した行為が、保険請求上のルールで認められないケースが多くあります。

審査支払機関は、レセプトコンピューターチェックが主流となり、適応・用法・用量等の審査及び、過去に遡った縦覧点検も容易に可能となり、その精度も上がっています。当委員会では、院内チェックシステムの構築と、審査結果を医師への周知すること、診療報酬に関する知識の発信力、それらを継続的に管理していけるよう活動しています。診療報酬に関する院内会議として、診療会議（不定期開催）、診療報酬改定に関わる説明会（年1回）を実施しています。

審査結果を精査し、正当な理由に基づく医療行為については再審査請求を行い、個別の事情を審査側に伝達する努力を継続しています。

また、複雑化する診療報酬請求について、診療報酬明細

書に必要な事項をいかに効率よく掲載し、レポート返戻を防ぎ、病院の事務負担軽減に努めていくことも重要です。事務部門、株式会社ニチイ学館（一部業務委託）と協力しながら追求を重ね、院内の保険請求にかかる情報の共有及び適正な保険診療並びに保険請求の実現を目指して行きます。

今年度は、「新型コロナウイルス感染症の流行に伴う臨時的な取り扱い」への対応に研究を重ねた1年間でした。対応項目「発熱外来に関する院内トリアージ加算」「二類感染症患者入院診療加算(外来)、(宿泊、自宅療養)、(往診等)」「介護医療員等または介護老人福祉施設の陽性患者対応」「新型コロナウイルス感染症後方支援に関する診療報酬」「新型コロナウイルス感染症ワクチン接種関連の診療報酬」等。

（文責 黒河内 顕・神田 彬文）

## 【透析機器安全管理委員会】

### 【目標】

血液透析に関する水処理装置、透析液溶解装置、透析液供給装置、透析監視装置に関わる設備の安全管理を図り、透析液の清浄化に努め長期化する透析治療における合併症予防と透析液の製造管理を維持し安全確保を目標とします。

透析液水質基準2016に準拠し、より安全な透析療法を提供を持続します。

### 【業務実績】

例年と同様「透析液水質確保加算」の施設基準を維持でき透析液清浄化（エンドトキシン活性化：0.001EU/ml未満（検出感度未満）、生菌数：0.1CFU/ml未満）を維持しています。透析液培養検査での生菌数とエンドトキシン測定は毎週月曜日に実施し、委員会にて報告しています。年間を通して問題はありませんでした。コンタミが原因と思われるエンドトキシン検出例が2件ありました。

生菌やエンドトキシンが検出された場合は治療を中止する必要があるため、無菌的な検体採取と検査は技術を要し時間が掛かる重要な責任ある業務となっています。また、委託業者により透析液原水である水道水、RO水の水質検査を実施しており問題はありませんでした。

今年度は透析装置を更新購入することはできませんでしたが、多人数用透析液供給装置(DAB-70Si)更新しました。

在宅血液透析患者について、個人宅へ設置された機器については年2回のフィルタ交換等を実施しています。

院内設置装置についてはDCS-100NX：5台、DCG-03：4台、DBB-100NX：2台の計11台のOHを実施しました。

7月にはRO装置と透析液溶解装置のOHを実施しています。

今年度の透析装置メンテナンス数は223件で、定期

的なETRFフィルタ交換やメンテナンスを適宜実施し、より安全に使用できるよう日々取り組んでいます。

### 【おわりに】

今年度は水質に関するトラブルは特にありませんでしたが、1月にはRO装置付随の加圧ポンプ部品に亀裂が入り漏水ありました。購入後17年経過しているため早期に更新購入必要であるが、予算や新病院移転新築との兼ね合いもあり検討が必要となっています。

毎年の課題ですが、装置管理に関して人員、時間確保の問題でOH開始時期が遅れています。また、各装置の老朽化や透析排水の基準遵守など問題もあるため継続して計画を立て実施していきたいです。

2022年度も引き続き、安全管理に重点を置き活動していきたいと思っています。

(文責 安部 隆宏)

## 【防災委員会】

当院においては、年2回の定期的な防災訓練を実施しています。

2021年度は第1回防災訓練を7月29日(木)に、第2回防災訓練を12月16日(木)に、新型コロナウイルス感染症予防のため防災委員と新入職員等の参加とし、規模を縮小して行いました。火災が発生したことを想定して訓練を行い、訓練用消火器を使用しての消火訓練も行いました。第2回は、模擬患者も想定して行いました。

本年度も昨年と同じく、松本広域圏医療救護訓練は中止となりました。

また、シェイクアウト訓練を2022年3月11日(金)の朝9時に実施し、患者と職員が参加しました。

本年度も防災設備の問題点を把握し改善するために院内巡視を実施するとともに、消防法に基づく防災点検表を各部署に配置し、定期的な防災点検を行いました。

訓練を継続して行うことにより、地域の方々に災害時にも安心して医療を受けていただけるよう努めていきたいと思ひます。

(文責 村上 幸子)

## 【薬事審議会】

2021年度の薬事審議会は、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた1月に1回のみ開催しました。仮採用9品目を採用とし、採用品2品目で錠剤を剤形追加しました。

仮採用品については、時間の都合もあり確認のみ行いました。来年度には本採用にするか検討を行っていききたいと思ひます。

抗生物質の見直しの検討を行いましたが、削除できる薬剤がないことで承認されました。

今後も採用品目を適切に見直していききたいと思ひます。

(文責 村上 幸子)

## 【教育研修委員会】

「全職員が病院の理念に基づき、現代の医療水準に則った医療が提供できるよう研鑽を積める環境を整えると共に、院内外で研究・業績の発表ができるよう推進する」を目的に活動しています。

### 【スタッフ】

桐井靖、佐藤吉彦、大島千佳、中林徹雄、田原勇一。  
毎月第2火曜日、7：30より定例会。

### 【主な活動】

- 1 院内集談会の企画・運営。
- 2 新入職員オリエンテーション。
- 3 病院職員として必要な研修を適宜企画し、実施する。
- 4 院内図書の購入、整理、紹介。
- 5 学会発表の促進：情報の提供、演題の選考（推薦）
- 6 その他、院長が必要と認めるもの。

### 【新入職員オリエンテーション】

4/1と4/4に事務部に協力する形で参画しました。心構えから具体的な事務手続きまで多岐にわたる内容をフレッシュアズブックにまとめて、各部署より講師を招きオリエンテーションしました。

### 【図書の管理と選定】

年末に希望図書と購読雑誌の希望を募り選定しています。オンラインサービスはほぼ支障なく提供できる環境となりました。

年度途中の図書購入希望は毎月の教育研修委員会で審査し可能な限り希望に沿って購入しています。

### 【研修会の一元管理】

研修管理システムを活用した研修会の周知と出席管理が最終的に目指すところです。業績の登録や書籍購入依頼などもネットワークでの一元管理が理想です。特に業績・実績登録は勤務評価との連動を睨んでオンライン登録を整備します。受講認証の整備など院内DXの整備も必要です。

### 【院内集談会】

2/26、第34回院内集談会を新棟会議室とオンラインのハイブリッド形式で行ないました。12演題の発表と医学講話が行なわれました。審査員9名の採点と参加者29名（ZOOM含む）による投票で、科学、デザイン、努力の3賞が認定され互助会から図書券を授与しました。

コロナ下で発表の機会の少ないこともあり、貴重な機会に各部門から質の高い演題が発表され有意義な集談会となりました。この中から全国学会への発表も推薦して発表していく予定です。

医学講話は澤木章二フレイルセンター長に座長をお願いして、整形外科清水政幸先生より「フレイルについて」ご講演を頂きました。今後の当院での重点医療となるフレイル外来について基本からご講演頂き皆の理解が深まりました。

### 【コロナ下の教育研修】

今年も窮屈な研修環境のなかで、各々が自己研鑽に頑張られたことと思われまます。溜まった鬱憤を晴らすべく今後再開されるであろう対面の勉強会に積極的に参加しましょう。病院からの参加補助も規定があるのでご利用ください。院内でも内容の濃い勉強会が随時行なわれています。集談会をはじめ、皆さまご参加をよろしくお願いいたします。

（文責 桐井 靖）

第34回 松本市立病院 院内集談会 プログラム

- 1 開会 (9:00~)
- 2 教育研修委員長あいさつ ~令和3年度学会発表・投稿等実績報告~
- 3 講演

第I部 個別発表

第1群 9:10~10:10 座長:看護部・塩原看護師長

コロナ禍における包括ケア病棟の役割を考える~看護師の視点から~  
外来新体制の取り組み~看護師の立場から~  
寝床環境の重要性  
当院における院内助産開設への取り組み  
糖尿病チームの活動と取り組み症例  
チーム医療に事務職員はどう関わるのか~外来新体制の取り組みからの考察~

5階病棟 向山 三代  
外来 古畑 薫子  
外来 竹内 亜矢子  
4階西病棟 曾根原 亜由美  
DMチーム 小林 真由美  
病院総務課 神田 彬文

第2群 10:20~11:20 座長:医療技術部・中林技師長

意欲を高める応用行動分析の実践  
Hyperventilation の実施方法にて脳波に有意な差が見られた小児欠伸てんかんの症例  
レムデシビルによる悪心・嘔吐の副作用状況について  
COVID-19 陽性患者のCT検査数と発熱外来CT装置について  
COVID-19 陽性患者に対する透析経験  
保険適用になった遺伝性乳癌卵巣癌症候群BRCA遺伝学的検査への取り組み

リハビリテーション科 妹尾 ますみ  
検査科 下平 美智子  
薬剤科 赤羽 香穂  
放射線科 清沢 裕章  
臨床工学科 赤羽 颯  
外科 高木 洋行

第II部 講話

11:20~11:50 座長:院長補佐 澤木 章二 先生  
演題 「フレイルについて」 講演:整形外科科長 清水 政幸 先生

- 4 講評
- 5 閉会 (12:10終了予定)

【令和3年購入図書一覧】

検索サービスおよび雑誌

	医書. Jp	
	メディカルオンライン	
	Up To Date	
	医中誌Web版	
小児科	The Journal of Pediatrics	elsevier
総合診療科	Lancet	elsevier
麻酔科・総合診療科	New England Journal of Medicine	nejm
整形外科	Journal of Orthopedic Science	springer verlag tokyo
整形外科	日本整形外科学会雑誌	日本整形外科学会
産婦人科	周産期医学	東京医学社
内視鏡（内科）	消化器内視鏡	東京医学社
外科	消化器外科	へるす出版
総合診療科	救急医学	へるす出版
内科	腎と透析	東京医学社
薬剤科	月刊薬事	じほう
薬剤科	Rp+（レシピプラス）	南山堂
検査科	MEDICAL TECHNOLOGY	医歯薬出版
看護部	看護	日本看護協会出版会
手術室	オペナーシング	メディカ出版
感染対策	INFECTION CONTROL（増刊号のみ）	メディカ出版
4階東病棟	リハビリナース	MC メディカ出版
5階病棟	月刊DAY お役立ちツールDVD付	QOL サービス
医事	病院羅針盤	
	Journal of Bone and Joint Surgery	jbjs usa
	今日の診療 イントラネット	
リハビリ	理学療法	メディカルプレス

図書

医療秘書	病気がみえる 最新刊	メディックメディア
医療秘書	薬がみえる 最新刊	メディックメディア
医療秘書	診察と手技がみえる 最新刊	メディックメディア
薬剤科	治療薬マニュアル 2022	医学書院
薬剤科	今日の治療薬 2022	南江堂
薬剤科	サンフォード感染症治療ガイド 2021	ライフサイエンス社
薬剤科	レジデントのための感染症診療マニュアル 第4版	医学書院
薬剤科	がん薬物療法における職業性曝露対策ガイドライン 2019	金原出版
産婦人科	産婦人科専門医のための必修知識 2020 年版	日本産婦人科学会
産婦人科	生殖医療の必修知識 2020	日本生殖医学会
総務	令和4年版 国家公務員 給与のてびき -その仕組みと取扱い-	人事行政研究所
総務	令和4年版 別冊・国家公務員 給与のてびき -主要俸給表の基準と沿革-	人事行政研究所
内科	Endo-skil update 2020	日本メディカルセンター
内科	今日の治療薬 2021	南江堂
内科	今日の治療指針 2022	医学書院
内科	胃癌治療ガイドライン 2021年7月改訂	金原出版株式会社
内科	胆道癌取扱い規約 第7版	金原出版株式会社
内科	膵癌取扱い規約 第7版増補版	金原出版株式会社
内科	消化器疾患最新の治療 2020-2021	南江堂
内科	かとしゅん流 IBD 診療 秘伝 108 の極意	秀潤社
	長野県医療名鑑 (2022 年度版)	医療タイムス社
	その他 (R3 年度購入額)	

年度途中希望購入図書

検査科	原美紀子	胆道癌取扱い規約第7版	金原出版	4,290	病理	R3.10.12
検査科	原美紀子	甲状腺取扱い規約第8版	金原出版	3,740	病理	R3.10.12
検査科	原美紀子	GIST 診療ガイドライン3版	金原出版	3,080	病理	R3.10.12
診療部	丸田大貴	研修医当直御法度 第6版	三輪書店	3,080	医局7	R3.12.14
診療部	丸田大貴	内科救急診療指針 2016	総合医学社	8,800	医局7	R3.12.14
診療部	丸田大貴	レジデントのためのこれだけ輸液	日本医事新報社	4,620	医局7	R3.12.14
診療部	丸田大貴	救急外来ただいま診断中!	中外医学社	7,040	医局7	R4.2.7
診療部	丸田大貴	症状と患者背景に合わせた頻用薬の 使い分け第3版	羊土社	3,960	医局7	R4.2.7
診療部	丸田大貴	診察と手技が見える vol.1	MEDIC MEDIA	6,600	医局7	R4.2.7
訪問	塩原由理江	完全図解介護予防リハビリ体操大全集	講談社	4,180	訪問	R4.2.7
検査科	原美紀子	精巣腫瘍取扱い規約第4版	金原出版	4,400	病理	R4.2.7

## 【輸血療法委員会】

当委員会では「安全かつ適正な輸血療法」が施行されるよう、委員長：黒河内医師（外科）を中心に、看護師6名、薬剤師1名、事務1名、検査技師2名の計11名にて、毎月1回委員会を開催し、検討を行っています。

### 【検討事項】

- ・輸血施行時の手順、管理
- ・輸血事故報告、対応
- ・副作用、合併症の把握と対応

### 【活動報告】

- ・勉強会開催

第1回 2021年8月25日（水）

「輸血製剤の種類と取り扱い方」

講師：輸血療法委員

### 【輸血療法報告 括弧内、2020年度】

1 輸血患者数：104名（104名）

（自己血輸血含む、月の重複患者は省く）

#### (1) 製剤使用実績

RBC	384単位(392)
FFP	40単位 (36)
PC	110単位 (20)
自己血	40単位 (31)
ALB製剤	64瓶 (83)

#### (2) 適正使用

FFP/RBC	0.10
ALB/RBC	0.64
副作用報告件数	16件 (12)
発熱	1件 (2)
悪寒・戦慄	1件 (0)
熱感・ほてり	1件 (0)
掻痒感・かゆみ	4件 (0)
発赤・顔面紅潮	0件 (0)
発疹・蕁麻疹	2件 (0)

呼吸困難	1件 (1)
吐気・嘔気	1件 (1)
胸痛・腹痛・腰背部痛	1件 (0)
頭痛・頭重感	1件 (1)
血圧降下	0件 (1)
血圧上昇	1件 (1)
動悸・頻脈	1件 (1)
血管痛	1件 (1)
その他	0件 (2)

重篤副作用はありませんでした

#### (3) 輸血前後感染症検査

輸血前検査	77名 (64)
輸血後検査	41名 (34)

#### (4) 輸血後感染症検査実施率 63.1%

輸血による感染の報告はありません。

#### (5) 抗体スクリーニング検査 594件

不規則抗体陽性件数	14件
陽性率	2.3%

#### (6) 検出抗体名

抗E	7件
抗C	2件
抗c	1件
抗Lea	1件

#### (7) 製剤破棄単位数

RBC	24単位 (5.9%)
FFP	4単位 (9.1%)
PC	なし

### 【おわりに】

長期化する新型コロナウイルス感染による一診療制限の影響を受け、輸血製剤使用数は減少、廃棄率は増加となりました。

来年度も患者様に安全かつ適正な輸血医療が提供できるよう、院内運用改善、職員の知識・技術向上を目指し、情報提供・研修会活動等を充実できるよう尽力します。

(文責 原口 育美)

## 【倫理委員会】

令和3年度は、倫理委員会を8回開催し、計12件について審査の結果、全ての申請が承認されました。

### 【委員会開催状況】

第1回 令和3年4月13日	
臨床研究	「新型コロナウイルス感染症患者の臨床特徴を明らかにする」
提案者	診療部 伊東 哲宏
審査結果	承認
第2回 令和3年5月18日	
臨床研究①	「おたふくかぜワクチン接種後の副反応に関する全国調査」
提案者	診療部 中田 節子
審査結果	承認
医薬品対応 外使用	対象医薬品「アクテムラ点滴静脈注用」
申請者	診療部 澤木 章二
審査結果	承認
第3回 令和3年6月22日	
臨床研究①	「当院における入院患者のフレイルに關与する因子の検討」
提案者	診療部 清水 政幸
審査結果	承認
臨床研究②	「フレイル健診の有用性の検討」
提案者	診療部 清水 政幸
審査結果	承認
臨床研究③	「保存期慢性腎臓病患者の身体活動量と心理・社会・環境因子との関連」
提案者	診療部 赤穂 伸二
審査結果	承認
第4回 令和3年7月20日	
院内製剤臨 床使用	対象製剤「モーズ軟膏」

申請者	診療部 高木 洋行
審査結果	承認
第5回 令和3年8月24日	
臨床研究①	「データベースを用いた国内発症小児 Coronavirus Disease 2019 症例の臨床経過に関する検討」
提案者	診療部 中田 節子
審査結果	承認
臨床研究②	「プロバイオティクスによる体調の維持に関するランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間比較優越性試験」
提案者	診療部 中村 雅彦
審査結果	承認
第6回 令和3年10月5日	
臨床研究	「松本市周辺地域在住の成人を対象としたメンタルヘルスに関する横断研究」
提案者	診療部 中村 雅彦
審査結果	承認
第7回 令和3年12月1日	
臨床研究	「新型コロナワクチンに対する病院職員の意識調査-インフルエンザワクチンへの意識との比較から-」
提案者	感染対策室 池田 美智子
審査結果	承認
第8回 令和4年1月25日	
臨床研究	「ペプチドが成人のメンタルヘルスへ及ぼす影響に関するランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間比較優越性試験」
提案者	診療部 中村 雅彦
審査結果	承認

(文責 豊原 広幸)

## 【病院の質向上委員会】

当委員会は2018年4月に「病院の質、医療の質、安全の質、サービスの質」の向上を目的として設置されました。

### 【Q I 報告】

各部署より抽出されたクオリティ・インディケータ(Q I)を以下の8項目に分類して、現在は85項目148個のQ Iについて毎月報告しています。

項目1	病院・医療 全体関係	地域との連携、疾患、症例など病院全体に関する項目
項目2	患者 サービス 関係	入院・外来患者、ドック健診に関するサービス、食事や満足度の項目
項目3	医療安全 感染対策	医療安全管理や感染対策管理に関する項目
項目4	職員関係	職員の安全衛生、働き方などに関する項目
項目5	検査関係	放射線検査、臨床検査等に関わる項目
項目6	チーム 医療関係	褥瘡対策等チーム医療で取り組みをしている項目
項目7	各部門 関係	診療部・看護部・医療技術部等、部門に関する項目
項目8	委員会 関係	輸血・薬剤・診療科・地域連携に関する項目

毎月集計されたQ Iは当委員会から管理、運営、診療の各会議へ報告して、院内へ周知すると共に項目ごとにPDCAサイクルを回しています。

### 【委員】

副院長、診療部長、看護部長、医療技術部長、医療安全管理者、感染管理認定看護師、診療情報管理士、QM(クオリティーマネジャー)

### 【院内広報誌の発行】

院内外のイベント情報、報告、新規採用者、お知らせを毎月広報してきましたが、コロナ禍においてイベント中止、延期から掲載項目が少なくなっていました。

### 【患者満足度調査の実施】

病院利用者様に対し今年度は上半期(6月)、下半期(12月)の2回、以下の調査を実施し、頂いた評価から各部署における次期目標を立て、院内共有すると共に、病院利用者様へ公開しました。

- ・外来患者満足度調査
- ・入院患者満足度調査
- ・産後患者満足度調査
- ・透析患者満足度調査
- ・食事満足度調査
- ・手術後患者満足度調査
- ・ドック健診受診者満足度調査
- ・コロナ入院患者満足度調査

### 【職員満足度調査の実施】

コロナ禍での3年連続の実施でしたが回収率は88.3%と高く、沢山の職員の想いが寄せられ、また多くの課題の他、検討事項が抽出できたものと思います。

### 【院内イベントの企画、協力】

花いっぱい運動 (6月・10月)	プランター設置、回収、花壇整備、片付を行いました。
あいさつ運動(玄関)	職員、来院者様に向け早朝に玄関、通路にて行いました。
コンシェルジュ業務	総合受付にて来院の皆様への対応に当たりました。
バレンタイン ホワイトデー企画	今年度は職員から寄付を募り、足長育英基金へ募金をしました。

#### 【新人交流会の開催】

2019年(1～12月)に入職した職員の交流会を14名の参加のもと、2月に開催しました。職種は異なりますが、同期という認識が生まれ参加者から嬉しい評価を頂きました。

#### 【5年会の開催】

入職5年目の職員10名が参加して、中村院長と直接意見交換を行う会を開催しました。普段院長と対面で話す機会の無い職員が多い中、日頃の自分の考え、当院や業務に対する想いなど多くの発言が有り、有益な時間を設定できたものと思います。

#### 【ワールドカフェ】

今年度はコロナ状況を鑑み中止としました。

(文責 藤牧 久芳)

## 患者満足度調査 年度別集計

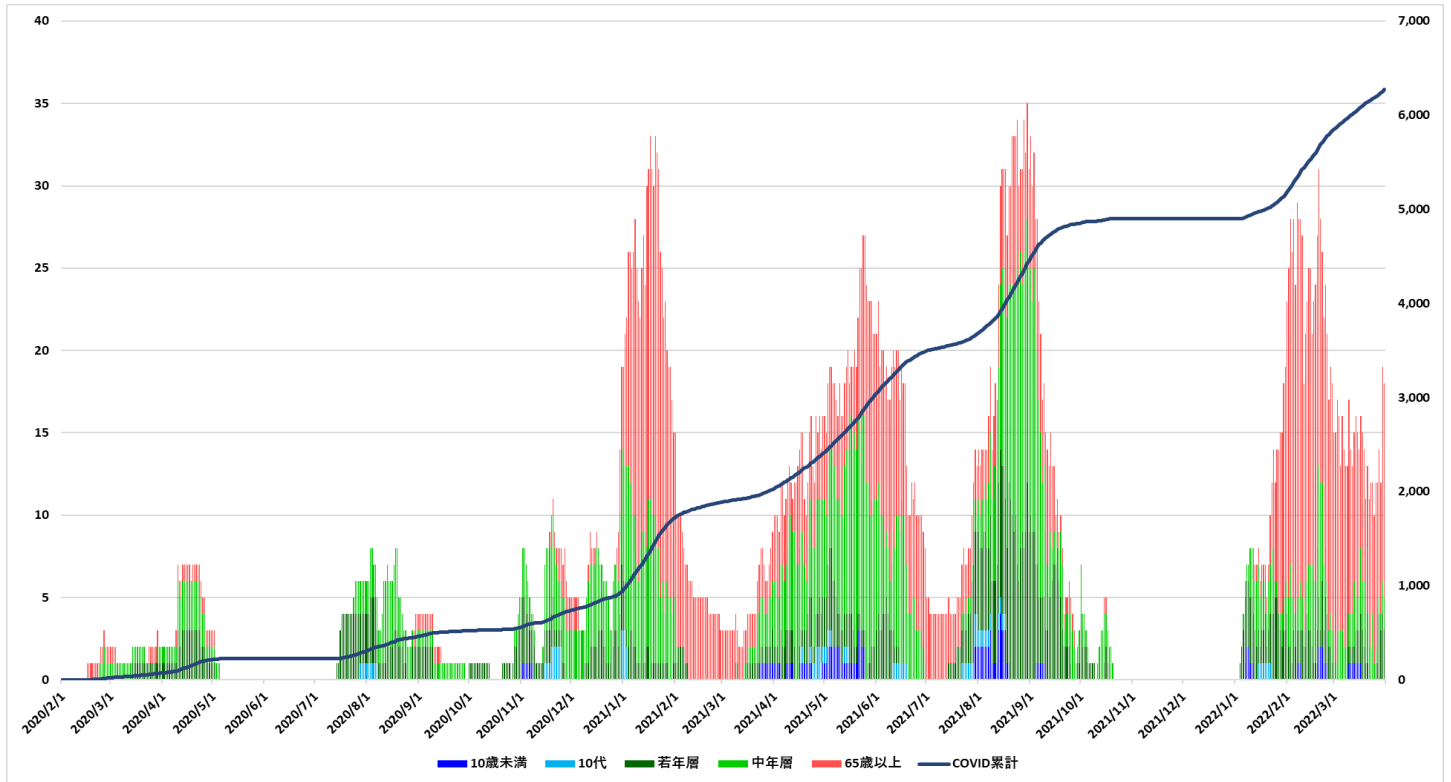
	対象者	実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度		2020 年度		2021 年度			
		実施月	10月	7～ 10月	7～ 8月	10月	2月	8月	11月	6月	12月	
1	外来患者	満足度 (%)	73	76	82		86.7	93.5		89	85.8	
		回答者数 (人)	403	397	353		492	500		464	498	
2	入院患者	全体満足度 (%)	76	77	83		89	96.7		92.2	100	
		満足度 3F (%)					100	96		100	100	
		4FW (%)					88	95		90	100	
		4FE (%)					78	91.7		81.8	100	
		5F (%)					88	100		97.4	100	
		回答者数 (人)	67	121	107		120	114		96	119	
3	産後	全体満足度 (%)				96	96.7	95.4		93.1	95.5	
		初産 満足度 (%)					100	100		86	100	
		回答者数 (人)				50	29	23		29	23	
4	ドック 健診受診者	満足度 (%)		83	86		96.5	91.4		95.4	97.3	
		回答者数 (人)		101	97		166	176		195	243	
5	透析患者	満足度 (%)		82	77		90.7	85		91.4	83.7	
		回答者数 (人)		60	48		48	41		37	51	
6	手術後	月		(12月)	(12月)			(8月)	(11月)	(6月)	(12月)	
		満足度 (%)		96	98.7			96.2	99.3	95	97.9	
		回答者数 (人)		17	23			13	22	30	32	
7	入院患者 食事	月		10月	(8月)	(11月)	(2月)	(7月)	(10月)	(4月)	(7月)	
		満足度 (%)			3段階 評価	61.4	75	63.2	68.4 (委託 開始)	61.4	67.7	64.1
		回答者数 (人)				104	137	71	57	57	31	40
		月							(1月)		(10月)	(1月)
		満足度 (%)							75		72.3	66.7
		回答者数 (人)							32		47	33
8	コロナ感染 入院患者	月						11月24日 ～2月26日		11月24日 ～10月20日		
		満足度 (%)						82.1		92.9		
		回答者数 (人)							31		132	

※回答者数=有効回答のみ。

※満足度=(満足+ほぼ満足) / (満足+ほぼ満足+どちらでもない+やや不満+不満足) ※無回答を除く。

# 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症 資料

①COVID-19 延べ入院患者数 期間：2020/2/16～2021/3/31 累計：6,272 名



②発熱外来患者数 期間：2020/4/20～2021/3/31 累計：12,156 名

